

債を拂ふ爲に、私はどうしたらいいのでせう、負擔は大したものになりました。私は出發しました。そして、魂の中に死を持つて來たのです。私は外國に信用をおきません。寧ろ、外國の精神的影響は、非常に悪いものだと思つてゐます。只一人ほつちで、食べるものもなく、私と放浪的生活を、子供らしい喜びをもつて、共にすることを望んでゐる若い女と一所にゐるのです。然し、私は、此子供らしい喜びの中には、多くの無經驗と、原始的な情熱のあることを認めました。そして、其は大變私を悩まし苦しめてゐます。アンナ、グリゴリエヅナ(譯者曰、ドストイェフスキの外國に亡命する前に結婚したる第二の妻の名なり。)は、私と一所に、一人ほつちでゐて、悲觀はしまいかと恐れてゐました。何故と言つて、今日に至るまで、我々は一人ほつちだからです。私は自分自身を信じてゐませんでした。私の性は病的で、彼女が私と一所にゐて苦しむだらうと思つてゐました。(御注意、實際を言ふと、アンナグリゴリエヅナは、私が判じ、豫期してゐたよりも、もつと強く、もつと深い精神を持つてゐました。そして、多くの場合に、私を保護する天使でした。然し、同時に、彼女には三十代に相應した多くの子供らしい性質、美しくして、自然と必要なものがあります。然し、それに應ずべき力と能力を、私は殆ど持つて居ません。凡べてこれは、私の出發した際に心に浮んだことです。私は繰り返し申しますが、アンナ、グリゴリエヅナは、私の思つてゐたより一層善良ですけれども、それでゐて、私は氣分が落ちつかないのです。)最後に、我々の財産が少しばかりなので、私は恐れてゐます。我々は、極く少しの金で出發しました。カトコフに、三千ルウブル、前借として借りたのです。實際ですが、外國へ着くと直ぐ

私は仕事をし始めやうと思ひました。そして、それがどうなつたかと言ふに、私は、何にもしなかつたし、今でも何にもしてゐたいのです。そして、殆ど、今は眞面目な決定的な態度で、仕事を始めてはなりません。實際、私が何にも書かないと言ふことに關しては、私は尙、疑かつて居ります。何故と言ふに、私はほんの少し感じて、澤山のことを想像してゐたのです。然し、書いたものは殆どありません。白いものゝ上に、黒いものが殆どありません。然し、決定的なものは、白い物の上の黒いものではありません。何故と言つて、今では、それにのみ、金を拂つてゐるのですから。

此退屈なベルリンを速かに去つて、(そこで一日過しましたが、退屈な獨逸人は、私を怒らせて了つた程、私を弱らせることに成功しました。そこで、私はロシアの湯に行きました。)我々はドレスデンに行き、そこに、數日滞在しました。

その印象は、非常にをかしたものでした。私は直ちに、疑問を呈出しやうと思ひます。何故、私はドレスデンに行つたか、正しくドレスデンに行つて、外の所に行かなかつたか。又、何故、一つの場所ですべての物と離れ、他の場所に来なければならなかつたか。その返事は、はつきりと呈出されません。(私の健康と負債其他の爲めです。)然し、悪いことは、我々がどこに生活してゐるやうとも構はない、ドレスデンでも何處でも無關係だ。私は外國至る所で、自分の祖國から離れてゐるのだと言ふことを餘りにはつきりと感じすぎてゐることです。私はすぐに著作にかゝらうと思ひましたが、私は全然働くことは出來ない。印象は全然違つてゐると感じました。それでは、何を私はしたのでせうか。私は、つまらなく

暮しました。私は読みました、ほんの少し書きました、私は悲観に苦しみました、それから、暑さに苦しみました。單調に過ぎてゐます。アンナと共に、大公園で晚餐を認めた後、散歩し、音楽をきくに行きます。それから、本を読み、寝て了ふのです。私は、アンナ、グリゴリエヴナの性格に、昔風の眞面目な性質のあるのを見出しました。(そして、それは私に非常に優しく非常に、面白く思はれます。)例へば、彼女にとつて、あるつまらない都會のホテルを調べに行つたり、それを記入した、描寫したりすることは、全部の仕事です、それは彼女が速記の記號で書くのです、そして、斯様にして彼女は七冊の手帳を満しました。然し、彼女を専心せしめ、彼女を最も感動せしめたものは、美術陳列所です。そして、私はそれを喜んでゐます。何故と言つて、彼女の魂の中には、彼女が退屈してゐる爲に、餘りに多くの印象が呼び起されてゐたのですから。彼女は毎日、陳列所に行きます。我々は、どれ程、あらゆる我々の友や、サン、ペテルスブルグや、モスコウや、あなたのことや、アンナ、イヴノヴナ、のことを話したことでせう。それは、少し悲しかつたのです。

私はあなたに、私の思想を描くことは出来ません。私は餘りに多くの印象をうけて居ります。私はロシア新聞を読みました。それは私を休息させてくれました。私はとり／＼、ロシアの歐洲に對する關係と、ロシア社會の上層階級に就いての論文を書く丈の十分の豫備をしたやうに感じました。然し、それを話さないで下さい。獨逸人は私を弱らせてゐます。我がロシア生活、我が上層階級の生活、及び彼らの歐洲と文明する信用も私を弱らせてゐます。バリエイの事件は、恐ろしく、私を動揺させました。(譯

者曰、アレクサンドル二世にペレソフスキイが危害を加へんとした事件を言ふ。)『ボオランド萬歳』と叫ぶバリエイの辯護士は大したものです。ふん、何と言ふ醜い、何と言ふ馬鹿々々しいことでせう。歐洲が我々を知らない。もしくは、我々の不利益になることで我々を知つてゐると言ふことは、我々にとつて、部分的に利益であると、斯言ふ私の最初の考を、益々深くしました。そして、「ペレソフスキイの訴訟の詳細。何と言ふ悪い官僚主義でせう。然し、重大なることは、主要なことは、彼らは如何して一切を發表しないのか、一切のことが如何して、尙一つ場所、同じ場所に起つたかと、考へることで

す。

ロシアは、こゝにゐると、一層明瞭に見えます。我國の改革の始に當つて、裁判上の改革のみを考へても、民衆が、思ひがけない成熟と、同じやうな能力を示したことは、著しき事實です。そして、同時に、オレンブルグで、警察署長から、第一流の商人が、鞭でうたれたと言ふ報せがありました。人々は、下の只一事のみを感じます。即ち、ロシア民衆は、その恩惠者と改革の御陰で、よいにも悪いにも、事件に馴れ、自分一人で己れを観察するやうな状態に立ち至つたと言ふことです。そして、それこそ大切なことです。私はあなたに誓つて申しますが、今こそ、ペートル大帝の時よりも、一層主要な改革、變動の時機なのです。鐵道はどうなつたでせう。我々は出来る丈早く南方に下らなければなりません。(譯者曰、ボスフランス及びコンスタンチノブに下ることを指す。)これが非常に大切です。それから、公正なる正は至る所にあります、何と言ふ大革命でせう。(こゝでは、人々は見てのことを考へてゐます。そ

れを夢みてゐます。是ら一切のことが心臓を鼓動させます。こゝで、私は殆ど誰にも會ひません。然し偶然に、誰かに會はないことは、不可能です。獨逸では、常に外國に住んでゐるが、毎年、三週間ロシアで過しに歸つて、収入を受けとり、全く獨逸人化した妻と子供のゐる獨逸に歸つてくる一ロシア人に會ひました。私は就中、彼に、何の目的があつて本國を離れてゐるのかと聞きました。彼は、本でもよむやうに、(怒りつほい無禮を以て)迎へました。

——こゝには、文明があります。我國には、野蠻があります。それから、こゝには、國籍と言ふものはありません。昨日、私は、汽車にのりました。そして、あるフランス人を、イギリス人が、ドイツ人を見わけることが出来ませんでした。

——それぢや、あなたの考では、それが進歩なのですか。

——勿論、全くさうです。

——然し、あなたはそれが全く偽りであるとは御存知ありませんか。フランス人は、何よりも以上にフランス人です。イギリス人はイギリス人です。そして、彼らの最高の目的は、自分自身になり切つてゐると言ふことです。のみならず、そこに、彼らの力は存するのです。

——それは、全く違ひます。文明は、一切を平等化しなければなりません。そして、我々がロシア人であると言ふことを忘れた時の外は、幸福ではありません。あらゆるものが、他の人々に似るやうになる時の外は、幸福ではありません。あなた達はカトコフに耳を傾けてはゐられませんか。

——それぢや、あなたはカトコフが好きではないのですね。(譯者曰、ルスキイ、ギユストニクの編輯者。)

——彼は卑怯者です。

——何故です。

——彼はボオランド人を愛さないからです。

——彼の雜誌を御よみますか。

——否、私は決してそれをよみません。

私は此會話をそのままそつくり書きました。此男は、若い進歩主義者ですが、それで、凡てのものから、身を遠けてゐるやうに思はれます。外國にゐる一種の意地の悪るい卑しむべき小犬に變つて了ふのは不思議です。——(譯者曰、以下ツルゲエネフと口論したることを書きたれど、ピアンストツクは之を抜きたり。多分、ドストイェフスキイの爲にあらすと思ひたるものならん。)

彼(譯者曰、ツルゲエネフのこと)は全然無神論者であると私に斷言しました。然し、あゝ、自然神教は、我々に、キリストを與へました、即ち、尊敬せずには考へることの出来ない人間の至高の觀念でそれが人類の永遠の理想であると信ぜざる譯には行かない觀念を與へたのです。それで、彼らは、一體我々に何を提供しましたか。彼らの嘲けつてゐる傑れた神聖美の代りに、彼らの望み、守る所のものを知ると言ふことも、單に解らない程、皆、卑しい野心家で、恥づべくも激し易く、無益にも虚榮的な

です、彼はロシアのことを、ロシア人のことを、奇怪に恐しくも、悪口しました。然し、そこに、私が注意したことがあります。重にベリンスキイ派に屬する凡ての是らの小自由主義者、進歩主義者は、ロシアのことを悪口するのに、最上の快樂、最上の満足認めてゐるのです。只一つの差違は、是らの弟子共は、單にロシアの悪口のみを言つて、ロシアを心から惡魔の所にやつて了はうと思つてゐるのと、他の人々は、ロシアを愛してゐると言つてゐるにあるばかりです。けれども、ロシアに適する一切のものは、彼らの否定し、嘲けて喜びとする程、彼らに不愉快であるのみならず、尙、人がカリカチュウルで悪口することも變形することも出来ない同意せざるを得ない事實を、眞に彼らに提供するならば、彼らは、苛責をうけ、苦痛を抱き、絶望に陥る程、不幸となるやうに、私に思はれるのです。

第二、彼らは、(久しくロシアにゐない凡ての人々のやうに、全く事實を忘れてゐると言ふこと。彼らは新聞をよんでゐるけれども)彼らは、卑劣にも、ロシアの全概念を失つてゐて、極くありふれた事實も知ることは出来ないから、我がロシアの虛無主義者自身も、それを否定せずにはゐられない。自分流に嘲けらすにはゐられない程なのです。就中、彼は私に言ひました。我々がドイツ人の前に出ると平つくばらなければならない、文明に達するには、一般の避けがたい只一つの道しかない。そして、獨立を獲得せんとするロシア主義の一切の試みは、愚劣で、醜惡になると。

とうく、私とアンナ、グリゴリエヴナは、ドレスデンで倦怠を感じました。そして、殊に、次ぎの

やうな事實です。ボオルが私に送つた手紙によると、(彼は、只一度書いたぎりです、)債券者は、權利を行使せんとしてゐるやうに思はれます。(それで、支拂ひをしない中は、ロシアに歸ることは不可能です)第二、妻は妊娠しました。(どうぞ、これは、我々丈の話にして下さい。九ヶ月に、終ることになります)それで、尙、歸ることは不可能です。(第三、こゝに問題が起ります。私のベテルブルグにゐる親類、エミリー、フィオドロヴナ、ボオル、その他の人々は、どうなることでせう。金です。金です。それが不足です。第四、冬を過ぎなければならぬとすると、南方の何處かに行かねばなりません、のみならず私はアンナ、グリゴリエヴナに、いろんなものを見せ、彼女の心を慰め、彼女と旅をしなければならぬのです。私は、シユイスが、イタリヤの何處かで、冬を過ごすことに決心しました、然し、金はありません、我々が持つて来たものは、もう使ひ果して了ひました、私はカトコフに手紙をやりました、境遇を描いて、尙、五百ルウブルの前借を頼みました。どうあなたは思ひになります。彼は私にそれを送つてくれました。何と言ふ善良な人でせう。彼は人情のある人です。我々はシユイスに行きました。然しこゝで、私はあなたに、私の卑劣と、恥辱とを書きませう。

我が親愛なるアポロン、ニコライエギツチ、私はあなたを私の裁判官と見ることが出来るやうに思ひます。あなたは人情のある人です、久しい前から、私はあなたをさう信じてゐました。そして、終りに、いつも、あなたの判断を尊とんで來ました。私はあなたに自白することを苦しいと思ひません。然し、私はあなたに書くのです。私を他の人々の判断に任せないで下さい。

私は、バアデンの極く近くにゐたので、そこを通らうと思ひました。ある魅するやうな考が、私に付き纏ひました。十ルイの金を犠牲にして、恐らく二千フラン以上儲けるとすれば、ベテルスブルグの親戚と、一所になつて、四ヶ月の生活が出来らうと。嘗て私はそれで儲けたことがあるから、その考は非常に強かつたのです。そして、私の性質が卑怯で、餘り熱し過ぎたから、最も悪るかつたのです。凡てのことに於て、凡てのことに向つて、私は最後の制限を飛びこすのです。一生涯、私は制限を飛び越して來ました。

悪魔は、すぐに私に悪戯をしました。三日で、私は、非常に容易に、四千フラン儲けました。今、是ら凡てのことが、どうして、私の心に浮んだか、お報らせませう。一方では、かゝる容易な儲けがある、百フランで以て、三日の中に四千フランにすると言ふやうな。他方には、負債、債権者の追跡、苦勞、ロシアに歸ることの不可能、とう／＼、第三に、最も重要なことは、勝負事、それです。それが、如何にあなたを引きずつて行くものだか御存知ですか。否、私は誓ひます、私には、殊に、金の爲に金が必要ですけれども、それは、利益関係のみではないのです。アンナ、グリゴリエヴナは、四千フランで満足して、直ぐに出發するやうにと、私に嘆願しました。然し、凡てのものをうまく支拂ふと言ふ、斯くも容易な可能なポツシビリチイがあるのです。例ですが、人々は、自分の儲けの外に、毎日、他人が、如何して二千フラン、三千フランを儲けるかを目にしてゐるのです、(人は、負けた人々が眼に遣入りません。)それは聖人なのですか。金は私には彼等より必要なのです。私はそれ以上を冒險して、負け

て了つたのです。私はこれつきりの財産も失つて了ひ、熱つくなつた程、遣せて了ひました。私は夫はれました。私は自分の着物を質に入れアンナ、グリゴリエヴナは、彼女のものを一切、最後の裝飾品まで、質に入れました。(何と言ふ天使でせう。如何に、彼女は私を慰めてくれたこととせう。私達は、鍛冶屋の上の二つの小ばけな室に引越さねばならぬやうになり、そこで、彼女は、如何に、此呪ふべきバアデンの中で、悲觀したこととせう。)もう、澤山だ、凡ては失はれて了つたのです。(おゝ、獨逸人は何と言ふ卑しい人間でせう。彼らは皆、例外なしに、高利貸で、卑劣で、詐僞者です。家主は、私達が金を手に入れる迄は、今の處、何處へも行くことが出来ないのを知つて、家賃を高くしました。)さて、身を救ひ、バアデンを去らなければなりません。私はまたカトコフに手紙を書きました。私は彼に向五百ルウブルを頼みました。(此事情を話さずには、手紙がバアデンから行つたので、彼は感づいたに相違ありません。)さて、あなた、彼はそれを送つてくれました。彼は送りました。そして、今は、ルスキイ、ギエストンクから、前借、四千ルウブルをうけとりました。

けれども、斯う言ふ關係があります。此五百ルウブルの中の半分以上は、アンナ、グリゴリエヴナの母にして貰つたサン、ベテルスブルグでの我々の道具の第二の質と利子とを拂ふことに使ひました。私の頼みで、彼は彼の名義で、ルスキイ、ギエストンクの編輯の金を送つてくれました。それから、百ルウブルは、バアデンの借金を拂ふことに使ひました。そして、我々は尙五十ルウブル送つて貰ふのを待つてゐます。(それは、アンナ、グリゴリエヴナの母が我々に、あの五百ルウブルの中から、送つてくれ

ることになつてゐるのです。それだが、我々の受けとれるやうになつてゐるのです。そして、終ひに、ジエネヴへ行く爲に、約二百フランの金が我々に残りました。(どうして、ジエネヴに行くのか、私には解りません。我々は、二人の老婦の家の雑作付の家を借りました。そして、今は四日目です。我々は全財産として十八フランあるのです。その中、アンナ、ニコライエヴナから送つてくれるのを期待してゐる五十ルウブルの外に、約二ヶ月間、我々は、何にも受けとるあてがないのです。

然し、バアデンのことは、これで御了ひにさせう、私は、バアデンの地獄で七週間、苦しみました。ほんの始め、私がバアデンに着くや否や、翌日、私は停車場で、N.N. (譯者曰、ゴンチャロフのこと) に合ひました。N.N.……は、始め、私のゐるのを見て、如何に恐しく思つたでせう。彼も矢張負けました。然し、彼は身を隠すのは不可能であることを知り、のみならず、私自身が亂暴な打ち融けた様子で勝負を始めたので、彼は私から身を隠すのを止めました。彼は熱中して勝負をしました、彼がバアデへ来て十五日間賭博をしました、彼は非常に損をしたと私は思ひます。然し、私は彼に非常に感謝してゐるのです。此善良な男にです。私が凡てを失つた時に、(そして、彼は前に、私の手に澤山の金があるのを見てゐました) 私の頼みで、六十フラン借してくれました。彼は、『私が彼のやうにほんの半分負けると言ふことをしないで、何故、全部を負けて了つたのだ』と、恐しく私を非難したに相違ありません。さて、友よ、私の意志が何であるか、御聞き下さい。慥かに、私は賭博をして、悪るい振舞ひをしました。然し、比較的、私は、自分自身の金はほんの少し失つたのです。けれども、此金は、我々の暮

しやうでは、約二ヶ月、四ヶ月位暮らすに十分であつたかも知れません。私が金儲けに抵抗することは出来なかつた、と既にあなたに申しました。私が始めに、自分で定めた十ルイの金を失つたなら、私はすぐに、すつかり止めて、立ち去つたのです。然し、四千フランの儲けが、私の身を亡ぼしました。それ以上儲けて、(それが、非常に容易に儲けられたのですから)一度で、凡てのいざこざを一掃し、私と、私の凡ての家族、エミリイ、フィオドロヴナ、ボオルなどの生活を、暫く保証しやうと言ふ誘惑に、抵抗する方法はなかつたのです。且つ、こんなことを言つても、私のしたことを正しいとは、少しもすることは出来ません。何故と言つて、私は只一人ではなかつたのですから、私は、若い善良な美しい女と一所にゐて、彼女は私を全く信用し、私はその防禦者、保護者となつてゐたのです、それで、どんなに少しでも、私は失つてはならず、斯様にして、全財産を冒険してはいけなかつたのです。未來は、私に非常に恐ろしく思はれます。殊に、上に擧げたやうな理由で、私はロシアに歸ることは不可能です。私の助けによつてゐる人々は、どうなるであらうと思ふことが、私の最も恐ろしいことです。凡べて、斯様に考へると、死ぬやうに切ないのです。然し、どうにかして、遅かれ、早かれ、かゝる境遇から脱しなければなりません。私は、慥かに、自分自身の力の外は信じません。何故と言つて、私は、その外に何に目あてがないのですから。

一八六五年十月、私がサエスバアデンから歸つた時に、債權者に、もう少し辛抱してくれとすゝめることが出来、私は自分自身に集中し、働き始めました。私は成功して、債權者は、可成金をとりました

今は、私は、頭に觀念を抱いて、ジエネヴに來ました。私は小説を考へてゐます。そして、神のお助けを得たら、悪くはない可なり大きな作物が出来るかも知れません。私はそれを非常に愛し、樂みと心配を以て書きませう。

カトコフは、自分で、四月に、言ひました、一八六八年の一月から、私の小説の發表を始めて貰ひたい、そうした方が都合がいゝと。私は、早く、斷片的に、私の小説を送り始めますけれども、それはさう言ふ工合になりませう。

こゝには、債權者が居りませんが、私の境遇は、一八六五年よりも悪いのです。ボオルや、エミリー、フィオドロヅナの事を考へて居ますし、それから、私は一人ほつちです。アンナ、グリゴリエヅナが天使であることは本當です。そして、もし、彼女が私にとつて、今どんなものであるか、あなたが同存知だつたら！ 私は彼女を愛して居ります、そして、彼女は幸福である、非常に幸福であると言つて居ります、只一つの部屋で、私と共に一人であることに全く満足してゐると言つてゐます。

よろしい。私はそれで今、六ヶ月絶えず仕事をするのです。然し、その時、妻は出産するに相違ありません。ジエネヴはいゝ都會です。醫者もあります。それから、人々はフランス語を話してゐます。然し氣候は悪いのです。陰氣です。秋と冬はひどいのです。もし、方法がいついたら、約二ヶ月半の中に我々はイタリヤに行くかも知れません。然し、概して、是以上、都合よく便利な所は、知りません。すつと春まで、悉く、我々はジエネヴに居るかも知れません。

財政のことは、私は斯う計算してゐます。もし、小説が發表されたら、カトコフは、來年の中に、前借として、約三千ルブルくれることを拒みはしません。そこで、ボオルの爲、エミリー、フィオドロヅナの爲、債權者の氣をひく爲に少し、金が出来ませう。小説は、その年の中頃に、第二版を賣り若しくは、賣る約束が出来ませう。

我が親愛の友よ、私にはあなたの外にはありません。あなたの助けの外はありません。これから後、私を助けることを拒絶しないで下さい。何故と言つて、私は、大小にかゝはらず、あなたが私の一切の仕事に關係して下さることを御願ひしやうと思ひますから。

斯う言ふ凡ての目算の考、根本の考は、恐らく、あなたにはもう明かになつたでせう。いゝですか凡てのものは、「小説がいゝものであると言ふこと」の只一つの條件の外には、實現されることは出来なしいし、また効果を與へることも出来ません。それで、今は、一生懸命でそれに従事するしかありません。あゝ、我が友よ、斯う言ふ暗い考を起すことは、苦しいです、非常に苦しいです。三年かゝつて、私は是らの一切の負債を支拂ふのです。そして、馬鹿々々しくも、こんな手形をやるとは。何處で、私は必要な健康と、精力を得られませう。經驗が、成功に得られることを既に示したとしても、如何なる條件で私はそれを得るのでせうか。第一つの條件です、即ち、私のあらゆる作物が、讀者に非常の興味を喚起する程十分成功することです。さうでなければ、凡てのものは失れませう。然し、それは有り得べきこととせうか。それは、數學のやうに計算し得べきものでせうか。

今、私はあなたに最後の言葉を言ひます。お聞き下さい。お考へになつて、私を助けて下さい。

我々は今十八フラン持つてゐます。明日か、明後日、カトコフの金の最後の残餘として、我々に送られる筈の五十ルウブルを、アンナ、グリゴリエヴナの母から送つて來ませう。そして、それで全部ですカトコフから、新奇に送金を得る迄は、それが我々の全財源です。(アンナ、グリゴリエヴナの母は、今は、丁度、我々に一コベックも與へることが出來ない程の境遇となつてゐます。)

然し、今、カトコフに頼むと言ふことは、絶対に不可能のことです。二ヶ月過れば、さうでなくなりませう。私はその時、小説で、千五百ルウブル位のを送りませう、そして、彼に私の境遇を書いてありませう、彼は私の負債を拂ふのを、千ルウブルと算へて、五百ルウブル送つてくれませう。私は絶対にそう計算してゐます。彼は善良で、寛大なのです。

然し、この仕事をする二ヶ月を如何して過しませうか。私を裁かないで下さい。私を保護する天使となつて下さい。アポロン、ニコライエギツチ、あなたが餘り金をお持ちにならないことは、私も知つてゐます。私は、あなたに御助けを乞ふとして、あなたに申込みは決して致しません。然し私は溺れかゝつてゐるのです。全く溺れかゝつてゐるのです。二三週間の中に、私は全く一文なしとなりませう。そして、溺れかゝつてゐるものは、理由を訴へることなく、手を延ばすものです。私のするのは、斯う言ふことです。あなたが私に對して好意をもつてゐられることを私は知つてゐます。然し、あなたが私を助けて下さることは、殆ど不可能であることも知つてゐます。そして、それにも係らず、それを知り乍

ら、私はあなたの御助けを乞ふのです。何故と言つて、あなたの外には人がなく、あなたが助けて下さらなければ、私は失はれます。全然失はれますから。

私の御願ひするのは、かうです。

私はあなたに百五十ルウブル御頼みます。それをジエネヴへ、郵便局留置で送つて下さい。二ヶ月の中に、ルスキイ、ギエストニイの編輯所が、私の名義で、あなたに五百ルウブル送ることになりませう。私は自分で、斯うして貰ふやうに頼みませう。そして、私が彼らに小説を送るならば、人があなたにそれを送ることは間違ひありません。そして、私は小説を送りませう。それも亦、疑ひのないことです。

斯うして、二ヶ月の間、私は、あなたにそれを御願ひするのです。我が友よ、私を救つて下さい。私はあなたに、永久の愛情と、真心からの友誼を捧げませう、もし、あなたに御持ち合せがないなら、私の爲に、誰かゝら借りて下さい。こんなことをあなたに書くのを御許し下さい。然し、私は、まさに溺れんとしてゐるのです。

九月以來、ボオルは金がなくなるでせう、(エミリイ、フィオドロヴナのことは言はないとしても)それですから、彼に、此百五十ルウブルから、二十五ルウブルを送つて下さい。彼は少し困るから、約二ヶ月間はつゝましくやつてくれと言つて下さい。その後で、カトコフからくれる五百ルウブルから、彼に、どれ丈やるかは、御書きませう。その爲に、ルスキイ、ギエストニクの編輯所に、あなたの名義

で、前借を送つてくれるやう頼まうと思ひます。何故と言つて、サン、ペテルスブルグの私の小さい用事をば、暫らく、御助け下さらんことをあなたに願ひしたのですから。即ち、私は、あなたの手で支拂ひのことや、指圖のことや、やつて貰ひませう。安心して下さい。こちらで、何とも解らないやうな境遇にあなたをおくやうなことは、何にもしませんから。後生です、あなたが友情を以て關係して下さることを、偏へに御願ひするのです。何故と言つて、私の信賴することの出来る人は、あなたをおいで、サン、ペテルスブルグでは、誰もるないのです。

私はまた、大至急、あなたが御手紙を下さることを御願ひ致します。私を見捨てないで下さい。神はあなたに償ひをさせよう。

ボオルガ、ジエネヴの私の所へ、彼の身に起つた凡てのことを書いてよこすやう、行つて下さい。そして、私宛の手紙があるならば、此前のやうに、私に送つてくれるやうに。私は此頃、私から。只一通の手紙しか受けとらないのです。それは、彼に非常に苦しいことです。

私の宛名、シユイス、ジエネヴ、郵便局留置、フィオドル、ドストイエフスキ氏。

あなたの御住所も私に報らせて下さい。私はあなたの家を知りませんから、此手紙を、アンナ、ニコライエヴナ、スニトキン（アンナ、グリゴリエヴナの母）の手から御送りします。彼女はあなたに御渡しするでせう。

どんな場合にしても、我が親愛の友よ、出来る丈早く、私に手紙を下さらんことを、切に御願ひ致し

ます。そして、凡て我國で起つた便り、何か起つたか、何が生ずるやうになるか、何をあなた御自身はして居られるか、澤山報らせて下さい。要するに、砂漠の中にひからびてゐる魂に、一滴の水を担まないで下さい。後生です。

凡ての人々、あなたの御両親、アンナ、イヴノヴナに宜しく。彼女に殊に、アンナ、グリゴリエヴナからも殊に宜しくとのことです。如何に、我々はあなたのことを考へてゐることでせう。如何に我々はあなたのことを話し合つてゐるでせう。

何日、我々は合ふことが出来るでせう。

それで、何か私に忠告を與へて下さい。我々の境遇に就いて、あなたの御意見はどうか、仰つて下さい。サン、ペテルスブルグの私の事件は、ボオルガからの外は聞かれないので、それに就いて噂させてゐるのを、何かあなたは御聞きになりませんでしたか。

此次ぎの手紙では、あなたにこんなことを書きますまい。

ジエネヴでは、私は全く孤立してゐます、ロシア人には誰にも會ひません。「ロシア語の響きも、ロシア人の顔も駄目です。」

さうなら、あなたを強く、強く接吻します。全くあなたのものなる

フィオドル、ドストイエフスキ

同じ人に

一八六七年九月十五日、シエネワにて。

最も親愛のアポロン、ニコライエギツチ、あなたが金を送つて下さつたあの御手紙に、殊に返事を遅らしたことを、御許し下さい。それは、「如何にして私はベリンスキイを知つたか。」と云ふ咀ふべき論文を今書き終へたばかりですからです。私は延ばすことも、遅らせることも出来ませんでした。けれども私は之を此夏も書いておいたのですが。私は非常に苦心して、書くことが難しかったので、今迄、それを引き延ばし、そして、遂々、齒がみをし乍ら、それを書き終いたのです。それは、學にも、こんな論文を書く約束をしたからです。私がそれを書き始めるや否や、検閲で承認されるやうに書くと言ふことは、私に不可能であることを認めました。(何故と言つて、私は一切のことを書かうと、思つたからです。)斯う言ふものを二帖書くことより、小説を十帖書くことは、もつと易しいことです。それで、少くとも、五度も、あらゆることを氣にとめて、咀ふべき此論文を書くやうな始末となり、それから、私は凡てを抹殺して、既に書いたものを變更しました。とう／＼私は辛うじて論文を書き終りましたが、非常に出来が悪いので、心を苦しめてゐます。どれ程、尊い事實を、私は書き止めねばならなかつたでせう。そこに、期待すべきものがなければならぬとしても、最も悪るいもの、平凡なことが私に残つた

のみでした。ひどいものです。

此論文は、バビコフと尙ある人によつて、私に前借で拂はれたものです。四月に、私がモスコウに滞在してゐた時には、バビコフに猶豫を申し出しました。(いゝですが、期限は、決定的に定められたのではないのですが、五ヶ月程はなかつたのです。)彼らは、九月か十月に、その年表を發表しやうと思つて居りました。(人々は、四月に、さうと計算してゐたのです。本は新年の一日より以前に出ないと言ふ意味です。)それで、斯うして、今迄より遅い方がいゝのです。

我が善愛の友よ、助けて下さい、下のやうな惠をたれて下さい。斯う言ふことを許して下さい。我が善愛の友よ、封をせずに此中に入れた手紙と其所に、モスコウのバビコフに、私の論文を送つて下さい。バビコフは、モスコウのロオマ・ホテルにゐます。私は彼に直接に送ることが出来ます。でも急に、彼がロオマ・ホテルにゐなかつたらどうでせう。それですから、あなたに私の恩人となつて下さるやう御願ひするのです。それで、斯うして下さい。ロオマ・ホテルのバビコフに三行書いてやつて下さい。論文を入れずに、私の手紙を入れて、それを送つて下さい。論文に就いては、(あなたが、斯うして下さることが出来るなら、)ソロフイエフに、此論文は、コンスタンチン・イヴノギツチ・バビコフに渡すべきものである(さう、包みの上に書いてもいゝのです)と説明する爲に、彼に二行ばかり書いて、バズノフの前、ストラストノイ大通りのソロフイエフの店に、同じ便で、送つて下さい。そして、バビコフが、「ロオマ・ホテル」に居らず、ソロフイエフが何處に居るか知つてゐるならば、それを彼に(バ

ピコフに送るやう。彼にあてゝ頼つて下さい。後生ですから、そうして下さい。私の良心は、この論文に就いては、穢かではありません。そして、どうしていゝか解りません。我が善良の友よ、助けて下さい。そして、私の用であなたを苦しめることを許して下さい。

パピコフ宛の手紙を読んで下さい。そして、思召があるなら、論文も読んで下さい。そして、それによんで、(およみになるならばです。)打ちあけて、あなたの御意見を書いて下さい。それが餘り悪くならないならばです。

私は、幾度も、三日の中に、此論文を終らうと思ひました。そして、御想像下さい。私がジエネヴへ行くとき、發作は始まつたのです。——何たる發作でせう——サン・ペテルスブルグにゐると同じやうにです。十日毎に一度起ります。そして、それから五日間は、殆ど我に歸ることは出来ません。私は失はれた人間です。ジエネヴの氣候はひどいのです。そして、今は、四日以来、ペテルスブルグでは一年にやつと一度起る程の嵐が起つてゐるのです。そして、恐ろしい寒さです。前には、天氣がよかつたのです。それですから、仕事も、手紙も、凡て、此頃は長びいてゐます。——

あなたの百二十五にルウブルは、私を文字通り救ひました。私は少し息をついて、小説にとりかゝらうと思つてゐます。どうぞ、手紙を書いて下さい。我々は、アンナと共に、非常に孤獨なので、あなたが書いて下されば、尙更、手紙は我々にとつて、天の賜物となります。我々はそれを五度程読みました。こゝに、ロシア新聞があります。私は、ゴロスや、モスコヴスキヤや、ペテルスブルグスキヤ、ギエド

モステイを読んでゐます。それは幸運です。何故と言つて、我々はこちらで恐ろしく倦怠してゐます。だが、どうしやうもありません。書かねばなりません。

こゝに起つた「平和會議」を、私はあなたに話したでせうか。私は、斯様な矛盾を、一生涯、見もしなければ、きゝもしませんでした。そして、人間と言ふものは、斯かる馬鹿けたことが出来るものかと思つてはゐませんでした。そこでは、一切のものが馬鹿々々しいのです。集つたり、事件を引き出してそれを解決したりすること、皆さうです。いゝですか。彼らの最初の言葉は、戦ひにあることを、私は少しも疑ひません。それが起つた出来事です。もう、大王國が存してはいけません。それを小國にしなればならない。宗教は不必要だなど言ふことを投票するやう、提議をし始めました。それは、四日間呼びと罵ります。實際、我々が本國に居れば、その物語を読んだり、聞いたりして、凡てをよこしまにませう。否、その眼で見、その耳で聞かねばなりません。

私はまたガリバルヂイを見ました。彼は、すぐに立つて了ひました。

私は尙何かあなたに書かうと思ひましたが、後便にゆづります。我が一家(ボオル)はどうしてゐます。彼らは手紙をよこしません。その中、私はエミリー・フィオドロヴナに書きませう。

さようなら、我が親愛の友よ。何かで、私のことを怒らないで下さい。我々が南に行くのはいつでせう。それは、今、我々に最も必要です。

私の方から、アンナ・イヴノヴナに宜しく御傳言下さい。アンナはあなた及び、アンナ・イヴノヴナ

に、真心から御挨拶申上げてゐます。

もし、あなたが、バビコフのことを知らうとお思ひなら、ストラホフとアエルキエフが、誰よりもよく報らせることが出来ます。

後便で、もつと澤山、もつと面白いことを書きませう。然し、今は、私の頭は、まだ重いのです。あなたと強く握手します。全くあなたのものなる。

フイオドル・ドストイエフスキイ

御注意。——御想像下さい。また、困つた事が起りました。何故と言つて、私は、ロオマ・ホテルが何處にあるか、全く慥かに覚えてゐませんから。然し、私は信じます、慥かに、それは、トエルスカヤ街だと信じます。

トエルスカヤ街、ロオマ・ホテル、コンスタンチン・イヴノキツチ・バビコフ。

もう一度、心から、あなたの御助力を感謝致します。

後生ですから、あなたの御住所、即ち、番地と家の名を書いて送つて下さい。私は尙、アンナ・ニコライエヴナに、あなたに此手紙を渡すやう頼みました。

同じ人に

一八六七年十月九日(二十一日)。ツエネツにて

我が尊き友よ、私はあなたの御手紙に御返致します。(そして、百二十五ルッブル御送り下さつたことを感謝致します。九月二十日のあなたの最近の御手紙を受け取りました。そして、非常な善びをもつて、それを讀みました。あなたの御心が、如何に微妙であるか、その凡ての力を御想像なさることは不可能です。あなたは常に、あなたの御家に御出でになり、前に傍にゐると同じ凡ての人々によつて取り圍まれてゐらつしやいます。さて、私の妻と私とは、まるで人のゐない島にゐるやうなものですから、例へば、あなたの御手紙のやうな御手紙は、我々に、數日の間、非常の印象を與へます。アンナと私とが、悲觀から氣狂ひにならなかつたとしても、——いゝ性質を持たうとしても駄目です。だが、遠くから見えてです——他人は氣狂ひとなるかも知れません。只一人ほつちです、常に一人ほつちで、其他は何にもありません。我々が一人ほつちであるならば、我々の周圍のものは、常に同じものではなく、周圍のものに樂みを見出すことの出来る程、突然、うまくやる事が出来ます。例へば、私の欲したやうに、パリイに冬を過しに行くと言ふことに就いて、今は、そんなことをもう考へてはいけなと思ふやうになりました。例へ、我々が非常につましく生活したとしても、(正に、月に三百フランです、即ち、百ルッブルです。即ち、三百四十フランで、慥に、パリイで暮すに十分です、然し、移轉するには、金がいります、そして、我々は、久しく、金をもたないのです。然し、尙、他の理由があります、アンナ、ダリゴリエヴナは、出産の期限は、四ヶ月しかありません。それで出發しなければならぬとしたら、尙、直ぐに出發することが出来ませう。然し、一ヶ月の中には、いい汽車でも、それがもう出来ないだらう

と思ひます。パリイは、可なり遠いのです。それに、新聞では各號で、戦争があると云つてゐます。戦争が起らないならば！ 實際、斯う言ふ場合には、パリイのやうな大中心地に居るのはいゝことですが全然いゝと言ふことは出来ません。どうして、私は、巴里と言ふのでせうか。それは健康上に關してはありません。私はもう健康上のことは言ひませんが。慥かに、便利と言ふ上から言ふのです。パリイは悪い所ではありません、それに、金がなくても、アンナ・グリゴリエヴナに、常に、澤山のいろんな慰めを得させるやうになるでせう。ルウヴルのみ見ても、一月はかゝります。金がない時は、パリイは大變いゝのです、此バラドックスのやうな言ひ方を氣にとめて下さい。でも、それは全く本當のことなんです。一切のことは、實際、物を見る方法に關してゐるのです。貧乏は慥かに、いゝことではありません。然し、人は、困りもせず、大した金もなく、生活し得るのです。巨額な金は、パリイでは、寧ろ、獨身者に必要です、私個人にとつて、五ヶ月の間、何處にも行かないでゐると言ふことは、どうでもいゝのです。何故と言つて、私は尙五ヶ月働かうと思つてゐるのです。それ以下ではありません。然し、斯う言ふ關せず焉と言ふにも係らず、ジエネヴは大したいゝ所ではありません。そして、私は全く間違つたことをしたのです。こゝで、私は毎週發作を起してゐます。そして、尙、不愉快な心臓の鼓動が始まりました。此都會は恐しいのです。これは、ケインヌ（譯者曰、フランスの同名の島の中にある都會にして、恐らく風波烈しき所ならん。）です。一日中、風と嵐です。普通の日でも、一日、三四度は時候の變化があるのです。痔や、癩癩にかゝつてゐる人に、斯うなのです。こゝは、何と言ふ厭な

所でせう、何と言ふ陰氣な所でせう。人々は、何と言ふ大自慢家でせう。何と言つて、それは、凡てに満足すると言ふことは、非常な馬鹿の特徴です。こゝでは、一切のものが醜く、一切のものが腐つて居り、一切のものが高價です。こゝで、彼らはいつちも酔つぱらつてゐるのです。こんなに澤山の怒號者、喧がしい酔つぱらひは、ロンドンにさへも居りません。彼らの所にある一切のものは、どんな石でも、優美で、壯大なのです。——『こんな街はどこにあるでせう。——ねえ、あなた、こゝを眞直に行つて青銅の壯大優美な噴水の傍を御通になれば、あなたは行かれるでせう、云々。』此の壯大な優美な噴水——それは、あるロコー式の見惨めな趣味のない凡作です。然し、あなたが道を只おきゝになつた丈でも人は自慢することを禁ずることが出来ません。人々は、いくら植木をうるて、（一本の樹もありません）みじめな小庭園を作りました、殆ど、モスコウのサドワヤの圍ひのある庭園を二つ一所に集めたやうな大さです。——そして、人々は寫眞をとり、「ジエネヴのイギリス公園」と言つて賣つてゐます。然し、斯う言ふする奴は、悪魔にさらはれていくといゝのだ、けれども、ジエネヴ湖を二時間半渡れば、エゴイと言ふ所があつて、冬は健康地で愉快だと言つてゐます。私は、モントルウ・シロン等を見ました。幾度もそこへ行きました。そこは、晴て健康的です、嵐もなければ、氣候の突然の變化もありません。そこに、落ちつかねばなりません、——私は書く爲に、アンナ・グリゴリエヴナは、身體を丈夫にする爲に、然し、不幸なことがあります、モントルウ其他の所は、物價が高いのです。下宿屋しかありません。そして、アンナ・グリゴリエヴナの位置に立てば、下宿屋ではよくありません。エゴイしかありま

せん。人々がそう私に話しました、今は儘に引越しをする時です。然し、金がありません、ジエネヴでは、本當に、我々は只一つの室にゐたのです、然し、それは、二人の善良な老女の家になると、我家と同様なのです。かのジェイでは、室を借りて、人々と親しみ合はねなりません。そして、そうするには、時日と金がいるのです、屹度、恐らく、我々は終ひに轉居することになりませう、今は、一切のことは、私ではどうにもなりません、なるやうに任せるのです。

あなたに、私の仕事のことは、何にも話しませんでした。そして、私は何にも言ふことがないので、只一つあります。澤山、澤山働かねばならぬと言ふことです。けれども、發作は私に起つて、各發作の後、四日前にしつかりした觀念を恢復することは出来ません。始め、ドイツでは、どんなに私は健康だつたでせう。此ジエネヴは、いつも呪はしいのです。我々はどうなることとせう。私は解りません。けれども、小説家は、私の只一つの救ひです。最も苦しいことは、それが非常にいゝ小説とならなければならぬと言ふことです。そうでないとい、*Cire quanon* (譯者曰、ラテン語にして、さうでないとい駄目の意なり。) 病氣の爲に全く打ち碎かれた能力を以てしては、どうしてよくなる事が出来ませう。私には尙想像があります。そしてそれは悪くはないものなのです。私は最近それを小説に就いて味ひました。私の神経は、尙それにひつかゝつてゐますが、も早、記憶はないのです。要するに、私はちつほけな幸福の爲に、小説にかゝつてゐるのです。私は頭をかけて、凡てのものを紙の上にかけて、ガレリンアの船を漕いでゐるのです。さあ、もう、これ丈で十分です。

ケルシエフのことを読んで、私は感動しました。そこに未來はあり、眞理はあり、作物はあります。けれども、(ボオランド人のことは言はないとして) 我國の凡ての小自由主義者は、社會的宗敎學校の色合を帯びて、憤起せんとしてゐることを御知り下さい。それは、彼らに、敎訓を與へるでせう。それは、人が彼らの鼻を切つた場合よりも、一層悪るいでせう。今、彼らは何を言ふことが出来ませう、誰をひつくりかへすことが出来ませう。彼らは常に、嘲弄するかも知れません。我國では、その外に爲すべを知りません。我國の小自由主義者に、眞面目な觀念を只一つでもあなたは氣づかれたことがありませんか、冷笑の外何にもないのです。中學生徒に、冷笑を教へてゐます。然し、今は、ケルシエフの全世界に關係を有してゐることを言はうとしてゐます。私はあなたに誓つて言ひますが、それを記憶してゐて下さい。彼が彼らと關係し得るとしても、何でせう。第一、彼らは、自分で身を損ふのです。そして、第二、誰が彼らに關り合ふものですか。彼らと、關係を結ぶ丈の骨折に、彼らは償してゐるでせうか。

我が親愛なる友よ、私はあなたに一つのお頼みがあります。ルスキイ・キエストニクの編輯局から、私の名義で、六十ルウブル、あなたの所に行くでせう。(必ずとは言ひませんが、恐らく行くでせう。) 私は自分でさう言つたのです。私は此六十ルウブルをボオルにやらうときめたのです。あなたはそれを、藏まつておいて、分割して彼にやつて下さい。然し、私は、エミリー・フィオドロヴナと、フエエヂヤ(兄、ミハエルの子) から、一通の手紙を受け取りました。彼らは私に何にも要求はしません。然し彼

らが非常に困つてゐることは明かです。それを知ると非常に切ないのです。それで、私は斯う決心しました。ボオルは、エミリイ・フィオドロヴナの所に下宿してゐるのですから、ボオルの爲として（四十ルウブルをエミリイ・フィオドロヴナにやり、ボオルに二十ルウブルやつて下さい。それで、本當にボオルがエミリイ・フィオドロヴナの所に住むか如何か知らなければなりません。彼らは田舎を去り、今は、ストリアルニイ小路のアロンキン方の私の元の部屋にゐるのです。いゝですか、ルスキイ・ギエストニクから、六十ルウブルあなたに送つた場合に、さうして下さい、私がさう言つてやつたのは、此理由からです。

ボオルは善良な柔しい子供です、そして、彼を愛するものは一人もゐないのです。彼は故人しか持つてゐないので、あなたは誰だか御存知です。のみならず、彼は善良な子供です。本當に、彼の爲に地位があるなら、彼はそれをしなければなりません、私は彼と最後のシャツツまでも分けるのです。そして、我が一生涯さうです。我が友のアボロン・ニコライエギツチ、あなたには、ボオルのことを御願ひ致します。非常にさし迫つた場合に彼を御願ひする人は、私に誰もないのです。あなたは、斯様な場合に、彼を御見捨てになることはないでせうね。私は金のことを言ふではありません。そして、そのこととは私は望みも致しません。然し、彼に、忠告といふ言葉を必ずかけてやつて下さい、殊に、あなたが彼の爲に、御親切を下さつたことを私がどれ程有難く思つてゐるか、彼が全く知つてゐると、さうして下さい。私はその中、彼に書きませう。

人が彼に地位を見つけやうとして、非常に努力してゐることをあなた言ひました。（そして、もう、その地位は見つかつたのです。彼のことを心配してくれたのは、アンナ・ニコライエヴナと、グリゴリエヴナとです。何んと言ふ善良な人でせう。エミリイ・フィオドロヴナのこととは、どうなるか解りません。フエヂヤは、教育の足りなはことを嘆いてゐます。彼は母を養ひ、家族を養つてゐます。彼は善良な子供です。

我が親愛の友よ、あなたを接吻します、時々、書いて下さい。私の住所は、同じですが、引越しをするかもしれません。出来るなら、屢々書いて下さい。手紙が、短かくても構ひません、始終書いて下さい。私は非常に、ロシアに歸りたいと欲してゐます。ウメツキイの事件は、一言いはずには、おきません、私は、それを公表させよう。私が着いた時に、自分で、裁判所其他に行つたのです。我國の倍審員は——完全です。裁判官は、もう少しの教育と手腕が望ましいのです。それから、御存知ですか、道徳的の主義です。

此基礎などしては何物も組織されることは出来ません。然し、神の御蔭で、それは尙うまく行きます。モスコウ新聞に就いて、あなたの御意見を書いて下さい。ルスキイは人々は發行しますが。

政治はどう言ふのですか。我々の期待は、どう決するでせうか。ナボレオンは何か準備してゐる様子です。イタリヤ、ドイツ……私は、クルスクまで鐵道が延長せんとしてゐる様思はれるのを、喜びに

心を慄はせて讀みました。

アンナ・グリゴリエヴナが、アンナ・イヴノヴナに書きます、
私はアンナ・イヴノヴナに深い御挨拶と、熱い握手を致します。
さようなら、親愛なる友よ、すつかり、あなたのものなる

エフ・ドストイェフスキイ

同じ人に

一八六八年四月九日(廿一日) シエネツにて。

私の最も愛する友、アボロン・ニコライエギツチ、アンナ・グリゴリエヴナは、今日、母から一通の手紙をうけとりました。彼女は、復活祭の週間に、あなたの所へ行くと彼女に言ひました。そして、あなたが二十五ルウブル入れた手紙を、久しい前書き留めにせずに私に送つたと彼女に言はれたさうです。それで、いゝですか、その手紙はなくなつたのです。私は何にも受けとりません。カジモドの週間(譯者曰、復活祭後の週間を言ふ)後、もう火曜になります。もし、私が手紙の中に二十五ルウブル入れて下さいと單に書いたとしても、こゝで、容易に兩換することが出来るからです。然し、それでも、私は手紙に、書留めにして下さい、一層安全です、とあなたに付け加へました。我國の郵便局で、盗みをする

ると言ふことは、知られてゐる事實です。それに就いて、最近訴訟さへありました。私はそれを讀みました。然し、そちらでは、どんな裁判所でも、それを判決しないでせう。

私は非常に金を惜しく思ひます、何故と言つて、私は恐しい必要を感じてゐるのですから。せめて、ボオルカ、エミリイ・フィオドロヴナがそれを利用してくれたら、何程いゝか解りません。然し、こんな金は、悪魔へ行つて了へ、金はそれ以上に償ひしません。然し、親愛の友よ、私が殊に名残惜しく思ふのは、それはあなたの御手紙です。さう信じて下さい、私はそれを苦しく思ひます、即ち、今それを受けとれたら、私は二百フランも三百フランも出させよう。そして、今私は常につきかりしてゐます、あなたは、それがどの位だか、御想像出来ませぬ。

あなたは御手紙の中で、何か重大なことを報らせて下さつたかも知れません。それならば、後生ですから、その要點を書いて下さい。

私の妻がアンナ・ニコライエヴナにやる手紙に、私の手紙を入れてあなたに書いたのです。彼女はあなたに、それを渡すことを拒まないでせう。アンナ・ニコライエヴナが、我々に會ひに来てくれることを御想像下さい。私はそれを嬉しく思ひます。

私は、あなたに凡てのことを報らせる爲に、手紙を書きます。今、私には一分間の時間もありません。私は働いてゐます、そして、何にも出来上りません。私は手紙を破る外はしません。私は恐ろしくがつかりしてゐます。何にもそれから生れて來ません。人々は、四月號に續き載るだらうと廣告してゐ

ます。そして、私は重要でない章の外は、何らの準備も出来ていません。私は何を送らうとするのでせう、少しも解りません。一昨日、私は最も烈しい發作を引き起しました。然し、昨日、それでも、氣狂ひに近いやうな状態で書きました。何にも出来ません。カトコフにどうして辯解していいのでせう。私にはそれが解りません、そして、今は四月號の出される時なのです。私に少くとも、彼に二帖送る暇があつたら！ どうしても、書かうとしてゐます。そして、もう、私は、エズイに引越した爲に、カトコフに金を頼んだのです。そして、彼の立場となつたら、私は屹度、怒つて、金を送らないでせう。然しそれで、我々はどうなることとせう。

我が親愛の友よ、書いて下さい。我國で、出来上つたこと、起つたことを、せめて書いて下さい。私は新聞を讀んでゐます、けれども、新聞は、友情にとんだ活氣のある會話とは別物です。ねえ、今は、私にはどこに住んでゐるやうとも、苦しい時なのです。壓倒するやうな勞作の時です、従つて、倦怠と、動搖にいつばいになつた時です。私は始終家にゐます、然し、毎日、二時間半の外は外出しません。私は、カフェエにロシアの新聞をよみにいきます。それが、どんな印象を私に残すか、御想像出来ませう。モスコフスキア・ギエドモスクでも、尙さうです。——それをよむのはいいことと、然し、ゴロスヤサン、ペテルブルスキアは、(恐ろしい!)不愉快の感じを起さずに讀むことは、不可能です。私は非常に風の吹く此忌まはしい町の家に歸ります。私は悲しく、殆ど、氣狂ひになつて歸るのです。そして、家には尙ほ仕事があるのです。そして、うまく行かない仕事なのです。私とアンナを慰めるのは、子供

の外にはありません。然し、彼女は、やつと我々を慰めてくれます、私が未來のことを思ふと、——お

これで、あなたの御手紙が私にとつて何を意味するか、それによつて、判断することは出来ませう。書いて下さい、御願ひです。私の方でも、あなたに私の消息を始終報らせませう。そして、私のことはなるやうに任せるのです。

それで、洗禮のことを書いて下さい。失はれたお手紙の中で、あなたは慥かにそれを御書きになつたに違ひありません。私はあなたに御報らせし、消息を報らせる爲に、只二言いふ爲に筆をとりました。アンナがあなたに宜しく。

そして、私は常にあなたの忠實なるものです。

エス・ドストイェフスキイ

一つの封筒に、二通の手紙を送ることは困難ですから、此手紙の封をしません。怒らないで下さい。アンナ・ニコライエヴナは、一行も讀みはしません。

同じ人に

一八六八年五月十八日(卅日) シエネツにて。

我が親愛なるアポロン・ニコライエギツチ、あなたの御手紙を感謝致します。そして、あなたが不満
足でゐられるにも係らず、我々の通信を中絶なさるぬことを、また感謝します。常に、私の心の奥底で
は、アポロン・マイコフは、私に對して、斯様に振舞ふまいと私は信じてゐました。

私のソオニヤ(譯者曰、ドストイェフス井イの長女)は死にました。三日前、我々は彼女を埋葬しま
した。彼女の死ぬ二時間前には、私は彼女が死なうとは知りませんでした。醫者は、彼女の死ぬ三時間
前に、よくなるだらうと言ひました。彼女は只八日間の病みました。彼女は肺炎で死にました。お、
アポロン・ニコライエギツチ、私が此始めての子供に對して抱いた愛情が、滑稽に思はれるとしても、
それが何でせう。私を祝してくれる人々に返事した多くの手紙の中で、私が滑稽にそれを表はしたとし
ても、何でせう。彼らにとつて、私は滑稽であるかも知れません。然し、あなたには、あなたには、私
は書くことを恐れてゐません。三ヶ月年をとつた此愛らしい者は、斯様に哀れで小さかつたけれども、
私にとつて、既に、一個の人格であり、性格でありました。彼女は、私を見しり、愛し始めました。そ
して、私が近いてゆくときは、にこ／＼しました。私がかしな聲を出して歌を唄つて聞かせると、彼
女はそれにきゝほれてゐました。私が接吻しても泣きもしなければ、厭な顔もしませんでした。私が近
いてゆくと、彼女は泣くのを止めました。そして、人々は私を慰めやうとして、まだ澤山子供が出来る
と言ひます。然し、ソオニヤは何處にゐることとせう。此可愛い人間は、何處にゐることとせう、私
は斷乎として言ひますが、彼女が生きて居れば、彼女の爲に、喜んで十字架につけられませう。でも、

こんなことを言ふのは止めませう、妻は泣いてゐます。明後日、我々は、とう／＼、我々の小さい墓を
去ることになりませう。そして、どこかに出發させませう。アンナ・ニコライエヴナは、我々と共にゐま
す。彼女は、あの子の死ぬ前八日にやつと着いたのです。

ソオニヤの病氣が始まつて以來、最近十五日間、私は仕事が出来ませんでした。私はまたカトコフに
辯解を書きました。そして、五月には、三章しか現はれないでせう。然し、今、私は夜も晝も、間斷な
く働かうと思つて居ります。そして、六月になつて、小説は、規則正しく、現はれるでせう。

彼女の教父となることを拒まれなかつたことを、私は謝致します。

友よ、私があなたに御借りした金を未だ返さず、大變あなたに罪を犯したことは知つてゐます。殊に
最近も、カトコフから受取つた金の中から、エミリイ・フィオドロヴナとボオルに一部をやり、あなた
が非常に必要でゐられるに相違ないのに、あなたに少しもやらなかつたので、大變、罪を犯しました。
然し、後悔しても、何にもまとめることが出来ません。それですから、私が正確に會ふことの出来る一
切のことを、打ち明けて申しませう。今、私はあなたに少しも御返しすることは出来ません。私は自分
には殆ど少しも持つてゐません。そして、ジエネヅを去る時、私は、自分の着物と妻の着物を、質に入
れなければなりません。(私はそれをあなたに言ふのです)今、カトコフに頼むことは、出来
ない相談です。私が彼を欺むいてから三ヶ月になるのです。然し、一ヶ月半の中には、少くとも二ヶ月
の中には、(私は慥かにそう言ひます)私の方から二百ルブルあなたに送るやう、カトコフに頼みま

せう、それは慥かです。私があなたのことを考へてゐなかつたと言ふことに就いては、——誓つて言ひませんが、確かなことではありません。私は非常に病氣でありました。然し、何とあなたに言ふことが出来ませう。私は何にもあなたに言ふことは出来ません。アポロン・ニコライエギツチ、慥かあなたに二百ルブル御借りした時、殆どその半分は、彼らの爲、私の近親の爲であつたことを、思ひ出して下さい。あなたは彼らに、此二百ルブルの中から、七十五ルブル御渡しなすつたのです。私が思ひ出す限りは、さうであつたやうに思はれます。あなたがその時、私をお救ひ下さつたことを、非常に感謝してゐるのです。私は只今知つたのですが、あなたの御境遇が苦しいにも係らず、あなたが今迄私に對して餘りに慮慮して居られたことを、私は有難く思ひます。

さて、非常な御願ひがあります。あなたが御會ひになつたとしても、親類の者に、ソオニヤの死んだ報らせを、言はないで下さい。いゝですか、ボオルもその中に入れて、彼らにそのことを、せめても知られたくないのです。

ボオルがそれ程あなたと接吻したことを御許し下さい、彼はどうなることでせう、私は知りません。それは、彼を何處へ連れて行くでせう。彼のもつてゐる二つの境遇は、彼を助けて、正直な獨立的人間となるやうにさせよう。それでも、一方では、どうして、彼を斯様に見捨てることが出来ませう。彼はどうなるか、私は知りません、私は彼の爲に祈る外はありません。時に、私が彼に送つた手紙に、彼は何にも答へません。もつと柔しく彼に書けばよかつたのでした。

私はまた、彼が私宛ての手紙を澤山もつてゐることを知りました、——非常に重要な手紙です。(その一通は、舊友のクルコフスカヤ夫人のです。)それをこゝに送ることが出来ないでせうか。それは、私に非常に〜に大切です。恐らく、彼はもつと他の手紙も持つてゐるでせう。

さようなら、我が友よ。私の新住所をあなたに書くやうに致しませう。あなたの御話しになつたモントルウは、歐洲で最も高價な最も流行を追ふ地方です。私はエエイの近くの何處か村を探ませう。あなたのヨハネ傳の翻譯は、立派なものです、けれども、それが全譯でないのは残念です。私は昨日それを讀みました。

エフ・ドストイエフスキイ

私の妻はあなたにあらゆることを感謝し、彼らの爲に、ソオニヤの小像を藏して下さることを御願ひして居ります。

同 じ 人 に

一八六八年六月十日(廿二日) エエイにて。

我が親切な善良な最良の友、アポロン・ニコライエギツチ、私の長い御無沙汰を御許し下さい。後生です。私の無沙汰の理由は、ほんとに些らぬことです。私はルスキイ・ギエストコフに、非常に書くの

を遅らせて了つたので、此頃は、文字通りに、晝夜兼行で、發作が起るにも係らず、働いてゐました。然し、悲しい哉、私は、ある理由の爲、最近や、昔のやうに早く、働くことが出来ないことを氣づいてがつかりしました。私は蝦のやうに長びいてゐます、そして、算へ始めると、一ヶ月に殆ど、三帖半か四帖です。恐しいことです。私はどうなるものやら解りません。尙、小説は、二十七帖、恐らく三十帖残つてゐます。殊に、三分本にして以來、私がしたやうな小部分、斷片的に公けにするのを恥ぢます。六月號には、四章送りしました。(最後は、昨日、送りました)そして、七月號は、第二部の終り(少々とも五帖)になるまで丁度よく送らうと約束しました。もう三週間しか残つて居りません。さて、どうしませう、よく書き終る爲には、どうしませう。明日、私は仕事にかゝり、今日はぶら／＼してゐます、即ち、私は三通の手紙を書かねばなりません。

我が友よ、あなたが、實際、眞實に私を氣の毒に思つて下さることは、知つても居て、信じてゐるます。然し、私は全く、此頃程、不幸に陥つたことはありません。私はあなたに何にも描きはしません、然し、私が暮して行けば行く程、思ひ出は苦くなり、死んだソオニヤの姿は、益々はつきりして來ます。私には堪へ切れない時があります。彼女は、既に私を見知つてゐたのです。その死ぬ日になつて、二時間の中に、彼女が死なうとは思はなかつたので、新聞をよみに出かけた所が、彼女は何處までも、私を眼で見送つてゐました。今になつて、それが見えるやうに、益々はつきりとなる程、彼女は私を見つめてゐたのでした。私は彼女を決して忘れないでせう。それで苦しむことを決して止めないでせう。若し、

私が他に子供をもつたとしても、それを愛することが出来るとは思へません。何處で私は愛情を見出すことが出来ませう。私に必要なのは、ソオニヤなのです。私には、彼女が此世にゐず、永久に再び見ることが出来ないとは、如何しても呑みこめないのです。

私にとつて、もう一つの不幸が、アンナ・グリゴリエヴナの身の上に起りました。彼女は、ソオニヤの死後、恐ろしく嘆いてゐます。彼女は幾晩も夜中泣いてゐます。そして、それは、彼女の健康に、ひどく烈しい影響を及ぼしました。私は、あなたに申上げたやうに、晝夜兼行で書いてゐたのです。(それがいゝことだとは信じません。何故と言つて、書くことは、私に非常に苦痛なのです。あなたの御忠告に従つて、私は彼女になすべき仕事を澤山與へました。然し、彼女は迅速になし終つて了つて、またもや、同じやうな苦惱を始めるのです。彼女には大變慰めが必要なことを知りました。然し、運命があなたに墜倒しかゝると、あらゆる方面から集つてくるものです。何處か、大都會(フロレンス・ネエブルス)へ行くには、金がありません。そして、今はその時期ではありません。パリイにゆくにも、同じやうに不可能です、それは遠いのです。博物館や、繪畫展覽會のある大都會(去年のドレスデンの如き)は、彼女をよく楽しませるでせう。彼女は素人鑑賞家です、彼女は多くのものを見、學ぶことが好きです。そして、我々は、故意にしたことのやうに、こゝに止らなければならぬのです。最も無意味な旅行でも、私には非常な時間を費すのですから、それでさへもさうしなければなりません。(私は経験でそれをよく知つてゐます。)そして、仕事する爲に止つてゐなければなりません、何故と言つて、さうでない

と、私は書き終ることが出来ないでせう、従つて、私はこれつきりになるまで財源を失ふでせう。

我々は、非常に困難して、最も少ない金を持つて、ジエネヴからゼイイに來ました、(病氣、死、子供の埋葬は、我々のあてにしてゐた金を費してしまひました)そして、ゼイイでは、あらゆることが、他の所と同じやうのみならず、一層悪いのです。いゝですか、ジエネヴより、ひどい生活を想像することとは出来ません。然し、こゝでは、全然、ほんとうに、よくはありません。そして、皆は、我々三人、アンナ・ニコライエヴナが我々と一所にゐますから、)ジエネヴの醫者の言葉が本當ではあるまいと疑ひました。こゝでは、空氣は、不愉快なのです。我々三人がそれに氣がつかしました。健康上から見ても、ジエネヴは、他の點から(北風)非常に悪いのです。我々はこゝで、暫く暮らさせよう、それから見てみませう、我々が死ぬまゝになつてはゐられません。こゝは、暑さはやつて來ませぬ。あなたの此湖水のバナラマを御存じでせう。ゼイイは傍らのモントルウやチロンより全くいゝのです。然し、此バナラマの外は、實際を言ふと、山中で散歩の目的となるある場所があつて、それは、ジエネヴにないものでした。(凡ての他のものは、餘りに醜いのです。そして、此バナラマのみでは、餘りに高價な價を拂つたのではないかと恐れてゐます。おゝ、あなたが、外國にゐるのが苦しいと言ふ考を御持ちになつたら! あなたが、シユイス人の不正直、劣つた、信すべからざる愚鈍、進歩の缺乏をお考になつたら! 慥かに、獨逸人は一層悪いですが、彼は、いくらかいゝ所があります。人々は、外人を、收入の源と見なしてゐます。彼らは、欺くこと、拘り取ること、此一事しか考へてはゐるません。然し、最も悪る

いことは、彼らの不潔なことです。テント生活してゐるキルギス人でも、もつと綺麗な生活をしてゐます。(そして、こゝとジエネヴです。)恐しいことです。昔、歐洲人にこんなことを言ふ人があつたら、私は先づ笑つたかも知れません。然し、ジエネヴでは、私には少くとも、ロシア新聞がよめました。そして、こゝでは、少しもよめません。それは私にとつて、非常に苦しいことです。私はとうとう、ボオルから、大きな手紙をうけとりました。彼は四通の手紙が私に來たと言つてゐます。それは信することが出来ないやうに思はれます。それでは、その手紙は何處にあるのですか。他方では、それを信じないことは困難です。彼は柔しく手紙を書いてよこしました。彼が立派な間違ひなく、自分の事件を話してゐるのを私は喜ばしく思ひます。然し、本當に、彼の境遇は恐しいものに違ひありません。それは、私には夜も夢に見る程切ないのです。あなたの凡ての處置と御骨折にどう感謝したらいゝでせう。いゝですか、あなたは彼に金をおやりになつてはいけません。どう御考へになりますか。あなたは非常に善良な人ですから、恐らくは、そうしやうと思ひになるでせう。私はあなたの債務者です、のみならず、あなたは御自分で始終金が入用なのです。あなたは家族をおもちになり、あなたの収入は、やつと事足りてゐるのです。けれども、こゝに、あなたに御報らせし、あなたの御考をきく問題があります。

ボオルは、私の名義で金を借りていゝかと、私に頼む手紙をよこしました。彼は、私が署名すれば、金を借してくれると言ふ人を示して來ました。それは、我々の雜誌を印刷所の元の仲介人で、ガヴリロフと言ふ人です。それは、相應の年のある長所を持つてゐる可成り立派な男で、少し金を持つてゐるの

です。彼は今度、「虐げられ、辱しめられし人々」の第二版を、チルウブルで買つてくれたことがあるのです。その外に、彼は偶然私を訪ねに来たことがあります。私は彼に斯う尋ねました、ガヴリロフ、あなたは金をお持ちですか。——ええ、少しばかり。——私に千ルウブルくれて下さい。——それで、彼は其日に、いゝですか、私の署名で、私はいくらだか覚えてるませんが、すてきな利子で、金を借してくれました。此千ルウブルは、二年前に彼に返しました。實際此男は借すかも知れません。ボオルの頼みで、私は彼に手紙を書き、同時に、二百ルウブルの受け取り證を送りました。(百六十ルウブルは、ボオルの爲と貧乏になつて病氣になつてゐるエミリイ・フィオドロヴナの爲めです。)その期限は、一月一日です。ボオルが金を受けとつたか如何かは知りません。我が親愛なる友よ、後生ですから、ボオルにお會でしたら、彼が受取つたか如何かきいて下さい。彼がまた私に返事をよこさないならば、直ぐ返事をよこすやうに押しつけて下さい、然し、彼の手紙がなくならないやうにしてとす。彼はそれを非常にだらしなく送つて、なくなつたのかも知れません、恐しく、もつと他の理由があるかもしれない、私には解りません。あなたが私にボオルがガヴリロフから金を受とつたか如何か書いて下さるやう御願ひします、(私のしたやうに仕事をしないで長くお書になるやうなことはいけません、何故と言つてあなたは私を許して下さい、私の境遇と仕事の苦しい様を御存じでせうから。)私は非常に心配してゐるのですから。彼が受取らなかつたら、彼はどうなるでせう。私は彼が非常に困つてゐると思つてゐます。いゝですか、私は、あなたが彼に會はんが爲にあなたの田舎の家を御去りになるやう御願ひするのでは

ありません。恐らく、彼は自分であなたの御家に行くでせう。然し、こゝに、あなたの御忠告を乞はんと欲することを述べませう。

もし、ガヴリロフに金があるなら、一年の中に千ルウブル(即ち、もし、ボオルに二百ルウブル與へたら、八百ルウブル)爲替で私に借してくれるやうになるかも知れません。私はこゝから、それを書いていゝのです。更に、一年半の中に、(契約で)ステロフスキイから、「罪と罰」の金をうけとらねばなりません、(彼は契約で、権利があるのですから、私の著作集の中に、それを加へるでせうが、それは、一八七〇年一月一日前ではないのです、彼が新聞に廣告したやうに。)支拂つた額を補足するのは、六百五十が、七百ルウブル以下ではありません。(何故と言つて、我々は契約をしてゐるのですから、それは確かです。)斯う言ふ契約を結ぶことが出来ないものでせうか、此契約によつて、私に千ルウブルを借させるやうする爲、ガヴリロフに、ステロフスキイから金をとる権利をやるやうにすることです。そして私にとつては、此八百ルウブルは、非常な利子がついても、非常に、有用なものです。絶対に支拂はなければならぬ借財の外に、尙、サン・ペテルスブルグで質に入れた道具やいろんな物の利息を拂はねばなりません。何故と言つて、さうしないと、流れて了ふのです。それは、千ルウブル以上の償をするものなのです。終ひに、此八百ルウブルから、こちらの私達に、少し許かり餘りませう。そして、それがどの位我々に必要なものか、神様が御存知です。私はボオルに手紙を書いて、彼がガヴリロフの家に行き彼にすつかり打ち明けずに、彼が金を借すか如何か探ぐつてくれるやう申してやりました。然し、ボオ

ルは若くて経験がないのです。(のみならず、私の爲に八百ルウブル借りたと言ふ思ひ付きを、ボオルに書いてやつたに係らず、私は、今でも此考を、幻しと考へてゐることを自白します。私は大して、あてにしてゐません。何故と言つて、私も尙決心がつかず、そして、カヴリロフが何と言うか解りませんから。)要するに、彼の心持を判断する間に、ボオルとどんな風なことをするか、知りたいと思ひます。そして、第一に、彼がそうするか如何か、あなたの御意見をききたいと思ひます。ガヴリロフは、熱中家で、企業家であることを付け加へて申し上げます。彼自身の自白によれば、彼は、「虐げられ辱められし人々」で利益を得たとのことです。此男が時々、本を出し、今迄のやうに此發行の試みを止めないならば、私から、本の發行権を有利に買ふが望みがあるのですから、金を借さないことはないでせう。(例へば、終りがうまく行つたら、「白痴」をです。)いゝですか、私は彼に一言もそんな申込ひをするやうなことを言はなくても、いゝでせう。とに角、彼の今の住所はこれです、フズネセンスキイ橋・キトネル家、ゴロエチエフの印刷所、印刷仲介人、ガヴリロフ、我が親愛の友よ、私はあなたの御妨げをしやうと言ふではありません、ガヴリロフに御出で下さいと御頼みするではありません。のみならず、そんなことをして下さるに及びません、然し、とに角、あなたに此住所を御報らせしておきます。

私は非常に仕事をしたので、馬鹿になつて了ひました、頭が全くほんやりしました。「天の王国」のやうに、あなたの御手紙を待つてゐます。ロシアからの一聲、——友の一聲、何と言ふ尊いものでせう。私はあなたに何にも物語ることはありません。何の報らせもありません。こちらでは、私は馬鹿になり

愚鈍になつてゐます。けれど、小説を書き終らない限り、私は他のことを企てることは出来ません。それで、私はどうしても、ロシアに居りませう。そして、小説を書き終る爲には、少くとも一日に八時間妨げをうけずに仕事をしなければなりません。私は、借金を拂ふ爲、カトコフに爲すべきものを半分書き終りました。私はその餘の分も拂へるでせう。友よ、書いて下さい、後生だから、書いて下さい。妻は、あなたとアンナ・イヴノヅナに宜しく申してゐます。……彼女はあなた御二人を非常に愛して居ります。アンナ・イヴノヅナに私の尊敬の情を捧けて下さい。アンナ・ニコライエヴナも、あなたに宜しく言ふやう、私に頼みました。さようなら。あなたを接吻します。

あなたの忠實な誠ある

エフ・ドストイエスキイ

あなたが六月號で、御よみになつた四章の中で、(恐らく、三章丈かも知れない、四章は遅れたのですから。)私は最も進んでゐる若い近代實證の挿話を入れました。私には、それが正しく書けたと思ひます、(私は経験でそれを書きました、何故と言つて、私の外に誰も、斯う言ふ事柄に経験がないし、それを觀察したこともないので。)そして、凡ての人々は、私を非難するだらうと思ひます。それは馬鹿々々しい、生氣に愚劣だ、偽りだと彼らは言ふでせう。私の住所、シユイス・エエイ、(ジエネヴ湖)ドストイエフスキイ氏、郵便局留置。

同じ人に

一八六八年七月十九日(八月二日) エイにて。

最愛の親しき友、我忘れ難きアボロン・ニコライエギツチ、あなたに三行書く爲に、筆をとります。五月に下さつた御手紙に御返事をして、六月に長い手紙をあなたに差し上げました。あなたの御手紙(五月の)は、あなたが私を怒つて居られないばかりでなく、(私の病的な性格から、私が馬鹿々々しくそんなことを想像したのです)あなたが私を昔のやうに愛して居られることを證明して下さいました。私は直ちに御返事をしませんでした、何故と言つて、私は、悪くなつて行つた仕事をして、夜書兼行で、二十四時間過してゐるからです。然し、六月に御返事に書いた手紙、非常に長い重要な手紙に、私は今迄何らの御返事も受けとりません。私はこれを二つの原因に歸します、第一、あなたは何か私を怒つて居られます。第二、私の手紙がなくなつたか、あなたの御手紙がなくなつたかどつちか。

私は、全然、最初の原因を信じたくはありません。あなたの最近の手紙(五月のそれ)は、私に斯様にいゝ感情を表はされた後、私に對して怒られるとは、信することが出来ない程でした。それですから、私は盲目的に、手紙が失はれたと信じてゐるのです。私にはさう信する理由があるから、尙さう信するのです。私は、人が私を監視する命をうけたと言ふことをききました。サン・ペテルスブルグの警察は

凡ての私の手紙を開いて、讀んでゐるのです。そして、あらゆる據り所によれば、ジェネヴ領事館は、秘密警察に屬してゐるから、(それは疑ひでなく、事實です)私あての手紙の若干は、留置れてゐるのです。何故と言つて、こゝ(ジェネヴ)の郵便局と秘密な關係が結んでゐるのですから。遂々、人が私に嫌疑をかけてゐること、(何だかは神が御承知です)私の手紙を開き、私が歸る時は、私に不意打を喰はせて、出来る丈け最も嚴重に、私を搜索せよと言ふ命をうけたことを報らせた匿名の手紙を私は受け取りました。それですから、私の手紙が着かないのか、又は、あなたの御手紙が失はれたのかと言ふことを、私は絶對的に信じてゐるのです。(御注意。——純潔な男であり、愛國者であり、始めの考へに叛くまでに忠實であり、君主を崇めてゐるのに、如何して、そんなことを忍ぶことが出来ますか。くだらぬボオランド人や、又は、「コロコル」などと關係があると疑はれることを、如何して忍ぶことが出来ませう……!!)あなたが厭に思つても、彼らの手傳ひをするやうに手が落ちかゝつて來ませう。彼らはあんなに多くの罪人をかまはずにおいて、ドストイェフスキイを疑ふとは。)

然し、そんなことは、問題ではありません。此手紙を、あなたに、手から手へと渡すのは、妻の姉妹です。

けれど、これは手紙ではありません。三行の文字です、何故と言つて、私はもう、あなたに何を書いていゝか解りませんから。とに角、私はあなたの御手紙を受取りません。アボロン・ニコライエギツチ友よ、(あなたは御自分で、私を友と言はれた、)此頃、あなたが私に對して不快でゐられると考へた

ことは、如何に切なかつたことでせう。それに、次ぎの二つの場合には、書いて下さい、書いてよこして下さい。もし、あなたが怒つてゐられるなら、その理由を説明して下さい。もし、あなたが、そうでなかつたら、私を愛してゐることを書いて下さい。

私は、此頃、不幸でした。ソオニヤの死は、妻と私とを非常に苦しめました。私の健康はよくありません。発作が起りました。ゴゼイの氣候は、不愉快です。

私はいくらか金を手に入れると直ぐ、ゴゼイを去らうと思ひます。(然し、とに角、あなたが直ぐに御返事下さるなら、前のやうな名宛てに書いて下さい。ゴゼイ、(ジエネツ湖) 郵便局留置。)

私は厭になる程、小説に不満足です。私は恐ろしく働かうと努力してゐますが、出来ません。私は病的な心をもつてゐます。今、私は第三篇の爲に、最後の努力を盡してゐます。この小説をまとめることが出来たら、私は恢復させよう、さうでない、失はれて了ひます。

妻は、神経を病んでゐます、彼女は瘦せました、だんく、健康が衰へてゐます。

あなたに手紙を上げる前に、ボオルに書きました。彼は、私の名義で擔保で金を借りることを許してくれと云つて來ました、(我々の知つてゐる印刷所の仲介人に。) 彼が困つて居ることを、あなたは御手紙の中で認められたから、私は、彼に借りることを許しました、彼の頼み要求した二百ルウブルの受領證を私は送りました。今は、ボオルから何の返事もありません。

私はあなたに罪があるのです、あなたに尙二百ルウブル借りてゐるのです。私はそれを御返しませ

う、非難しては下さいますな。あなたがどれ程私が困つてゐるか御存知だつたら。

でも、私はあなたに御返しませう。

第三篇はどうなるでせう。

……私がこゝを立つとしても、それは殊に、妻を救ふ爲です。

彼女はあなたに宜しくと言つて、握手してゐます。我々の眞心から尊敬するアンナ・イヴノヴナに、私と妻から御挨拶を申し上げます。

あなたの全く忠實なる

エフ・ドストイエフスキイ

ボオルが私から手紙も、受取りも受けとらないではないかと疑ふ理由があります。受取りは二百ルウブルです。それが郵便局で差し押へられたとしたら、何處にあるのでせう。それは重要書類です。

私が、祖國に叛き、ボオランド人と關係してゐると疑つてゐるではあるまいか、私の手紙を差し押へてゐるのではないかと、誰かにきいてはいけないものでせうか。厭なことです。

然し、今の虚榮主義者、自由主義者は、三年前から私を泥まみれにしてゐることを知らねばなりません。何故と言つて、私は彼らと喧嘩をしたのです。私はボオランド人を嫌ひ、祖國を愛してゐるのです

同じ人に

一八六八年十月七日(十一月廿六日)ミラノにて。

最も親愛なる友、アボロン・ニコライエギツチ。あなたの御手紙を受取つてから暫くになります、三週間になります。そして、私は直ぐに御返事をしませんでした、何故と私つて、私は身體も精神も、仕事に忙しかつたのですから。勿論、御返事をするに、一時間や二時間の時間を見出せたのですが、私は仕事してゐる間は、非常に悩んでゐるので、話すことを非常に喜ばしく思つてゐる丈、それを書く力がないのです。それから、私は、あなたの第二の御手紙を待つてゐましたが、昨日、遂々、それを受取りました、そして、我が親愛なる友よ、それを非常に有難く思ひます。然し、先づ、私は、あなたに對して、少しの不満も感じてゐないので、私はあなたにそう正直に良心から申し上げます。でも、私は却つて、あなたも、何かの理由で私に怒つてゐられると思つたのです。第一、あなたは書くのを御止めになつたからです。そして、私にとつて、あなたの御手紙は大したものです。それが私にロシアの空気を齎らすのです。それは全く祝日のやうなものです。何かの考、何かの文句で、私が怒つたなどと、如何して御思ひになつたのですか。否、私の心は別物です。それから申します、私は二十二年前にあなたと知り合ひになりました、(ペリンスキイの所で始めて、御記憶になりますか)それから、幾度も、生活は私をあらゆる轉々させました、時として、その變化の多いことで、私を驚かしました。然し、遂

々、今、只今は、私の信用し、愛する精神と心を持ち、私の意見と一致する意見と考へもつた人は、あなた一人なのです。あなたが、私の衰れな兄と同様に親しい人でないと言ふことは出来ることでせうか。あなたの御手紙は、私に善ひと勇氣とを與へました。何故と言つて、私の精神状態は、非常に悪いのですから。そして、第一、私の仕事は、私を悩まし、苦しめます。毎月、私か三帖半づゝ書いてから殆んど一年になります。それは苦しいことです。のみならず、私の身の廻りには、ロシアの生活もなくロシアの印象もないのです。そして、私の仕事の爲には、その生活が、始終、缺くべからざるものです。とう／＼、私の小説の觀念を、あなたの御ほめにあづかつたとしても、今まで、それを遂行するのは、華々しいものではありません。私を最も苦しめさせることは、私が前借をして、一年の間書き、それから、寫しかへたり、直したり二三ヶ月を費したとしたなら、それは全く前と違つたものになるだらうと思ふことです。私はその責任を帯びるのです。私が凡てのことを知つた今は、それがよく解るのです。私は、自分のことや小説のことを始めに喋りました。私の境遇がどんなものであるか、始めにあなたに言ふのを欲しません。これから先きに行つて、もつとはつきり、あなたは御解りになるでせう。然し、私の境遇は斯う言ふことです。

一月に、三帖半以上書くことは、私には不可能です。——それは、事實です。——もし、私が、一年中、休みなしに書かうとしてもです。然し、今年で私の小説は終らないやうになりました。そして、私は只、最後の篇(第四編)の半分を印刷しませう。一ヶ月前には、尙ほ終らうと思つてゐましたが、今

は、はつきり解りました。——それは不可能です。けれども、最後の篇は、大きいのです。(十二帖)——それは、私の凡ての見算りで、凡ての希望なのです。今、私には、一切が鏡のやうに見えるので、第四編の細かい目論見に現はれたものよりも、もつといふ豊富な詩的思想をば、私の今近の文學的生涯を以てしても、決して抱いてゐなかつたと言ふ苦い信念を得たのです。それで、出来る丈早く書き、読み合はずに働き、狂氣したやうに急がなければなりません。それで、とうとう間に合はないのです。私のことは言はないとしても、ルスキイ・ギエストニクは、如何に困惑したことでせう、カトコフは私にどんな考を抱いたことでせう、私に斯くも立派なことをしてくれた彼！ 來年は、補足として、この小説の結末を送らねばなりません。そして、それは雑誌にとつては損害です。私は彼らに手紙を書き、補足として發表する雑誌の損失を償ふ爲、來年、印刷する凡てのもの、原稿料を捨てることに決心しました。そして、それは、私に、非常に苦みを與へやうとしてゐます。

こゝの生活は、私には餘りに苦しいのです。ロシアのものは何にもありません、私がロシアの本や新聞を讀まなくなつてから、もう六ヶ月も経ちました。とうとう完全な孤獨となつたのです。去年の春、ソオニヤを亡くした時、我々はゴエイへ行きました。こゝには、アンナ・グリゴリエワの母が加はつてゐるのです。然し、ゴエイは不愉快であります、それは醫者に知れ渡つてゐることです。そして、私が相談した時、彼らは私に教へることが出来なかつたのです。ゴエイ滞在の終り時分、私と妻は病氣になりました。我々が、ミランに來やうとして、シンブロン山を通つたのは二ヶ月前です。こゝは、氣候は

いゝのです。然し、生活は非常に高價です。大變、雨が降つてゐます。倦怠して死ぬやうです。アンナ・グリゴリエワは忍耐強いですが、ロシアを離れて悩んでゐます。そして、我々二人で、ソオニヤの爲に泣いてゐます。我々は暗い生活、僧院のやうな生活をしてゐます。アンナ・グリゴリエワの性格は非常に印象的で、非常に生き／＼してゐます。こちらでは、何にも彼女はしてゐません。彼女が退屈してゐるのを認めます。そして、一年以上も、我々は愛し合つてゐますけれど、それでも、彼女が私と共に、斯様に悲しい僧院の中に生活してゐるのを見るのは、私には苦しいことです。それは非常に苦しいのです。我々が見込みを立てゝゐることは、神様も御存知です。せめて小説が終つたならば、私は一層自由になりませう。ロシアに考へること、さう考へる丈でも苦しいのです。我々は少しの金もありません。それは斯ふことを意味します、歸ると直ぐ、負債の爲、牢獄に打ちこまれるのだと。然し、そちらで、私の仕事は終るでせう。私の癲癇を以てしては、牢獄に墜へることは出来ませう、従つて、獄中で仕事は出来ないでせう。負債を返すのに、どうしたらいいでせう。私は何で生活しませう。債權者が、一年の安靜の月日を私に許してくれたなら、(彼らは三年前から、一ヶ月の猶豫も私に與へませんでした。)私は仕事をして、一年の中にそれを返へすやうにとりかゝりませう。私の負債が如何に大かつたにもせよ、それは、私が既に仕事で拂つたものゝ五分の一しかないでせう。私は仕事をする爲に出発しました。それで、「白痴」の觀念は、殆ど失はれました。そこに、いゝものがいくらかあるとしても、効果はつまらないのです。そして、その効果は、第二版の時必要です、それを、約二ヶ月前から、私は

盲目的にあてにしてゐるのです。そして、それは、私に少し金をくれるやうになるかも知れません。今、小説はまだ完結しませんから、第二版のことを考へるのは無益です。私がロシアに居つたら、金を得んが爲に、どうして働くか知ることが出来るでせう。私は、丁度よい時に、それを取ることが出来るのでした。こゝでは、私は馬鹿になり、力を制限され、ロシアの習慣を失つて了りました。ロシアの空気がなければ、ロシアの人間もないのです。さて、私は、ロシアの移住者の心持が全く解りません。彼らは氣狂ひです。

我々の用事がどこにあるかは、以上の如くです。然し、ミランに止ることも、同じく不可能です。こゝに住むことは、餘りに不便で、餘りに陰氣です。我々は一ヶ月の中に、フロレンスに行かうと思つてゐます。そこで、私は小説を書き終りませう。私は始終、カトコフから金を受けとつてゐます。我々は非常に不足勝ちに生活してゐますが、全部で我々がどの位金を使つたかは、驚くべき程です。いゝですが、小説が完結すると間もなく、カトコフからの送金は、終りませう。又もや、心配と困難です。然しカトコフに對する借金は、始め見つたものを算へて見ると、今は非常に減つてゐます。

私の心はあなたと一所に居りますが、私はあなたの生活には全く馴れてはるませんでした。それですから、あなたのお手紙は、私にとつて、天の賜物です。新しい雑誌(譯者曰、ザリアと言ふ雑誌のこと)の創刊を聞いて、私は非常に喜びました。私は今迄、カシユビレフと言ふ人の噂をきいたことはありませんでした。然し、私は、ニコラス・ニコライエギツチが、とう／＼彼にふさはしい仕事を見つけたこ

とを幸はせと思ひます。確かに、彼が編輯者となり、新雑誌の内部に身を限るやうなことはせず、全くその精神となるやうにしなければなりません。とに角、それは確かなことでせう。六ヶ月前、彼はこゝにゐる私に手紙をくれました。彼の手紙で、私に非常な喜びを與へました、彼が住所を報らせてくれたので、私は其が解りませんから、返事をやりませんでした。その手紙の中で、彼がカトコフにやつた手紙の抜萃を書いてよこしました、その中で、ルスキイ・ギエストニク中の批評欄の仕事をしたいと申込んだのです。カトコフが、彼に何と答へたか知りませんが、そちらでは、新聞や雑誌の編輯者や其他の凡ての位置は、占められてゐる、非常にふさがつてゐることを、私は慥かに知りました。ゴオルの言ひ方によると、一つの地位が、あるものに占められる時は、それを去るよりも、寧ろその地位を蹴とばすのです。然し私の考によると、我々の間で、カトコフが、此事の順序を變へんと欲したとしても、いつも、彼にはさうすることは出来ませう。然し、今、ニコラス・ニコライエギツチよりいゝ何人も彼は見つけることは出来ないでせう。彼がその雑誌にゐる丈でも、最も重大なことで、彼はその地位で絶対的の主人となりませう。あなたと私が理解してゐるやうに、雑誌がロシア精神にひたされ、純粹にスラヴ主義とならないことが、非常に望ましいことです。私の考では、我々は、スラヴ的の觀念を餘りに追究する必要はありません、誇張してはいけません。モスコウに、スラヴ人の會議があつてから、このスラヴ人のあるものさへ、自分の國に歸つて、無禮にも、ロシア人を嘲罵しました、何故と言つて、『彼らが他のものを指揮する任を帯び、それをスラヴ人に命じやうと言ふやうな風をし、自分自身は、殆

ど理解し合つてゐない』からです。そして、引き續いて、さうでした。信じて下さい、スラヴ人の多くのもの、例へば、ブラダの人々は、西歐的、ドイツ的、若しくはフランス的の見地に立つて、我々を全く判断してゐるのです。そして、我國のスラヴ主義者は、西歐文明から採用せられた形式を殆ど、考へに入れてゐないことを、彼らは恐らく驚いてさへもゐるのです。それですから、我國のものは、スラヴ人のことを非常に懸念すると言ふ譯には行かなかつたのです。彼らを研究することは別物です。彼らを助けることもまたさうです。けれども、彼らに友愛を言ふことを課してはいけません、私は只課してと言ひます、何故と言ふに、彼らを兄弟として考へなければなりませんから、勿論兄弟として振舞はねばなりませんから。私もまた、ニコラス・ニコライエギツチが、雑誌に、政治的な色彩、決定的な方向を與へんことを非常に望んでゐます。それは、我々の目に立つ綱紀であり、要求であり、決定的な方向です。とに角、ニコラス・ニコライエギツチは、華かに身を抜け出すことが出来ませう。私は彼の論文をエボカ時代以來、よみませんでした。非常な愉快を以て、それを讀まうと思つて居ります。雑誌が文壇に獨立して立つてゐると、いゝでせう。例へば、オストロフスキの「ミミイン」やその他の歴史的脚本のやうなものには、二千ルウブルは拂はないことです。然し、もし、人が商人に喜劇をやるなら金を出すかも知れません。即ち、(ココノフスカヤの群集)然し、「螺」のやうなものを發表するならば、もう接近出来ないやうになるでせう。又は、書くことが出来ないやうになつてゐる矯飾者E……もさうです。要するに、文學者を選び、名前を拂つてはいけません。作の價値で拂はなければいけません。

ん。——即ち、グレミヤや、エボカの外は、今迄、如何なる雑誌も試みなかつた所のものです。雑誌の最初の二號に、第一流の傑れた文學的作物をのせすに、雑誌を出すことは不能のことです。それは始めから千人の購讀者を失ふことになります。私は忠をする爲にさう言ふのはありません、友情からです。ニコラス・ニコライエギツチが、その雑誌を送つてくれることを望みます。

いゝですか、私はそれに寄稿することを喜んで同意致します。然し、私は今は忙しいのです。私が此小説を書き終つたら、さう望んで下さつてもいゝのです。私は雑誌が實際よくなることを非常に望んでゐます。我が親愛の友よ、詳しいことを澤山書いて下さい。あなたは雑誌に何か發表なさいませうか。第一號に、大きな完全なものを、例へば、あなたの「イゴルの遠征物語」の様なもの、のせて下さい。あなた達の雑誌は何と言ふのですか。澤山の廣告や、申込みを開始されましたか。元旦から御發行にならうと思はれるのは結構なことです。

あなたがお報せて下さつた少し前、私はあなたの仰つた小説をよみました。そして、私は、自白しますが、狂氣になる程でした。(譯者曰、ニコラス一世時代に出た「ツアルの宮廷の秘密」といふ小説なり重なる人物の中に、フィオドル・ドストイエフスキと彼の妻が現はれ、いろ／＼冗談を描ける中に、ドストイエフスキ死し、妻は僧院に入ることを描きたり。)是以上無禮なものを想像することは出来ません。慥かに、私は今、それを悪く言つてゐます、そして、始めにはさうしました。然し、困つたことは、私が抗議をしないと、それで此の醜い本を承認したやうになることです。然し、何處で抗議をし

ませう。「北方」ですか。然し、私はフランス語でよく書くことは出来ません。のみならず、私は機敏に振舞ひたいと思つてゐるのです。私はフロレンスに住居しやうと思つてゐます。そして、ロシア領事館の誰かに相談し、どうしたらいいか、教へを乞ひませう。儘かに、私は、その爲に、フロレンスに住むのではありません。あなた達にゼニスに行くやうにと仰る。(それは、凡ての醫者が健康上から見ても好まれます。)それが、アンナ・グリゴリエヴナを喜ばしさへすれば、私は喜んでさうしませう。そして、私はさうするか如何か解りません。何故と言つて、全く、旅行は餘り長くないのですが、第一、私には殆ど暇がないのです。第二、我々が三等に乗り、三日で、百フラン足らずしかいらぬとしても、それは我々二人の物入りとなりませう。そして、百フランは、我々には非常に大切です。まあ、カトコフから、千フラン受けとることは度々あります。然し、それを受取れば、一ヶ月、若しくは一ヶ月半の費用を差し除いて、長くためておいた借財、旅行、着物の代を支拂はねばなりません。そして、將來は、完全に保證されてゐませんから、強くひきしめて置かねばなりません。そして、殊に、小説を書き終り、夜晝働くのです。何故と言つて、その外にはすることが出来ませんから。

私はラマンスキイに非常に會ひたいと思つて居ります。私はサマリンの本(ロシアの境界)を非常によみたいと思つてゐます。私はそのことを考へてゐる丈に尙更です。——然し何處で手に入れませう。こゝは、恐ろしい。ロシアの本が、澤山あるジエネフでも、勅定臺の上で、どうしやうかと言ふことになるのです。それは、我國の移住者の冗談です。尙、數冊のロシア本があるとしても、——ゴオゴルや

プウシユキンの數冊、——それは寧ろ偶然です。ロシア本の販賣には、秩序も、意味も、觀念もありません。そして、尙、それを高くうります。こゝのイタリヤでは、少しもありません。私はサマリンを買はると思ひますが、こゝでは不可能です。

私は家族のことを心配し、苦勞してゐます。私は、此夏中、ボオルに少しも送ることが出来ませんでした。彼も亦悪い行をしてゐるのです。然し、私は彼を知りません。彼には特別に私を愛する理由がありません。そして、私には彼の務め誤ちを餘り厳しく責める権利はありません。智識の發達してゐない一人ほつちの助けない哀れな子です、どうして彼は誤ちを犯さないと云ふことが出来ませう。然し私は、最もわるいことが起りはしまいかと恐れてゐます。私は大至急、彼を救ひたいと思つて居ります。エミリー・フィオドロヴナは、十一月に、アロンキンの私の部屋を去らなければなりません。何故と言つて、私が屋賃を拂ふことが出来ないからです。凡てのことが私を惱ましてゐます。けれども、どうしても、仕事の方をつけねばなりません。

我が友よ、借財のことは、考へるのも恥かしいのです。それは私を恐ろしく苦しめてゐます。殊に、あなたは私に對して兄弟として振舞はれたのですから、そんなことをしてくれない人は澤山あります。あなたは御自分で御家族をお持です。然し、私は金を受けとりませう。そしてあなたに御返しませう。私は、終ひに私にも亦輝くやうになるでせう。殊に私はロシアに歸らうと思ひます。ロシアへ行けば、私はもつとまく片をつけませう。我々がロシアにゐるなら、ソオニヤは乾度生きたであらうと思ひま

すよ！

アンナ・グリゴリエヴナはあなたを愛し、あなたを思ひ、あなたのことを好んで話します。あなたの奥様と御両親様に、眞實なる私と妻の御挨拶を傳言して戴たう存じます、(私が彼女の挨拶の傳言をしてくれたかと、私に三度も尋ねました。)私からも亦、私のことを思つてくれる凡ての人々に宜しく。

私は非常にコヴレスキイを氣の毒に思ひます。(譯者曰、エゴル・ベトロキツチのこと。多分、當時彼と交際深かりしアンナ及びソオニヤ、コヴレスカヤの父親ならん。ドストイェフスキイは、第二の妻を迎へる前、アンナに結婚を申込んで拒まれし事實あり。)——非常に善良な最も有用な人でした、——恐らく、彼の死後でなくては、完全に人々が彼を理解しない程までに有用の人でした。

全くあなたのものなる

エフ・ドストイェフスキイ

後生だから、書いて下さい。とに角、私の住所は、イタリヤ・ミラノ、ドストイェフスキイ、郵便局留置です。

同じ人に

一八六八年十二月十一日(廿三日) フロレンスにて。

親愛の友、アポロン・ニコライエギツチ、取り急ぎ御返事致します。丁度、私があなたに心をうちあけて御話したいと思ひますからです。私がどんな決心をとつたか御想像下さい。私が、「白痴」の終りにひつかまつて、進捗しないこと、十二月號に書き終る時もなかつたし、またこれからならうとあなたに書いたやうに思つて居ります。私は、カトコフに、全く眞誠をこめて、誤ちを自白しました、即ち、小説の終りは、來年の購讀者に、追加として發表されるだらうと。今になつて、突然、別の決心をしました、(只、ルスキイ・ギエストニクの編輯局では、私の意見と同じだか如何か知りませんが。)私は結論の第四編を完全に終らう、只、十二月號が少し遅れるならば、十二月號にそれを載せやうと決心しました。如何してかは下の如くです。今日、私はカトコフに、露曆一月十五日に、「白痴」の結論は編輯局に行くだらうと報らせました。前の章は、少しづつ、五日目毎に、送るでせう。つまり、次ぎの年の申込みの一月の雑誌が、前年の十二月號の前に表はれる程、毎年、十二月號を遅らせるやうなことはなかつたでせう。此號は斯うして一月二十日頃に出るのです、——従つて、それは少し遅れるでせう。彼らが決したことは私は知りません。然し、今日から毎週、私は印刷七帖を送らなければなりません。私は突然、小説を除く悪くしないでそうすることが出来ることを認めました。のみならず、まだ書き残してある凡てのものは、多少、草稿に書きとめてあるのです。そして、私はそれを暗記して居ります。もし、「白痴」の讀者があるならば、恐らく此思ひがけない決論にびつくりするでせう。然し、考へた後で、吃度、かう言ふ風に終らなければならぬものであると同意するでせう。大體、此結末は、結末として成功

してゐます。私は小説の性質を言ふではありません。然し、私が書き終つた時に、あなたに友として話す爲に、私の考へてゐることを何か書いて送りませう。

私の境遇はかう言ふ風です。けれども、私には絶対に仕事をしなければならぬ澤山の手紙があります。私がさうしやうと言ふ望み、只一つの理由があるばかりです。勿論、あなたは、御手紙がどんなに私に勇氣を與へてくれたか御想像になることも出来ませう。五月以來、私は只一つのロシア新聞もよまなかつたのです。私はルスキイ・ギエストニクの外の外は手にはいりません。そして、雑誌の到着した日は、お祭り騒ぎです。時に、私は、ニコラス・ニコライエギツチに、ザリア誌を第一號から、こゝフロレンスにゐる私に送つてくれるやう手紙を書きました。何故と言つて、私は、それを見ずにはすまぬことは出来ませんから。人々がさう言ふなら、ザリアの編輯局に金を拂つてもいゝのです。我々は自分の勘定を拂ふことになるかも知れません。それで、あなたのやうな親しい苦しんだ友の手紙はどの位までに、私に尊いものであるか、御判断下さい。あなたがストラホフとの話を私に言はれた時は、私が殆どそこにいるかの思ひをしました。私はストラホフからも、一通の手紙を受け取りました。文壇の澤山の消息を報らせてくれました。私はダニレフスキイが、「歐洲とロシア」(譯者曰、彼がロシアをスラヴ同盟の首にすると言ふこと)を書いた論文。ザリアに發表。)と云ふ論文を出したこと、ニコラス・ニコライエギツチが重大な論文だと考へてゐることを知つて喜びました。私はあなたに自白しますが、四十九年以來、ダニレフスキイの噂は決してきゝませんでした。時々、彼のことは思つて居りました。彼は極端なフウリ

エ主義者(譯者曰、フランスの哲學者兼社會學者にして、理想郷フアランステエル(共產制度の大家屋)の建設を主張したる人。)であつたと記憶してゐました。そして、フウリエ主義者としてロシアに歸つて来て、再びロシア人となり、土地と人との愛を恢復したのです。かうして、廣い思想の人と認められるやうになりました。故、アポロン・グリゴリエフが、ベリニスキイがとう／＼スラヴ主義となると言つた言葉を、私は決して信じないのです。かう言ふ風になるのはベリンスキイではありません。大詩人は、各時代をもつてゐます。然し、彼はそれ以上發達することは出来なうせう。彼は、公けの會で、女權論に於けるウ、グ夫人とか言ふ人の幕僚が落ちでせう。そして、ドイツ語も知らないくせに、ロシア語を話す習慣も失つて了ふでせう。それで、新しいロシア人とは誰だか、あなたは御存知ですか。それは昔ボオル・プロシヤ王の時代に分離した百姓です。ボオル王に就いては、ルスキイ・ギエストニクの六月號に、註釋をつけた論文を發表しました。それは、來るべきロシア人の絶對的タイプではあまりせんが、未來のロシア人の一人です。

然し、かう言ふ問題にひつかゝると、言ひ切れません。親愛の人よ、私はあなたに、友として御忠告をきゝたいと思ひます。私はどうしななければならぬでせうか。然し、いゝですか、あなた丈にですよ。他の人々が、私の家事上の事件を知ることとは不用のことです。かう言ふことです。一ヶ月の中に、私の前借をうけとつた作物をルスキイ・ギエストニクの爲に書き上げませう。「白痴」は、印刷四十二帖しか含まないでせう。私は彼から、七千ルウブル位とりました。(結婚前にとつたのと、彼らに頼んだ少しづ

の金を算へて)さうです、七千ルウブル位です。今迄我々は、旅行、着物、子供、凡て、一年平均二千ルウブル費したのは實際です。——それは、サン・ペテルスブルグではすることの出来なかつたことです。

私の計算によれば、(詳細は解らないが)ルスキイ・ギエストニク編輯局に、尙一千ルウブル位の借りがあつてせう。恐らく、それは、彼らも迷惑としないでせう。彼らは、私が働いてゐることを知つてゐます。然し、どうして生活しやうかと言ふことです。小説を書き終へたので、尙約二ヶ月持つてせう、それから如何したらいいでせう。カトコフに、頼むのですか。彼らが私の寄稿を待たないと思つてゐるなら、儘かに、私の要求に應じて、金を送つてくれるでせう。然し、私に最も悪いことは、私が如何なる條件で彼らと應待するか解らないことです。即ち、編輯局に借りのある作家として、私はそれを承知してゐます。然し、彼らは決して仕事をしないのです、——それで、私の小説を彼らが認めてゐるか如何か、又は、彼らが私の寄稿を望んでゐるか如何か解らないのです。そして、金銭上の見地以外に、それは非常に大切なのです。

かの呪ふべき債権者は、私を決定的に殺さうとしました。私は外國に逃げて悪いことをしました。實際、負債の爲に、牢獄に這入つた方がよかつたのです。もし、彼らと話をまとめることが出来たら！——それはまさしく出来ない相談です、何故と言つて、私は親しく會つてさうすることは出来ないので、すから。私は、今、機械的には困難な儘に金を得られる二三の出版を思ひついたから、殊に、さう言ふ

のです。何故と言つて、それは屢々私を成功させました。私は今、かう言ふことを考へてゐます、第一非常に長い小説、「無神論」(後生ですから、我々の間丈の話にして下さい。)然し、それにとりかゝる前に、無神論者や、カトリック信者や、正教派全部の本をよまなければなりません。その仕事は完全な保證をうけても、二年間は、準備がいるでせう。人物は見つけました。それは、我國の社會の一ロシア人で、相當の年配をした非常に教育はないが、教育のないことは不相當の境遇に生れた人で、突然ある年になつて、神の信仰を失ふ。一生涯、彼は自分の業務の外は考へなかつた、彼は、舊習から出やうとはしなかつた、そして、四十五歳まで、何にも際立つたことで身を立てなかつた。(解決は、心理的で深い感情のある人間で、殊にロシア人なのです。)神に信仰を失つたことは、彼に甚大の影響を残しました。(小説の動作と、場に出る服装は、非常に立派なものです。)彼は新しい階級、無神論者、スラヴ人ヨオロッパ人、ロシアの辯論者、隱者、僧侶と往來し始める。彼はボオランドのジェジュイット(譯者曰、ロヨラの創めし宗派、法王に絶対に服従し新教に反抗するもの。)の宣教師にひつかゝる。彼は宗教宗派の奥底をきわめ、キリストとロシアの土地、ロシアのキリスト、ロシアの神を認める。(後生、誰にも話さないで下さい。要するに、私にとつて、此最後の小説を書くことで、此小説を書いた後は、死んでもいいのです。私は全く白狀してしましました。)あゝ、我が友よ、私は、我國の寫實主義者や、批評家と、全く違つた、寫實主義の考を持つてゐるのです。私の理想主義——は、彼らの寫實主義よりもつと寫實的なのです。あゝ、我々ロシア人が、我々の智的發達から見て、最近十年間暮して來たことを、二

度繰り返さなければならぬとしたなら、寫實主義者らは、これが空想であると叫ばないでせうか！けれども、太古から、それは、眞實の寫實主義です。それは非常に寫實主義であるが、一層深く、彼らの主義は、全くうはつづら丈なのです。さて、リュビム・トルツォフ(譯者曰、オストロフスキイの喜劇の主人公)は、實際、最下等のものではありませんが、けれども、これが、彼らの寫實主義が理想的だと自任する凡てなのです。かゝる寫實主義は、私には、非常に深いものとは思はれません。彼らの寫實主義は、存在してゐた眞の事實の百分の一も説明しないでせう。然るに、我々の理想主義は、我々に、かゝる事實を豫言することが出来るやうにさせてゐます。時機は來ました。我が親愛の友よ、私を嘲笑しないで下さい。然し、私は、聖ポオル(譯者曰、新約聖書に書簡を書きたる使徒にして、ロオマにて殺されたる殉教者なり。)のやうに、「人がほめないならば、自分は自ら自分をほめやう」と言ひます。

然し、今の所、生活しなければなりません。私は、無神論を賣り物にしやうとは思ひません、(然し、私は正教に比較して、カトリシズムとジェジュイチズムに就いて、少し言ひませう。)私は、かなり大きな小説、十二帖のものを思ひつきました。それは私の心をひきつけます。私にはなほ觀念があります。私は何にきめませう、誰れに、此の務めをしませう。それは、ザリアにです。然し、私は前借をするのです。そして、あちらの方で、それを承諾するとは信じられません。随かに、私は、彼の人々の助けをうけないでは暮して行かれませんか。然し、あちらには、論文をすつかり書き終へて、送らねばなりません。それは、非常に苦しいことです。論文を書き終へる間、どうして暮しませう。ルスキイ・ギエスト

ニクは、私に澤山送つてくれました。(彼は一帖、百五十ルヴルくれました。そして數千ルヴル前借させてくれます、少くとも、それを前借でくれてゐました。)
「白痴」の終りは、効果と與へるでせう。(私はそれがいゝか悪るいかは知りません。)然し、本屋に第二版を出してくれと言ふに就いては、その半分損をすることになります。彼らが自分で來ることが必要です。然し、彼らは來るでせうか。小説が成功したか如何かは、少しも考へて居りません。のみならず、それを決定するのは、小説の終りです。とにかく、友よ、私に忠告を與へてくださることを御願ひ致します。あなたが、「白痴」の終りを御よみになつた時、あなたから、重要な御忠告を期待して居ります。一月から私は暇です。私の境遇では、何にもせずに腕を組んでゐることは出來ません。生活し、借金を拂はなければなりません。友よ、(これは、只私の間丈のことですが)ザリアに就いて、あなたの知つてゐられること凡て、その財源に就いて書いて下さい。普通、金をくれるか、殊に私に金をくれるか如何かを書いて下さい。私は、自白しますが、ザリアに前借を願ふことは、私にとつて、決定的の事です。暫くの間でも、ルスキイ・ギエストニクを捨てることは、殊に何かあるのですから、私には非常に困難に思はれます。(只、私のルスキイ・ギエストニクに寄稿してゐることに、彼らがどんな個人的の考を持つてゐるか知ることが出來たなら!)のみならず、私は、彼らが私に金をくれると言ふことを知らねばなりません。)とに角、そのことに就いて、何か書いて下さい。それから尙、私は、首に綱をつけて、かう言ふ寄稿を求めなければならぬものでせうか。人々が、それに可成り無頓着である丈それ丈です。私はあなたには、恐ろしく遅れました。――

私は何にも解りません。とに角、私のあなたに書く凡てのものは、我々の間丈で、御相談申上げたので
す。

我が親愛の友よ、ボオルの身を立て、戴いたことを非常に有難く思ひます。彼が、ボレッキイの所に
ゐないとすれば、それでは、何が彼に必要なのでせう。友よ、もう一つ御願ひです、もう一つあります。
私はカトコフに百ルウブル頼んで、あなたに送るやうに願ひました。あなたが今迄親切であつたと同様
に、もう一度、非常な御親切を御願ひ致します。此百ルウブルを、ボオルとエミリイ・フィオドロヴナ
に各五十ルウブルづゝやつて下さい。

……兄のミハエルは、シベリアにゐた私に、金を送つてくれました。然し、要するに、それは
澤山ではありませんでした、それで、私は、少くとも、彼女達にも、もう五倍も多く送りました。シベリ
アでは、印刷した二つの短篇の爲に、私に二千ルウブル受け取りました。——それで、彼は始終私を助
けてくれたではありません。私は彼の生存中、それを返へしました。然し、私が来た時は、工場（譯
者曰、彼の兄ミハエルが弟のシベリヤより歸る前に經營せる煙草工場のことなり）落ち目になつてゐま
した。始めはよく賣れた紙巻煙草は、全く終りになつて駄目になつて、ミレルとラフェルムの爲に、脅
かされて了ひました。負債が澤山出来ました。彼は始終嘆息してゐました。失敗を豫想してゐました。
凡てこれらのことは、彼の番頭であつて、あの雑誌が出た二年目に、千ルウブルで工場を買つたニコラ
ス・イヴ・ギツチによつて確めることが出来ます。——全工場をそれで買つたのです。それは大した富

ではありません。雑誌は彼の手で創められました。彼の考で組織せられました。そして、始めから、彼
は四千人以上の購讀者を得たのです。四年の間、それで、毎年少くも純利益二萬ルウブルありました。
その編輯した本は、今でも證據としてあります、また、證人も居ります。雑誌は、兄を失敗から救ひま
した。私は寄稿して、一年七八千ルウブル以上は決して取りませんでした。雑誌の發行禁止は、兄を破
産させました……彼が死んだ時、負債がありました。然し、その時、私は叔母から一萬ルウブルを頼
んで、それを雑誌の爲に入れました。雑誌は凡ての寄稿者の忠告に従つて組織されました。彼ら凡ては
續けるか、止めるかと言ふ、此相談に参加したのです。續けることにきまりました。私はそれで續行し
ました。此一萬ルウブルの中から、私は八千ルウブルを雑誌の爲に提供しました。そして、私は澤山の
負債を拂ひました。雑誌は成功しませんでした、何故と云ふに、死んだのは私である人々が信じたか
らです。（私はその慥かな根拠を知つてゐます。）私の兄ではないと思つたのです。（人々は、いつも混同
して居りました。）それから、ドストイェフスキイの名は、もう編輯局の頭にのせられませんでした。雜
誌は没落しました。——そして、凡ての負債は私の上に落ちかゝつて來ました。その後、私の著作をも
つて（「罪と罰」をステロフスキイに賣つたので、尙、千ルウブルの拂ひをしました。尙、負債が少し残
つてゐるが、拂ふことが出来なかつたのです。……）

ボオルは、ガヴリロフが私の擔保で、金をくれるかも知れないと書いてよこしました。私にガヴリロ
フの負債を承認する一片の紙を書きました。のみならず、もう一枚送つて、今年か、來年、ステロフス

キイから必ず受取る筈になつてゐる金で、その借金の片をつけることにしました。我々の契約は、斯う言ふ風に記されてあるのです。此二つの紙はまだボオルの所にあります。彼は、ガヴリロフが承諾しないと書きました。私はボオルに私の紙を送り返へすやうに書いてやりました。然し、彼はそれを送つては來ません。そして、今、繰り返しく言つてやつたので、(エミリー・フィオドロヴナの方から) 彼はその中の一つを送るやうに約束しました。私は彼に、その紙をあなたの所に持つて行つて渡すやうに書かうとしてゐます。(それで、その紙を私の歸るまで、保存して下さるやうあなたに御願ひ致します。) 彼から此紙をよこすやう言つて下さい。エミリー・フィオドロヴナの住所、ベテルブルブスカヤ・ストロオナ・シエスキンスカヤ街、コルブ家、十三號家屋、五番。我が友よ、御願ひです。善良な天使であるあなたが、もう一度、こんな御助けをするのを怒らないで下さい。——まだ、私が御借りしてゐる丈それ丈、怒らないで下さい。(然し、もう直ぐに御返し致します。もうぢきです。御返ししないことはありません。こんなことをあなたに言ふのを御許し下さい。然し、我が友よ、あなたは、御自分で働いて暮してゐらつしやるのですから。)

フロレンスは美しい所ですが、餘り濕つてゐます。然し、薔薇がボヤリ公園で、野天に咲いてゐます。繪畫陳列館に何といふ實があるでせう。あゝ、六十三年の椅子に腰かけてゐる聖母を見ました、八日間も見ました、そして、今もそれを見てゐるやうです。然し、殊に、それには、何と言ふ神聖なものがあるでせう。然し、凡てのものは、小説の終るまで残されてゐます。今は私は僧院生活をしてゐるのです。

あなたの「禮拜堂の傍に」は、獨特のもので、斯様な表現を何處に求められたか。それは、あなたの最もいゝ詩の一つです。凡てが面白い、然し、只一つ私の氣に入らないものがあります。それは調子です。それは何と言ふ狂信でせう。あなたはそう言ふやうに見えます、然し、それは、殺人者の涙です……昔、私を喜ばせたヨミアコフの奇蹟的な聖像に就いての有名な言葉が、もう私の氣に入らず、私には餘りに力弱く見えることを御存知ですか。つまんで言へば、「聖像を信するか、否か！」です。恐らく、あなたは、私の意のある所を御悟りになつたでせう。それは、表現するに、全然困難なことです。あゝ、私は何と言ふ澤山のことをあなたに言ひたく思ふでせう。書いて下さい。私の住所、イタリヤ・フロレンス。エフ・ドストイエフスキイ氏、郵便局留置。

アンナ・グリゴリエヴナは、眞心から、あなた並びにアンナ・イヴノヴナに御挨拶を申します。彼女は私以上に悲觀してゐます。何故と言つて、私は少くとも、熱心に働いてゐますから。

追伸、——ルスキイ・ギエストニクの編輯局から、金が來ないと言ふことがあるかも知れません。(百ルウブル。)

追伸、——私はストラホフに手紙を書きました。ザリア誌の編輯局宛で。それはうまく着くでせうか。あなたを接吻します。

あなたの

エフ・ドストイエフスキイ

ニコラス・ニコライエギツチ・ストラホフに

一八六八年十二月十二日(廿四日) フロレンスにて。

あなたは私に非常な喜びを與へてくれました、親愛なるニコラス・ニコライエギツチ、第一は、あなたの御手紙で、第二は、御報らせ下つた面白い消息です。あなたの第一の御手紙に、私は御返事をかきませんでした。何故と言つて、あなたの御手紙が、「私の心臓の中に藏はれ」てあつたけれども、あなたは、御住所を報らせて下さらなかつたからです。私はあなたに眞實に申し上げます、あなたのやうな御手紙、又は、マイコフの手紙は、こゝにゐる私にとつて、天の賜物のやうなものであると。私は十五日前から、フロレンスに來てゐます。そして、長く、少くとも冬中、又、春の一部、こゝに留らなければならぬやうに思はれます。我々が蟻を近くにおいて座り乍ら、フロレンスで一夜を如何に過したか御記憶になりますか。(あの時、あなたは私より、目先がきいてゐられました。あなたは夜會の爲二本の蟻をもつて來られた。私は一本しか持つて來なかつた。私のを飲んで、私はあなたのを取つて了つた。それを誇る必要はありませんが。)然しそれでも、あのフロレンスの五日間は、悪く過したものではありませんでした。今、フロレンスは、一層、喧騒で、一層、賑かで、街の中では、押しつぶされてしまひます。首府の中にもゐるやう、澤山の人々が來てゐます。生活は昔よりもつと高くなりました、然し、サン。

ペテルスブルグに比すれば、非常に安いのです。それにも係らず、私の考は、あなたの方に向ひます、ロシアの方、サン・ペテルスブルグの方に向ひます、然し、「憤慨は強き腕の下には無益です。」「けれど、私はそれで憤慨してゐるのでせうか。さあ。私は、多くの場合、恐らく馬鹿です。然し、憤慨すると言ふことは、私に、たまにしか起らないのです。

文學が、停滞時代をなさんとしてゐることは、全く慥かです。(譯者曰、ストラホフのドストイエフスキイにあてたる手紙に、ザリア誌を發行して、文學が停滞をうけんとしてゐるにより、之を發行するは必要なりと言ふ意あり。)そして、あなたのさう思つてゐられるなら、恐らく文壇は停滞をうけたのでせう。久しい以前からもさへさうです。ね、親愛なるニコラス・ニコライエギツチ、それは立脚地に關係します。私の考によれば、我々の固有に屬する一切のもの、眞にロシア的で獨創的な一切のものが消滅したならばです。——そうすると、文學は停滞したのです。天才を豫知することは出来ません。——その時、文學は停滞したのですから。文學は、ゴオゴルの死以來、停滞しました。私は、我々に固有なものを撰びます。あなたは非常にレオン・トルストイを重んじて居られると、私は認めます。彼のものに我々固有のものがあることに、私は同意します。然し、僅かです。のみならず、私の考では、彼は、我々凡てのものゝ最も個性的な人間となることを知つてゐました。それは、彼の話をする丈を價値はあります。然し、このことは止めませう。こゝに問題があります。『否、私からは何にも望まないで下さい。』とあなたは自ら私に仰つた。この言葉は、眞面目な根據がある筈はありません。あなたが遂々、前に期

眼をきめ、註文をうけて、常に書くと言ふことが厭になつたら、我々凡ても皆さうです。斯様な期限、註文は、殊に年齢のすんだ時は、凡ての意向と凡ての熱心とを破壊して了ひます。然し、御安心なさい。あなたは決して、天分の奥底までも失はれたことはないのです。一年に十二の論文を御書きにならない方がいゝ、三つ御書きなさい。殊に、あなたが順風に棹したら、心地よく御書きなさい。然し、雜誌に調子を與へ注意をひく爲には、(殊に新刊の始めには)二つか三つで十分なるのみならず、可なり重大な論文一つでもいゝのです。然し、最も重要なことは、編輯の仕事です。何故と言つて、編輯長となることは、重大なことです。眼や手をもつて、常に同じ方向に保つて言なければなりません。今は、殊に今は、それが最も重大です。否、ザリアの上においた私の望みを失はせて下さつてはいけません。アボロン・マイコフやあなたの手紙で、此雜誌は、非常に若々しさ、澤山の熱心をもつてゐることを見て嬉しく思ひます。それはその周圍に、何物かを創造せんと欲する人々を集めることが出来ませう。それが若いと言ふことは、同じく新鮮であると言ふことです。それはまた教育的であり、常識に満ちることです。——私はそれを疑はうとは思ひません、何故と言ふに、私があなたを知つてゐるからです。今は、さて、ニコラス・ニコライエギツチ、私はザリアを持つてゐるのです。後生ですから、こゝに、フロレンスに、遅れないやう、一部御送り下さい。それを私の勘定にして送つて下さい、(さうしなければならぬなら)恐らく、我々は勘定をきめるやうにしませう。それが、私にとつて何を意味するか、あなたは御想像出来ませう。それを知るには、自分自身でそれを味はなければなりません。秘密でなかつ

たら、あなたの雑誌の購讀者が何んだか書いて下さい。私はあなたに「書いて下さい」と言ひます。それは、あなたが私を御忘れにならないと私が眞面目に信じてゐることを意味します。私は知つてゐます。あなたは非常にさうすべき筈だと。然し、一頁でも書いて下さい。それは私にとつて、喜びともなるでせう。あなたとアボロン・ニコライエギツチ、私にはあなた達二人しかありません。私は一月の中に、ルスキイ・ギエストニクの爲にしなければならぬ仕事を終らうと思つてゐます。然し、また、此月、著作を止めてはいけません。フロレンスは、濕りますけれど、溫和なのは大變いゝのです。けれど、ミラノでは、家にゐると、何に包まれるか解りません。シユイスのことは話すことをしないでせう。それは本當のラボニイ(譯者曰、スエーデンの北の地方を言ふ)です。

さうです、親密の人よ、私はあなたと澤山話する材料があります。二年の後、意見は、物を判する方法と共に、變じなければならぬと思ひます。あなたが、ダニルフスキイに就いて仰つたことは、私に興味を與へました。それは、慥に、極端なフウリエ主義者であるに相違ありません。(そして、自然主義者です。)私はダニルフスキイを以前知つてゐたと思ひます。彼がフウリエ主義者であつた後、勇敢にロシア人となり、あなたの紹介された通り、尙進んだロシア人となつたら、彼に名譽あれ。私は、飢ゑたものがパンを待つやうに、彼の論文を待つてゐます。それで、かうして、我々の共通な方向と仕事とは、死にはしません。ヴレミアとエボカは、あれでも、効果を與へました、そして、新しい仕事は、我々の止めた章から、勢ひ開始されざるを得なかつた。(譯者曰、先きのストラホフの手紙に、ザリアはヴレ

ミヤ、エボカの仕事を繼續すると言ふ意あり。それは非常に面白いことです。ねえ、ザリア誌に、アボロン・ダリゴリエフに就いての論文、即ち、自叙傳でないものが、年内の中に發表されるのは悪いことではありません。然し、彼の文學的の重大なことを言はねばなりません。私は偶然、ザリアの編輯局宛に書きます。此手紙がつくことを望みます。

私の住所、イタリヤ・フロレンス、エフ・ドストイエフスキイ、郵便局留置。

さようなら。妻が、あなたに彼女から御挨拶してゐることを忘れないやうにと私に注意しました。我々が如何に屢々あなたのことを考へてゐるか御存知でしたら。我々は全く一人ほつちです。然し、私は仕事を終りませう。神が我々に恵を垂れて下さるでせう。恐らく、私は來年ベテルスブルグに歸ることが出来ませう。何と言ふ嬉しいこととせう。我々はその外に期待するものはありません。暫らくは、おさらばです。

眞實にあなたのものなる

エフ・ドストイエフスキイ

同じ人に

一八六九年二月廿六日(三月十日) フロレンスにて。

親愛なる非常に尊敬するニコラス・ニコライエギツチ、あなたの御親切な面白い御手紙に、毎日御返事しやうと思つて居りました。そして、やつと今、私は望みを實現することが出来ました。私は幾度も心の中であなたに御返事しました。毎日、私は、此想像的の手紙に何物かつけ加へて書いてゐました。そして、私が凡て覚えてゐたら、全く一冊の本となるだらうと思はれます。私は先づあなたに御返事するに手間どりました。何故と言つて、私は病氣だつたのですから、(發作が一つ起れば、頭が恢復するのを待たなければなりません。)のみならず、私があなたに手紙を出すことが遅れたのは、あなたも一部分罪があるのです。あなたの御手紙によると、ザリアは出やうとしてゐたやうに思はれました。そしてそれが始めの月より、如何に遅れたか御覽なさい、(譯者曰、ザリア一號は一八六九年一月八日に出で、二月號は二月十八日に出でたり。)然し、私は、第二號を見、そこで、凡ての印象を披瀝しやうと非常に望んでゐるのです。何故と言ふのに、凡てのものが、私を非常に動搖させました。のみならず、私は自分の書くものを、ちゃんと順序よく書きたいと思つたのです。

第一に、ザリアの大體な印象はかうです。私にとつて、ザリアは、幸福な必要な著作です。然し、私には只これ丈ですが、大多數の人々は、今はまさしく、近頃、ゴロス新聞で、此雜誌のことを書いた印象に就いて、私の讀んだ所の記事に應じてゐるやうに思ひます。(その新聞は、こゝで見られる唯一の新聞です。)それは、平凡と因襲、即ち大多數の意見の正確な表現です。此小論文は、明かに、敵意ある意志の下に書かれたのです。然し、論文はつまらぬものです。それを擧げて言ふ程の價值もありません。

それは、明かに、ある見地から、私に面白く思はれました。此論文の筆者は、雑誌と言ふ觀念を知らなかつたのです。何故と言ふに、彼がそれを知つてゐたならば、必然、嘲弄するやうなことをしなかつたでせう。彼は全く驚いて質問してゐます。此雑誌の存在の理由は何であるか。何かそれを呼び起したのか。即ち、それは、何を又言はんとするのかと。さうです。大多數のものが又、そう質問することはあり得ることです。如何なる新雑誌でも、始めの間は、公衆の中に、(全く無關係のものでも)常に雑誌に對する反感が形づくられるのですから、此反感は尙長く認められることとせう。(雑誌が何か第二義の誤ちをして、此の反感に理由を與へると、不幸です)然し、凡てかゝることは、何でもありません。それは、只、細事で、つまらぬことです。その返答をあなたは御存知ですか。『彼らに悪口を言はせよ、少くとも彼らは黙つてはゐません。けれども、彼らはそのことを喋つてゐるのですから。』あなたの方では、勿論、(私のやうに)あらゆる新觀念の成功は、かへつて小數にあることを信じて下さい。此少數の人は力強くあなたの味方です。(雑誌が誤ちや失策を犯しても、そのやうに思はれます)此少數のものが結束して、屹度、今年の終り頃に、立ち上るでせう。何故、私は、こんなに肯定的にそう言ふのでせうか。何故と言ふに、雑誌の中に、觀念があり、明かに、必要なもの、避け難きもの、只、成長すべきものがあるからです。然るに、他の人々は、滅びて行くでせう。然し、此考は、六かしい微妙なものです。あなたは、御自分でよく御存知です。殊に、人々が雑誌を理解し始めた時、即ち、あなた達がよりよくそれを説明されるようになった時、此考によつて、人々は、あなたを、昔に溯ほつた人、カムチャツカ人

賣られた人と呼ぶでせう、然るに、雑誌は、我々の時代の出来る丈自由な進んだ唯一の觀念なのです。あなたがそれを説明して了はれたら、凡ての人々はあなたに従つて行くでせう。その中に、因襲者は、正しく古く遅れてゐる所のものに、常に自由主義と新しい觀念とを認めるのです。オテチエストエンニヤ・ザビスキヤ、デロ紙は、慥かに進んだものと見做されてゐます。あなたは、凡てそのことを非常によく御承知です。殊に、未來はあなたのものであることを御承知です。今、私が何を恐れてゐるか御承知ですか。あなたは、(あなた達の多くの人々は)仕事を恐れて、此大なる仕事をお捨てになりはしまいかと言ふことです。あゝ、ニコラス・ニコライエギツチ、此仕事は、非常に重大なるもので、また、信仰と堅忍とを要するものでありますから、久しい後でなければ、あなたは全然それを御知りになることはないでせう。それは斯う言ふ風に私に思はれます。私は、兄と共同で經營した時に、間接に、少ししかそれを知りませんでした、けれども、プレミヤとエボカは、あなたがよく御存知の通り、その思想の表現に於いて、斯様な明けつ放し、斯様な赤裸々なことを決してしませんでした、そして、殊に始めの中は、寧ろ中齋をとつたのです。あなたは、直接に、天上からやり始められたのです。それはあなたにもつと困難を起しませう、それですから、もつと強く保たなければなりません。

あなたが全く沈黙してゐられた二三年の中に、あなたは大變得る所がおありですね、ニコラス・ニコライエギツチ。ビンドノスト(譯者曰、ストラホフの論文集、「我が文學の不幸。’)ザリアの論文を見て、私が判断すれば、斯う言ふ考を起しました。私はいつも、あなたの説明の明瞭なこと、あなたの觀

念の理論的なことをいふと思ひます。然し、今は、あなたは、比較も出来ない程、一層強くなられた。あなたが、ザリア・ロビエドノストを書かれなかつたことを残念に思ひます。即ち、もう、ロビエドノストが出版されて了つたことを残念に思ふのです。恐らく、單行本では、少しも人々は注意しないかも知れません。そして、慥かに、それが發行されて、讀めば同感を抱く人々の大多数は、恐らく、今迄、その存在を知らなかつたでせう、即ち、ごく單純に、それに氣が付きもしなかつたでせう。(此の小單行本は、従つてすつかり賣れるでせう、それを御信じなさい。何故と言つて、今はそう言ふものは深山出なれと思つて居りますから。)時に、あなたは、我がロシアの批評家の中に、一つの事實の起つたことを氣がつかれましたか。我國の有名な批評家の誰も(ペリンスキイ・グリゴリエフ)有名な作家によりかゝつて、論陣を張りました。即ち、彼は、此作家の説明に一生をさしけるやうな風で、一生涯、此作家の説明と言ふ形式をとらずには、自分の思想を披瀝することに成功しませんでした。それは子供らしくなされたことであり、缺くべからざるやうにも思はれたのです。我國の批評家は、彼れを喜ぶ作家と手に手を組んで出現しなければ、自己を説明することが出来なかつたと私は思ふのです。何故と言ふに、ペリンスキイは、文學の批評によつて、名をあげたのではなく、ブウシユキンの研究によつてではないが、ゴオゴルによりかゝつて名をあげたのです。彼はゴオゴルを尙青年時代にはほめてゐました。グリゴリエフは、オストロフスキイを説明し、彼の爲に戦ひをして出現しました。私があなたを知つてからあなたは、レオン・トルストイに直接な無限の同情を抱いて居られた。ザリアのあなたの論文をよんで、

私の始めに感じた印象は、それが必要であり、あなたの考へ方を表はすにレオン・トルストイから、即ち、私の最後の著作から書き始める他にしやうがなかつたのは、實際です。(譯者曰、トルストイの「戦争と平和」のこと。)ゴロスの文藝欄記者は、あなたが、レオン・トルストイの歴史上の運命説に共鳴してゐられると言つてゐます。いふですか、私は、此愚劣な言葉を嘲笑します、そんなことは問題になりません、然し、これを言つて下さい、彼らは、何處から、斯う言ふ驚くべき考や表現を持つて來たのでせう。歴史的運命説とは何のことですか。因襲者や、愚かな人間が、自分の鼻先より遠い所が見えず凡てを暗くする才能を有し、信ずることも出来ない程、深く、自分の考を含ませるのは、どう言ふ譯でせうか。

何故と言ふに、彼は明かに、あることを言はんとしてゐるのです。疑ひもなく、彼は、あなたの論文をよみました。あなたが、ボロヂノの戦ひに就いて言はれた所で、あなたの仰つたことは、トルストイの全觀念と、あなたのトルストイに就いての全觀念を表はしたものです。もつと明確に言ふことは不可能であるやうに、私には思はれます。ロシアの國民的觀念は、殆ど赤裸々に表はされました。人々の理解しない、で運命説と言ふ所のものはそれです。その論文のその他の詳細に至つては、私は續きを待つてゐます。(まだそれは私の所に着きません。)それは明確です、論理的です、思想は、自覺的な強さを持つて居り、第一流の優美さを以て書かれて居ります。然し、細部に至つては、私の同意しにくいある物があります。面會してから屹度、手紙以外にお話しませう。遂に、私は、あなたを、未來に屬する現代

批評家の唯一の代表者であると見做します。然し、御解りですか、私はあなたの御手紙を不安の念を以て讀んだのです。あなたの用ゐられた調子によつてみると、あなたは動搖し、心配し、非常な悩みの中に居られるのです。また、あなたが期限でする仕事や、勤勉な仕事をする習慣を御欠きになりはしまいかと恐れてゐるのです。あなたは、一年に三つか四つの大論文を絶対に書かなくてはいけません。(あなたは、尙、澤山の説明すべきことを御持ちになるのです、それを信じて下さい。)けれども、あなたは全く制限をこえて、勇氣を失つたやうな風をしてゐられるからです。何故と言ふに、小さいことも、大きなことと同じくあなたを悩ましてゐるからです。然し、雑誌では、慥かにあなたは雑誌の思想を自覺的に披瀝する最も必要な人物です。雑誌は、あなたがなれば、うまくは行かないでせう。(私はさうあなた一人、申します。)斯うしてニコラス・ニコライエギツチ、あなたはしつかりして、此勇氣ある行動をとり、然も長い困難な行動をなし、不愉快なことに何らの注意を拂つてはなりません。あらゆる悲觀は、無際限にあなたの目的を亡ぼすでせう。それであるから、堪え忍び、忍耐することを學び、どうしても、馴れるやうにしなければなりません。然し、あなたは、あなたの仕事を放棄する權利を御持ちにならないのです。私はあなたを呪ふ第一人者となりませう。

今、其他の見地から、私の上に雑誌が及ぼした印象を、手短かに申上げませう。あなたは、私がほめてゐるのを御承知です。それは、思想があり、未來があります。その出始めはすばらしいものです。それは思想を暴露し、含蓄することはなく、中斷を捨て、天上から物を言つてゐます。然し、今は、私

の印象の不愉快な部分に移らうと思ひます。第一、雑誌は小規模です、貧弱です、それは、外觀にさへも認められます。ピセンムスキイの小説の部分は、(即ち、發行者に最も金のかゝつた物で、凡ての人々はさう悟りませう。)私が今迄こんなを見たこともない程、大きな活字で印刷されてゐます。雑誌の見地を披瀝するものとして重要なダニレフスキイの論文は、貧弱に印刷してあります、即ち、餘りに小さい汚字です。悪い結果は後に起るでせう。論文が私の考へで二十帖含むものとすれば、その論文を四つに、少くとも五號に渡つて印刷しなければなりません。一時に澤山に出すことは悪いことです。雑誌は、その信仰宣言をしてゐるのです、それで、之がその重大な論文です。さうしないで、今それを發表すると、論文は十號か十二號全體に長びき、公衆が論文の出たのを見て、當然拂ふべき尊敬を失ひ、退屈することになるでせう。私は物質的見地から判断してゐるのです。物質的方面、外見の方を疎かにしないで下さい。論文が不足です、眞に、初號に、私にどんな印象を生じたこととせう。もう二つの論文が必要であるやうに思はれました。現今の重大な政治がありません。文藝欄ではありません。尙、月々の政治的評論、殊にロシアの讀者には、毎日々々の日記が必要です。それで、今が最も好時機であることを注意して下さい。いゝ政治評論を見つけてもいゝのです。(さあ、エボカの最後の號に書いてゐたあの若い雇ひ記者がゐます。私は彼の名まで忘れませんでした。彼は傑れた青年だと思ひます。澤山々々才能を持つてゐました。)文藝欄の記者は別物です。我國に才能のある文藝欄記者を見出すのは困難です。至る所に、ミナエフ・サルチコフの徒はゐます。然し、當今の日々非常に著しい現象は何と多くあるで

せう。彼らの觀賞が、雜誌の意見の觀念を與へるに、如何に役に立つてせう。あなたは、筆戦を避けて居られる。何故ですか。筆戦はその意見を發表するに最も都合のいゝ方法です。我國の公衆は非常にそれを愛してゐます。斯う言ふやうに、ペリンスキイの凡ての論文は、筆戦の形式をとつてゐました。そして、同時に、筆戦の中に、雜誌の意見をあらはすことが出来、雜誌をして尊敬させるやうになり得るのです。あなたの文體、開陳は、グリゴリエフよりも、無限にいゝものです。それは驚く程明快です。然し、あなたのいつもの無差別は、あなたの論文をして抽象的に思はしめます。感動しなければなりません、時としては、人を打つやうでなければなりません、最も根本的な最も特種的な最も現在のいろいろなことを留意しないといけません。それは、發表せられる論文に、根本的に必要だと言ふ外容を與へませう。それは讀者の心をうつせう。郵便局が送料を値上げするや否や、ザリアが、購讀者に、雜誌を値上げた廣告を、ゴロス新聞で、直ぐによました。それはさうです、それは正當です。然し、購讀者は直ちに斯う言ふかも知れませんが、結構です、あなた、あなたはきつぱりした調子で金を要求なさる、*Si e qui non* (譯者曰、さうでなければいけませんと言ふ意のラテン語) 然し、それぢや、あなたの方でも正確にして下さい。何故と言つて、あなたは、始め八日に御出しになつた。二日目には、あなたは、また一週間遅れました。おゝ、ニコラス・ニコライエギツチ、第一年目に、雜誌が苦勞の多いことを御こぼしになつてはいけません。私の死んだ兄は言つてゐました、『種を播くものが、自分の家にパンがなくなつても、播種することを企てるならば、自分の家族のパンを奪つて、それを地中に投じたことを後悔

しては行けない。あなたがさうしなければならぬとしたら、種をまきなさい。何故と言つて、さうしなければ、何にも生へて來ず、收穫はなくなるでせうから、』と。あなたの方は、立ち所に二千人の購讀者を得られたのです。そこで、それを三千人にする爲に、犠牲を倍加しなければなりません。そして、あなたはさうの通り得られるでせう、二年目には、あなたには雜作もなくなることです。今、あなたはそれ文の讀者は得られません、そして、未來の爲に困難を生じたのです。でも、未來はあなたのものです。然し、堅忍を要します。恐しい程多くの仕事が必要です。あなたの所で、雜誌の重要部、實行方面を擔當してゐる人はどんな人です。そこには、エネルギイのある頑強な容易に身體のきく人が必要です。時としては、一日に三度位は、印刷所に行かねばなりません。……私は論文の續き、殊にあなたのとダンレフスキイのものを待ちに待つてゐます。ピセチスキイの小説は、今は何にも言ふことは出来ません。その續きをよまなければなりません……ルスキイ。キエストニクのツルゲネエフの短篇(私はよみました)は、餘りつまらぬものなので、神か我々はそれから豫防して下さいさるのです。——ピセムスキイの第一部によると、同じく他の部分でも、才に満ちた物を書かない筈はないと判断しました。……最も善良な尊敬すべきニコラス・ニコライエギツチ、あなたが私のことを思つて下さることを非常に感謝致します。私はいつもの通りに暮してゐます。然し、發作は、ペテルスブルグにゐる時よりも、もっと少くなつてゐます。近頃、一ヶ月半前、私は「白痴」の終りを書いて、非常に忙しかつたのです。あなたが御約束なすつたやうに、そのことに就いて、あなたの御意見はどうであるか書いて送つて下さ

い。私は熱心に待つてゐます。私は藝術の活動に就いて、特別な考をもつてゐます。そして、それは、大多数者が、私にとつて現實の眞髓である所のものを、空想的だ、排外的の形式だとしてゐます。現象をこたく並べることや、それを見る因襲的態度が、寫實主義ではありません。却て、反對です。新聞のあらゆる號に、あなたは、最も、眞實で、最も奇怪な事實の報告を御覽になるでせう。我國の作家として、彼らが空想的です、それに、彼らはそのことを氣にとめてゐません。けれども、それは寫實です、何故と言つて、それは事實なのですから。誰がそれらを試験し、論議し、描寫せんとしてゐますか。それらは、あらゆる瞬間にあり、日々により、例外的なものなのです……

僞ロシアの性格の特徴の人が凡てのことを爲し始めんと欲し、大事業を試み、そして、小さいことすらも終ることの出来ないもの。

何と言ふ陳腐でせう。それは輕卒な、古くさい、全く僞りの觀念です。それは、ペリンスキイ時代から尙なされてゐたロシア人の性格の譏訴です。何と言ふつまらない卑しい意見と寫實の概念でせう。いつも、いつも、同じことです。我々は、斯うして、鼻先きのみみの寫實は、うつちやつておきませう。事實に留意し、それに深入するのは一體誰でせう。私はツルゲネエフの短篇のことなんか言ひはしません。それは何だか神が御承知です。私の空想的な「白痴」は、寫實ではない、最もありふれたものでないと言ふのですか。然し、今は、明かに、土地からもぎとられた我國の社會の諸層に、斯様な性格の人々があるに相違ありません。——現實に於いて、空想的となる階級の中にです。然し、何にも言ふもの

はありません。此小説の中では、多くのものが、急いで書かれ、多くのものが長く延ばされ、うまく行きませんでした。然し、あるものは成功しました。私は小説に重きをおくのではなく、思想に重きをおくのです。書いて下さい。あなたの御意見を書いて下さい。出来る丈、心を打ち明けて。あなたが益々私の悪口を仰れば仰る程、私はあなたの眞實に價値を與へるでせう。ルスキイ・ギエストニクは、十二月に終りを發行する暇がありませんでした。彼は補足として出すと約しました。それは二月號の補足となるだらうと思ひます。あなたがその終りを御よみになることを欲します。けれども、私は非常に困つた状態に陥りました。のみならず、私は自分の小説の中の多くのものが、自分でも不満なのです。でも、私は、その父親なのです。

こゝに問題があります。私の爲に、ダニルフスキイや、カシユビレフや、グラドフスキイや、私を思つてくれる凡ての人々に感謝を表して下さい。それが第一のことです。第二に、親愛なニコラス・ニコライエギツチ、私の爲に、非常に面倒な仕事をして下さることゝ信頼して居るのです。あなたの友として關係して頂きたいと頼みます。それは斯う言ふことです。

ザリアが私の寄稿を雑誌の中にのせることを望んでゐるとあなたが御書きになつ時、私は非常に喜びました。私が止むなく御返事しなければならぬことは斯うです。私はいつも非常な金が必要であり、また、私の仕事以外で暮してゐるのではありませんから、常に、至る所、何處で働かうと、前借をしなければならぬのです。實際、どこでも、私にさうしてくれるのです。ロシアを去つて、間もなく二年に

なりませんが、カトコフから三千ルウブルの金を借りてゐるのです。「罪と罰」の古るい勘定の爲ではなく新らしい借りの爲です。それから、私はカトコフから、尙、三千五百ルウブル貰ひました。私は今はカトコフの寄稿者となつて居ります。けれども、今年、ルスキイ・ギエストニクに、何か出さうとは思つて居りません。私には今、重きをおく三つの觀念があります。その一つは、大小説の材料を含んで居ります。私は、來年の始めに、彼らが小説を出したいと言ふのだらうと思ひます。私は今數ヶ月暇がありません。私は、まだその債務者ですが、ルスキイ・ギエストニクは、それでも一度今年金を送つてくれるでせう。然し、私の必要は増加してゐます、(妻がまた子供が出来るのです。)私は澤山出費があります。そして、我々は此頃非常に節儉して暮してゐたので、我々はあらゆるものが足なのです。最近六ヶ月に、我々は全部で只九百ルウブル使つたのでした、それは、ゼゼイからミラノ、フロレンスへ旅をしたのを入れてです。のみならず、此九百ルウブルから、最近、百ルウブルをボオルと、エミリイ・フィオドロヅナに送りました。今、私はまだカトコフから金を受けとつて居りません。私は非常に極端に困つて居ります。ルスキイ・ギエストニクの仕方は正しいのです。私は遅らせました。そして、勘定をしてくれと願ひました。送金は、尙約三日間長びくだらうと思ひます。然し、それは最も重要なことではありません。近い未來が問題です。要するに、私は非常に金が入ります。それですから、私はザリア誌に次ぎの申込みを致します。第一、こゝ、フロレンスにゐる間に、今から前借一〇〇〇ルウブル拂つて下さることを御願ひします、(千ルウブル。)第二、ザリア編輯局に、一つの短篇、即ち、小説を、今年の九

月一日頃、即ち、六ヶ月の中に、送ることを御約束致します。それは「貧しき人々」位の大きさになりませう。印刷十帖、それ以下とは思ひません。恐らくそれ以上でせう。私は一日も遅らせないで、それを御渡しませう。(此度は、私は十分正確です。)私が一ヶ月でも遅れたならば、その餘の拂ひをうけないことゝきめやうと思ひます。小説の思想は、私に非常に氣に入つてゐます。それは、余の爲に作るやうなものではありません。全くその反對です。「罪と罰」に反して、「白痴」の讀者に及ぼした効果は、弱かつたやうに思ひます。それで、凡ての私の自負心は、働いてゐるのです。私は更に効果を出さうと思つて居ります。そして、ルスキイ・ギエストニクよりも、ザリアで、私に注意をひいた方が、私には一層有利です。ねえ、私は、非常に打ちあけて、このことを凡てあなたに書きます。私は一帖の價を百五十ルウブルと申上げます、(ザリアの紙は、小さいから、ルスキイ・ギエストニクのものに従つて勘定をきめます、即ち、ルスキイ・ギエストニクから受けとる丈です。)私は出来る丈よく仕事をしやうと努めます。我が親愛の友よ、それが私の凡ての樂みであることはよく御解りでせう。ニコラス・ニコライエギツチ、あなたに丈特に、私の頼みを申上げるのです。第一、これが雑誌に適してゐるとお思ひになつたら、此仕事の成功を友に期します。第二、あなたが、カシユビレフの同意を得られたら、猶豫なく金を送られ、それを斯様に分割されんことを、何卒御願ひします、此千ルウブルの中の二百ルウブルは、一年以上前から借りてゐるアボロン・ニコライエギツチ・マイコフに、私の非常な感謝添へて、私から送らねばなりません。尙二百ルウブルは、ベスギイ、第一衛戍病院傍、ヤロスラフ街第一號、地主、妻の

妹、マリヤ・グリゴリエヴナ・スヴトコフスカヤに私の分として渡さなければなりません。他の残つてゐる六百ルウブルは、このフロレンスの私の所に、次ぎの名宛で、直ぐに送つて下さるやう御願ひ致します。イタリヤ・フロレンス、エフ・ドストイエフスキイ、郵便局留置。それから、第三、凡てこれをまとめることが出来るならば、それを私に通知し、少しも遅延なく金を御送り下さい。舊友として、あなたに御願ひします。何故と言つて、私は今迄になかつた程、非常な苦しい状態にあるのですから。最後に、其事が成立しないならば、矢張り直ぐに御通知して下さるやう御願ひ致します。それは空しい望みを抱かない爲と、そのことをあてにしない爲と、殊に知る爲にです。

それで、其事が成立するならば、ある時機までは、これに關係しない人々に仰つてはいけません。それから、九月一日頃ザリアの編輯局に送る小説は、今年の雑誌の秋季號に發表せられんことを望みます。それは、ある見つもりから、私に非常に有利となります。然し、全く、編輯者が、毎々發表したいと思ふのなら、私は反対しますまい。要するに、私は編輯局の意志にお任せします。私は自分の望みを表はすにすぎません。

今、舊友として、寄稿者として、私に大變心配なあることを、秘密にあなたに御通知します。私が一年以上前から、アポロン・ニコライエギツチに借りてゐる此二百ルウブルは、私が今沈黙してゐる理由だと、私は信じます。彼は突然、私に手紙をよこすのを止めました。私はカトコフに十二月に、アポロン・ニコライエギツチの名宛で、エシリイ・フィオドロヴナとボオルに百ルウブルを送るやうカトコフに

頼みました。(此頃、私はいつもさうしてゐるのです。)最近の手紙で、エシリイ・フィオドロヴナに、此百ルウブルを渡してくれらるやうに頼みました。彼は恐らく、私が非常の額を受けとつて、金の中に急ぎながらも、彼に負債を償却しないで、尙エシリイ・フィオドロヴナに此百ルウブルを渡すやう頼んだと信じてゐるのでせう。彼は他人を助ける丈のものを持つてゐるのに、自分の借財を拂ふ丈のものをもつてゐないのだ。屹度、彼は斯う考へたのでせう。けれど、彼が、私自分が今どんな状態にゐるか、知つてくれたら! ルスキイ・ギエストニクに非常な前借をしたので、(必要缺くべからざるものゝ爲に、最近六ヶ月間、妻と私とは非常な見慘さに陥つたので、我々はこれつきりと言ふ下着まで質に入れたのです、誰にも話して下さるな。)それで、小説を終る前に、ルスキイ・ギエストニクに頼まうとは思はなです。然し、今、彼は勸定をしてゐるので、返事に手間どつてゐます。慥かに、私は一年間拂はなかつたことに罪があるのです。そして、私はもうするぶん此考へには苦しんでゐました。然し、外國にゐる此二年間に、私は只三千五百ルウブルを費した丈です。私は此額で、旅行をし、サン・ペテルスブルグとソオニヤに幾らか送金をしたのです。私は彼に送るべき金を持つてゐませんでした。のみならず、彼は私に決して請求したことはありませんでした。そして、彼が毎月、返してくれるのを望んで待つてゐたと私は思ふのです。彼を不快ならしめたのは、此エシリイ・フィオドロヴナにやつた百ルウブルに相違ないのです。然し、エシリイ・フィオドロヴナは、まさに餓死せんとしてゐるのです。どうして彼女を助けずにはゐられませう。斯様に暗い私の境遇の中で、誠を盡してくれた人が私を見捨てると考へ

た丈でも、私には非常に辛いのです。彼はあなたに何にも言はなかつたでせうか、あなたは何にも知らないでせうか。もし御存知だつたら、それを私に報らせて下さい。親愛なる人よ。他方では、此二百ルウブルの爲に、親しかつた一八四六年以來續いた交際が破れると言ふことは、私に不可思議に思はれます。それから、此交りなくしては、私は凡ての人々から忘れ去られてゐるのです。さて、私が如何に私が手紙を書いたか御覧下さい。だが、親しい再會と談話の傍に、こんなことを書いて何を意味するの
でせう。それは冷たくて、不十分で、何にも言ひ現はしてゐないのです。さて、何日、我々は會はれませうか。それは恐らくうまく行くでせう。私にはいくらか希望があります。さようなら。アンナ・グリ
ゴリエヴナは、あなたに握手し、あなたのお忘れなきことを感謝してゐます。もう一度、私を思つてゐる凡ての人々に宜しく言つて下さい。アエルカイエヴはどうしてゐるでせう。彼に宜しく。如何に私は
ドルゴモスチツフを氣の毒に思つてゐるでせう。

眞心を捧けて、全くあなたのものなる

エフ・ドストイエフスキ

〔第一頁の餘白に〕 あなたがアポロン・ニコライエギツチに二百ルウブルを返して下さる機會があつたら、傑れたニコラス・ニコライエギツチ、私が手紙で自ら感謝すべきである、ザリア編輯局の決心が前からは知ることが出来ないから、今は御手紙を差し上げないと言ふことを忘れないで下さい。

〔最後の頁の餘白に〕 今は三月十日です、まだザリアの第二號を受けとりません。私は毎日郵便局に

行きます。いつも、Niente, niente です。それから、今は雨が降つて、寒むく、不愉快な天氣です。

同じ人に

一八六九年三月十八日(廿日) フロレンスにて。

非常に尊敬するニコラス・ニコライエギツチ、私に遅れず御返事下つたことを、何よりも先づ感謝致します。私の境遇では、それが半分の仕事です。何故と言ふに、それが、私の仕事と意志とを決定することが出来るのですから。次に、ザリアをするやう取りはからつて下つたことを感謝します。第三にアポロン・ニコライエギツチに就いて、いゝ消息を御報らせ下つて有難う。彼の手紙に返事を出す爲に間もなく自分で彼に手紙を書きませう。彼が私のことをよく言つてゐたならば、私も彼に對しては同様であることを信じて下さい。近頃誤解した間でも、彼に對する私の親密な意向は少しも減じなかつたのです。彼が純潔な正直な人間であることは、久しい以前から、少しの疑ひも入れなかつたのです。

もし、ザリアがまだ望ましい丈の成功を得なかつたとしても、それでも、成功を得てゐるのでも、殆ど重要な成功です。そう言つて差支へないのです。恐らく、あなたが三千の購讀者を得ないとしても、それでも、一年中その成功を支持すれば、あなたは確固たる基礎を得られるでせう。私は執拗にそう繰り返して言ひます。月刊雜誌の中で、どんなものも、斯様な明白な確固たる方針を立てたものはありま

せんでした。第二號は、私に非常な愉快な印象を與へました。あなたの論文に就いては、それが眞の批評であると言ふ外には、何にも言ひません。それは、正しく、今最も必要なもので、最もよく事情を説明してゐる言葉です。ダニレフスキイの論文に就いて言へば、私の見る所では、それは畢々重要な大切なものとなつて行くのです。それは、長い間、全ロシア人の枕元から離されぬ未來の本となりませう。その言ひ廻しが嚴密に科學的であるにも係らず、その文體、明快、一般性が、如何にそれに力をなしてゐるでせう。私は、あなたと此此文に就いて、如何に話したいと思つてゐることとせう。ニコラス・ニコライエギツチ、全くあなたとです。然し、餘り澤山のことは芽をねばならぬでせう。それは、私自身の決論と、私自身の思想と、非常に一致してゐるので、私は各頁毎に、信じてゐることの類似に驚いてゐます。既に久しい以前から、二年以前から、私は澤山自分の思想を書いておきました。何故と言つて私らまた、殆ど同じ題で、同じ觀念と同じ決論をもつた論文を書かうとしてゐたのです。私が今殆ど同じものに出會つたとき、私は如何に嬉しく驚いたこととせう、それを私は、非常な論理的力を以て、斯う言ふ科學的方法を以て、既に實現せられる未來に、順序よく調和的に、實際せんと欲したものです。斯う言ふ方法は、私があらゆる努力を傾けても、決して達することが出来ないものです。私は非常に此論文の續きを讀みたいと思つてゐますので、毎日郵便局に行き、ザリアが早くつくことの出来るを算へてゐるのです。(編輯局で、せめて、二章でなく三章を出してくれたら！人は二章をよみ考へるのですもうまる一月か、或は、四十日も知れぬ。——何故と言つて、ザリアは、全く、正確に出ることは、

儘かでないから、さうではありませんか。)

私は、恐怖と、決定的論決とで、少し尙疑つてゐる云ふ理由から、此論文をよまうと望んでゐるので、ダニレフスキイが、宇宙に未知なロシアのキリストを此世に現はすやうになり、その原則が我が正教の中に含まれてゐるといふロシアの運命の決定的根據を、彼の全力の中に示すかは、私がまだ全く信じてゐないので。私の考では、我々の文明の力の原則、我々によつて全歐洲の復活する原則、及び我々の未來の力の凡ての精髓は、そこにあるのです。然し、少しの言葉では、その見解を披瀝するに十分ではありません。そして、私は斯う言つて悪るいこととしました。私は只斯う言ひます、斯様に眞面目でロシア的で憂慮的で觀察的な雜誌の方針は、必ず成功を得るに違ひない、全く偽りの排他的の亂れた神經の我々の憐れな否定の後であるから、讀者の心には喜びを起すに違ひないと。

のみならず、ザリアの第二號は、豊富な内容を持つてゐます。非常にいゝ論があります。此號をみるのは愉快です。然し、此最も尊敬するニコラス・ニコライエギツチ、あなたの御手紙のある行は、一時私を驚かしました。何故あなたは、——何たる悲觀、何たる明け放しの悲みをもつて——あなたの論文が成功しなかつた、人々はそれを理解しない、それを興味あるものと思はないと仰るのですか。然し、すぐに、凡ての人々がそれを理解すると、實際あなたは信じて居られるのですか。私の考では、それは論文に對し敬意を拂はないことになると思ひます。餘り早く、餘り迅速に理解せられることは、長つゞきするものではありません。ベリンスキイは、その生涯の終り頃にのみ、あのやうに人望ある有名をか

ら得たのです。そして、グリゴリエフは、生前殆ど何物もかち得ることなしに、死んで了ひました。私は、あなたを、斯様場合に、同じく賢明さを表はすことの出来る人と見なしてゐた程、ふだん、あなたに非常な尊敬を有して居りました。物の性質と言ふものは、多数者には解らない程微妙なものなので、彼らは、人が彼らによく嚙んでふくめてやつた時の外は、理解しません。然し、其迄は、あらゆる新しき観念は、彼らに餘り興味あるものとは思はれません。人が單純に明確に其を現はせば現はす程、(即ち一層の才能をもつて)益々、それは單純に一般的となるのです。あなた、それが法則です。私を許して下さい、然し、あなたが、「非常に解りのいゝ人々でも理解しない」とあなたが無經驗に言はれたことに、私はほゝゑみます。かゝる人々は、他の人より一層、理解しないもので、他人の見解の邪魔をするのです。そして、それには、非常に明かな理由があり、また法則があります。然し、あなたは、グラドフスキイやダニレスキイが喜んでゐる、アクサコフがあなたに會ひに来たなど、自ら仰つた。それ丈で、あなたに十分ではないのですか。私は、それでも、あなたが、自己を十分自覺し、前に進む内の要求を持つて、活動を尊敬することを失はれず、仕事を御すてにならないと、確かに信じました。どうぞ、私に恐怖を起させないで下さい。あなたが御去りになつたら、ザリアは失はれて了ふでせう。今、用事を話すことにしませう。私の金銭事件は、カトコフの送金によつて、少しよくなつて來ました、彼は寄稿者として私をほめるやうな鹽梅で、私は彼に非常に感謝して居ります。然し、私は非常に貧乏してゐるので、私に送られた此金も、私には一時的にしか役に立ちませんでした。間もなく、更に

私は困ることになりませう。然し、最も尊敬するニコラス・ニコライエギツチ、それは金のみではなく寄稿する望みを私に起させた、ザリアに對する眞の同情であることを、よう御信じ下さい。(あなたはそれを疑つては居られないでせう。)それにも係らず、あなたが御手紙でさう言つて下さつたやうに、カシユビレフの申込みを、私には絶対に承諾することは不可能です。——何故と言つて、それは、物質的に私に不可能なんです。千ルウブルを分割して送る、(そして、始めの拂ひは直ぐでないのです。直ぐにと言ふことが、最も大切なことです。)今、それは、私にとつて餘りに少いのです。比較的いゝものを書いて、——十帖か十二帖——そして、九月まで、全部で千ルウブルの時手に入れることは出来ないことは、私の境遇としては不十分であることを認めて下さい。慥かに、前に、こんな申込みをして、同じやうな状態に陥つたことがあります。然し、一ヶ月前、ルスキイ・ギエストニクが沈黙をすると同時に、私は非常に痛苦に陥つたので、一時に直ぐに千ルウブルに借して貰ふことは、私に非常な價値をもつたのです。今、私は更にいゝものを書き始めて、來年、今迄私に金を送らないことはなかつた。ルスキイ・ギエストニクに、小説を、出来る丈書き始めなければなりません。のみならず、私はカトコフを捨てる意思は決してもつて居りません。然し、それでも、私の寄稿を望んで、私の申込みが雜誌の目的に乏しい場合には、昔の條件の代りに、ザリアに今斯う申し上げやうと思ひます。

私には、餘り大きくない、約二帖、恐らくそれより少し上の物語をもつてゐます。(ザリアでは、恐らく三帖か、三帖半を占めることでせう。)私は、此物語を、三四ヶ年前、兄の死んだ年に、アボロン・グ

リゴリエフの言つたことに對する返事として、書かうと思つたのです。彼は私の「地下室の思出」をほめ、「それで、斯う言ふものをお書きなさい。」と言つてくれました。それは、「地下室の思出」ではありません。その根本はいつも同じですが、形式から全く違つたものです。ニコラス・ニコライエギツチ、あなたが、私の中に、作家として特種な不思議な根本を何か御認めになるなら、私のいつもの根本なのです。私は此物語を非常に速く書くことが出来ます。何故と言つて、此物語の中には、私にとつて明かでないものは、一行も、一言もありませんから。それに、何にも書きとめてないとしても、もう凡てのもは書かれてゐると同じです。私は此物語を書き終つて、九月一日前に御送りすることが出来ます、あなたはその以前には御入用がないと思ひますが。それで、夏の中に、私のものを出さうとはなさらないでせう。とに角、二ヶ月の中に、其を御送りすることが出来ます。あなたや、ダニルフスキイ、グラドフスキイ、アイコフが書くやうにと仰つた所に、書きたいと思つてゐますけれど、今年、ザリアの爲に書くことの出来るのは、是丈です。然し、こゝにまた条件があります、カシユビレフの第一の返事の返答として、それを彼に御傳言下さることを願ひます。

私は始め、直ちに、三百ルウブルの前借を御願ひします。御承諾の場合には、此額の中から、ニコラス・ニコライエギツチ、あなたに偏へに、マリア・グリゴリエヴナ・スヴトコフスカヤに直ぐに百廿五ルウブル御渡し下さるやう願ひします。前の手紙で住所を書きました。他の百七十五ルウブルは、遅くとも、今から一ヶ月の中に、フロレンスの私の所に送つて下さらねばいけません。(即ち、三月の十八日(卅

日)からで、私は、我國の曆で四月十八日頃、百七十五ルウブル私の所に送つて頂きたいのです。)そこで、私は二ヶ月の中に、短篇を送りませう。私は侮辱に償しないやう、即ち、最もよく仕事を書き上げることに、全力を盡ませう。(私は金の爲に、題材を想像することは出来ません。私が物語の觀念をもたなかつたら、條件を提出しやしません。)

ニコラス・ニコライエギツチ、今、私の條件、商賣、その他の爲に、御怒りなすつて下さるな、(私は友としてそれを御願ひするのです。)それは全く商賣ではありません。それは、私の境遇の正確明瞭な屈開です。そして、それが正確で明瞭であればある程、益々仕事は、よく涉どつて行くのです。然し、私は、あなたを餘りによく知つてゐるので、あなたが批難をなさうと信じはしません。あなたが、人間として、文學者として私を尊敬して下さらなかつたら、あのやうな御手紙を下さいはしなかつたでせう。そして、私は常に、(我々の如何なる關係でも)あなたの御意見を入れてゐたのです。

ニコラス・ニコライエギツチ、今、私はあなたに、非常な用事を御頼みしてゐるのです。私の手紙を御受取りになつた後、すぐに、カシユビレフの決心を私に報らせて下さい。それは、私の見つもりを立てる爲、殊に、仕事の爲に、非常に必要なのです。もし、あなたがお忙しいのなら、ほんの數行でいゝから報らせて下さい。

マリア・グリゴリエヴナ・スヴトコフスカヤの住所、

ベスキイ、衛戍病院前、ジャロスラフスキイ街、第一號家屋(屋主の所、即ち、自分自身の家。)

さようなら、最も尊敬すべき傑れたニコラス・ニコライエギツチ。あなたの御手紙は私にとつて大變喜になりました。アンナ・グリゴリエヴナがあなたに宜しく。私はあなたに全然誠を捧げるものです。

エフ・ドストイェフスキ

追伸、——一帖の價は、常に同じです。ルスキイ・ギエストニクの印刷紙一帖、百五十ルウブル。いゝですか、短篇が二帖以上になつたら、ザリアは超過の分を拂ふのですよ。

追伸、——誰かあなたに私の健康が悪いと言ひました。私の健康は非常にいゝのです。發作は續いてゐますが、私がイタリアに住んで以來、ベテルスブルグにゐた時よりも、文字通り二倍も少なくなつてゐます。

同じ人に

一八六九年四月六日(十八日) フロレンスにて。

非常に尊敬するニコラス・ニコライエギツチ、あなたの凡ての御骨折りに對して、非常に私は感謝して居ります。それがあなたのきちんとした性分から爲されたので、あなたに用事をして頂いたことを非常に嬉しく思ひます。然し、私は尙あなたに御願ひがあるのです、それは恥づかしいことなのです。それで、私は何よりも、一つのことをあなたに御願ひします、私の御頼みが少しでも、面倒であつたら、

うつちやつておいて下さい。殊に、私はあなたに重荷をかけたことはありません。私は、只必要に迫られて問題の御話にするのです。

おゝ我々はそれにとりかゝりませう。

第一の御願ひ。四月の半頃、私に金を(百七十五ルウブル)送ると御書きになりました、そして、あなた御自分で、その送金を監視すると御約束されました。私は此約束を非常に有難く思ひます、何故と言つて、私には、自分の知らない編輯局の人々の正確さやきちんとしてゐると言ふことをあてにするとは出来ませんから。然し、もし、それが出来るなら、送金の時機を早めて、四五日先きにして頂けませんでせうか。それが私の御願ひです。何故と言つて、家族の爲に、私はフロレンスを去らなければなりません。こゝは非常に暑つくなり始めました。醫者の言ふことによると、夏の氣候は、アンナ・グリゴリエヴナの身體に適してはゐないさうです。のみならず、今は、醫者と、解る話をする立派な助手を探さなければなりません。フロレンスは高いのです、ドイツではよかつたのです、我々の住んだことのある知合のあるドレスデンは私にいゝのです。けれども、毎週毎週經つて行けば、妻はまだ四ヶ月はあつたのですが、彼女の爲に、旅行が困難になるのです、(譯者曰、ドストイェフスキの妻は、妊娠してゐるなり)そして、さうすることが早ければ早い程いゝのです。要するに、澤山にそんな事情があるので、近の中に我々は、フロレンスに、アンナ・グリゴリエヴナの母が来るのを待つてゐます。そして、出来る丈早く、我々三人は錨を上げて、エラスを通り、ドレスデンに出發するのです。百七十五ルウブ

ルは、斯様に長い旅行の爲に、十分なものではありません。そして、私は、金がありませんから、出發まで、始終、信用借りで生活し、私のこれから受取る金で支拂ふことを望んでゐるのです。二日前に、計算して見て、私は、餘り少しか残つてゐないので驚きました。それですから、直ぐに送つて下さることが出来ないか、即ち、數日早く送つて下さることは出来ないか如何かとあなたに切に御尋ねするので、用事は、いゝ時機になされると尊いものです。さて、これが私の第一の御頼みです。

第二の御頼み。ザリアに就いて。私が斯様に遅くそれを受けとつたので驚きました。ある報らせによると、(時々ゴロスを読みます)それが私が受取つたより、もう少し早く出たと信じてゐました。私は待ちに待つてゐました。それは堪え難い苛責です。待つと言ふことは、如何に苦しいものか、あなたは御信じになることが出来ません。ニコラス・ニコライエギツチ、私が丁度早く受けとることの出来るやうとりはからつては頂けませんか。私は同時に、説明の爲、付け加へて申しますが、始めから、ザリアを只で貰はうとは思つて居りません。金を拂はうと思つて居ります。私の短篇が、今、送つて下さる金以上、一帖半も餘計にあると信じてゐます。さて、勘定をする時に、編輯局で購讀料を引き去つて下つていゝのです。それが第二の御頼みです、だが、小さいいろいろなことがあります。例へば、此手紙があなたに到着する時、ザリアがもう来たなら、直ちにフロレンスの私の所に送つて下さい。何故と言つて、あなたは、尙私のフロレンスに居ることが御解りでせう。それが出来ないなら、フロレンスに送らずに、我々の新しい住に願ひます、ドイツ・サクソニヤ・ドレスデン、郵便局留置、フィオドル・ドストイ

エフスキイ氏。

第三の(細かい)御頼み。然し、あなたが少しでも、うるさいと御思ひになつたら、それが少しばかりのことでも、頓着なく、打ちやつておいて下さい。かうです、

私は前に、私の短篇は増加するだらうと信ずるとききました、その爲に、編輯局は、追加を拂ふべきことになるのです。ですが、ザリアの購讀費の外に、まだ讀まない數冊の本を買ひたく思ひます。それは、サマリンの「ロシアの隅々」と、トルストイの「戦争と平和」全部です。第一、「戦争と平和」は、すつかり讀んでゐません。(第五冊のことは言はないとして)私のよんだものを、すつかり忘れて了ひました。餘り早くなくてもいゝのですが、私の金で此二つの本を、バズノフの所で只、信用借りをして、即ち、誰にも損害をかけないやうにして、勘定をする時拂ふやうにして下されば、ドレスデンの私の住所に、御送り下さるやうに御頼み致します。さて、これが私の第三の御頼みです。いゝでせうか。非常に尊敬なるニコラス・ニコライエギツチ、此御頼みが、あなたに、澤山の困惑と騒動を起すものか如何でせう。さうなら、止めて下さい。あなたのお手紙の中で、私のよんだものを御きゝになつた。私はギルテエルとデイドロを冬中よみました。確かに、それは私に愉快を引き起し、有用なものでありました。然し、私は我國の現在の何物かを知りたいと思つてゐるのです。

私は最近、「白痴」の終りを、分冊で受取りました。(郵便で、もとの購讀者に送つたのです)あなたが御受けとりになつたか如何か知りません。私は、マリア・グリゴリエヴナ・スプトコフスカヤに、バズノ

フに話してくれるやう頼みました。第二版を彼は買はないでせうか。故障があると、悪るいのです。私は最少限の價を要求しました。(元の版と比較して、千五百ルウブルです。)バズノフが拒むなら、思慮のない男です。何故と言つて、私のどんな作物でも、二版をもち耐へることが不可能ではないことを彼が知つてゐる筈だと信じますから。(三版、四版、五版のことは言はずとも。)私が今御報らせしたことを或時まで誰にも言はないで下さい。

凡てのことを、一寸でも、黙つてゐて下さい、あなたの如くこの不可能のことや、「駄目になる計畫」などは言はないで下さい。それは、心に痛みを與へませう。人々は、あなたが偽善的にさう言ふのだと信じませう。今迄、あなたは、こんな明快、論理、瞥見、自信のある演繹法を持たれたことはなかつたのです。あなたの「ロシア文學の貧弱」は、あなたのトルストイの論文より私の氣に入つたことは事實です。それには文學の豊富さがありません。然し、また、トルストイ論の最初の半分は、すてきなものです。それは、批評の舞臺の装ひの理想です。私の考を言へば、此論文は一つの缺點をもつてゐます。然し、第一、これは私考であつて、第二に、斯様な缺點は賞讃すべきものです。此缺點は、「過度の熱誠」と呼ぶので、それは、作物を害せずして、常に其をよくするものです。然し、とに角、私は、「ロシアの批評の中で、こんなやうなのは何にも、讀んだことはありませんでした。ダニレフスキは、直ぐにそれを見出すことは出来ないとしても、彼の論文は、非常な未來を持つであらうと思つて居ります。斯様な作物が消えて了つて、何等の印象を残さないなど、想像することは不可能です。フロオル・スユ

バイエフ(譯者曰、ザリアの第三號に載せられてあるもの)のものは、ザリアに直ぐに發表するやう、あなたにお手許を差し上げやうと存じましたが、暇がないので、非常に心配してゐます。それに、私はさう書いたかも知れません。アゼルキエフはどうなるのやら知りません。然し、「大尉の娘」(譯者曰、プウシユキンの作)の後で、斯様なものはよんだことがあります。オストロフスキは、上品でその商人よりも傑れて居ります。彼が商人を人間の形で現はすやうになつたとしても、讀者や見物人に「さて、何ですか、これも矢張人間です。」と言ふやうな風をしてゐます。いゝですか、オストロフスキの批評で、ドブロリウホフが、グリゴリエフより正常なことを言つてゐると、私は信じて居ります。恐らく、「暗黒の王國」と言ふ考は、オストロフスキに浮んだことがないかも知れませんが、トドロリウホフは、物事をよく定義し、いゝ地盤に立つてゐます。アゼルキエフには、才能と想像に於て、オストロフスキと同様の閃めきを見せるか如何かは知りませんが、解釋と解釋の心持は、無限に傑れてゐるのです。何ら先入主の考がありません。アンヌシユカは、絶対にいゝものです。父もいゝのです。私は只、フロオルがもつと才能のあることを欲するのみです。ニコラス・ニコライエギツチ、あなたは、エリック・ボヤリンやナシユチョキンやリチコフは、過去の凡ての紳士であることを御承知ですか。(他のことは言はないが)それは、何らのカリカテウルのないロシア貴族の威嚴です。何故と言つて、オストロフスキ流に、それを嘲笑することは出来ません、却つて、彼らの紳士の態度、ロシア貴族的の態度を賞讃しなければなりません。それは最高の最眞實の此時代の大人物です。そして、そこに幾分の

滑稽を認めたとしても、恐らくカフタン（譯者曰、トルコの貴族紳士の着る毛織の衣裳。）の着物のやうなものではありません。何よりも殊に、それが實際の描寫であり、明かに存在してゐる所のものであることが認められます。ニコラス・ニコライエギツチ、彼は新しき大能才です。そして、恐らく、近代の多くの能才よりも、傑れてゐるでせう。彼が喜劇にのみ達してゐるとすれば、何と言ふ損害でせう。

私は三月ザリアに就いては何か言ひたいと思ひましたが、書かないことにします。即ち、三月號の美文に就いては言はうと思つたのです。（二月のものです。）然し、私はまだ待つてゐます。私は書くのが適當な時と思つてゐません。私は恐しいのです。凡ての人々に宜しく。あなたと強く握手します。アンナ・グリゴリエヅナがあなたに宜しく。

全くあなたのものなる

エフ・ドストイェフスキ

追伸、——いゝですか、金をフロレンスへ送つて下さらなければいけません。さうでない、私は出發することは出来ません。ザリアが出たら、矢張フロレンスへ送つて下さい。然し、それが少しでも送れたら、ドレスデンへです。

〔第一頁の餘白へ〕後生ですから、猶太人に對してするやうに、前に私の短篇を豫告しないで下さい。

同じ人に

一八六九年四月廿九日（五月十一日）フロレンスにて。

非常に尊敬なるニコラス・ニコライエギツチ、あなたから期限が示された後に、するぶん經ちました。私が金を受取らないのみならず、何らの便りも受けとりません。けれども、便りは、私にとつて、凡てのものより一層尊いのです。私は何にも企てる事が出来ません。私は待たなければなりません。それは私を全く束縛してゐます。こゝで、私は此待つてゐる爲に、三倍以上も出費しました。一月借として實の約束を改めない爲に、約三日間と自分の考から借りてゐました。月借としても、日借りとしてでもなく、私はもう八日間も金を拂つてゐるのです。それは非常に高くつきます。凡ての他の出費もかう言ふ工合です。——それは高く不愉快です。そして、私は何にもなすことは出来ません。もし、金を頼む爲、他の人に願ふとしても、尙フロレンスに止まつてゐなければなりません。こちらは、暑いのです。然し、重大なことは、我々が不健康な状態にあることです。あなたの方ではどうなつてゐるのですか、後生ですから、それを明かにして下さい。あなたが、あのやうに確かに保證を與へられた後、私は自分の出發と時間を定めました。あなたは御病氣ではないのですか。あなたは住所を御間違ひになつたのではないのですか。あなたに私は繰り返し申し上げます、イタリヤ・フロレンス、フィオドル・ドストイェフスキ氏、郵便局留置。

ザリアと何か不愉快なことが起つたのではないのですか。私は第四號を受取りませんでした。何故、それは出ないのですか。

非常に尊敬するニコライ・ニコライエギツチ、私はあなたに、非常に重大な御頼をしてゐるのです。待つべきか、さうでないのか、書いて下さい。御願ひです、一瞬間の猶豫もなく書いて下さい。せめてかうして下されば、あなたは私の腕の束縛をほどいて下さるでせう。全くあなたのものなる

フィオドル・ドストイェフスキイ

妻から宜しく。私はこんなにあなたの御邪魔をしても、怒らないで下さい。私が恐ろしい境遇にあることをあなたに断言します。然し、殊に、私には、編輯局に何か起つたかのやうに思はれます。御返事をほんの二言です。

同じ人に

(一八六九年八月十七日に受取れるもの)

非常に尊敬するニコラス・ニコライエギツチ、あなたが御無沙汰なすつたとて自ら咎めないで下さい。それは、此世に屢々あり勝ちなことです。のみならず、編輯人は、友と文通する暇があれば、それと寄稿者と文通することが少くなるのです。然し、最も尊敬し、親しきアポロン・ニコライエギツチの手紙にあなたが追伸を書かれたことは、あなたが私に確に親切であることを示し、判じさせます。それは私にとつて、非常にいゝことです。何故と言ふに、私が暮せば暮す程、私に對して親切な人々は少なくなつ

てゐるのですから。私自身が罪あるのです。私は外國に、非常に長く止つてゐます。私は自分のことを考へて貰ふことは出来ません。それで怒る権利はありません。然し、このことは、もう、澤山です。第一、エゼロフスキイの住所と、同時に私の爲めを考へて下さつたことを感謝致します。私は、エゼロフスキイに手紙をやりました。私は詳細に、アポロン・ニコライエギツチに、そのことに就いて私の考へは如何か詳細に書きました。……

私はほんの十日前、ドレスデンに来て居ります。然し、三ヶ月以前、ドレスデンのある人に示した住所は、正確です。何故と言つて、私がフロレンスから送つた私の頼みで、ドレスデンの郵便局は、ドレスデンに來た凡ての手紙を、フロレンスに送つて來ました。さうです、あなた、私がフロレンスを去つたのは、只、三週前でした。私は七月中と八月の一部をあそこで暮しました。如何なる人も、斯様な暑さに決して堪へるものでないと、あなたは保證して言はれてもいゝのです。ロシアの蒸風呂の入浴、それこそ、之に比較することが出来るものです。そして、それが晝も夜もです。空気がきれいなことは、實際です。空は非常に日光をうけて青く朗かです。然し、それでも堪へ難いのです。私は、自分自身の眼で、日陰で、(非常に奥深い日陰で、隠れた場所にあるのです)列氏三十五度になつたのを見ました。三十一度、三十二度此三週間は、極普通です。夜は、氣温は和いで、列氏二十六度となりました。そこで、我々はほつと息をつくことが出來たのでした。凡ての漫遊者が、海に、獨逸に、獨逸の海に、去つて了つたにも係らず、尙、フロレンスには驚くべき多くの群集が居り、言はゞ、多くの幌馬車があつた

ことを御想像なすつて下さい。彼らは、その御化粧をあらはに見せ、散歩などしてゐるのです………要するに、私がおそこで、どの位、つまらなく、他國人だと感じたが御存知になつたならば！

我々の旅行は、エニスを通つてなされました。(エニスは何と言ふ楽しい所でせう。)そして、ブラアグでは、まさに凍え死にせんとし、(フロレンスに比して)宿るべき所を見出すことが出来ませんでした。さうです、かう云ふ風だつたのです。我々はブラアグで冬を過して、ドレスデンでは過すまいと思ひました。かう決心してゐたのです。然し、ブラアグへ着くと、三日間宿を探しましたが、見つかりませんでした。それですから、立つて来ました。獨身者の一つの室の外に、家具のついた室は、全市中探してもありませんでした。家具を買つたり、下部を雇つたりしなければなりません。そして、室は六ヶ月の契約をしなければなりません。それで、我々はドレスデンへ来ました。

それで、ザリアは、かうして存在を續けてゐます。私言つたことは、あなたに滑稽に思はれたに相違ありません、けれども、尊敬するニコラス・ニコライエギツチ、よく考へて下さい。私は誰からも、文學上の手紙は受けとりません。私がフロレンスの讀書室の中でよんだゴロス新聞の中では、只一度もザリアのことは書いてありませんでした。私が自ら持つてゐるルスキイ・ギエストニクにも、それを書いては居りません。そして、ザリアの購讀者たる私は、(寄稿者として受けとるのではなく、外れることのない勘定で拂つてゐるのです)五月號を受けとつて、次ぎの號、(六、七月其他)は手にすることは出来ないので、何故ですか、私は解するに苦みます。それですから、私は、ザリアが廢刊になつたのだ

と言ふ冒贖的の想像を敢てしたのです。我が親愛なるニコラス・ニコライエギツチ、私の精神的渴望を醫やして下さい。ザリアを六月號から、猶豫なく、ドレスデン、郵便局留置で送つて下さい。

私は尙、レオン・トルストイの小説を送つて下さると言ふ、あなたの御親切な御約束をあてにしてゐます。(恐らく都合のいゝ時して下さい)然し、今は、それをあなたに思ひ出させやうとするのではなく、私は只其を行きがりに言つたまでです。親愛なる傑れたニコラス・ニコライエギツチ、日陰で列氏三十度の所で、書くことは絶對に不可能であること、構想することは不可能なことを御想像出来ませんか。それでも、私はザリアの短篇に既にとりかゝつてゐたのです。私は只それが少し長くなりはいまいかと恐れてゐます。(それが、延び／＼にならないとしてもです)それで、あなたが此手紙に直ぐ御返事下さるなら、恐らく、私はもつと詳しいことを書くでせう。一ヶ月か五週間の中に、短篇をあなたに送らうと思つてゐます。

約三ヶ月前、エシリイ・フィオドロヴナは私に手紙をくれました。その手紙の中で、あなたが、私の彼女に送つた金を御親切にもわざわざ御渡し下さつたこと、いつも、あなたが彼女を親切にして下さることを報らせてありました。エシリイ・フィオドロヴナとその家族が、叔母の死後、今は屹度何か遺産をうけたことを非常に嬉しく思つてゐます。(私は、アボロン・ニコライエギツチの手紙で、始めて叔母の死を知りました)彼らが何か貰つたら、私は非常に嬉しいのです。此三ヶ月の間私は非常に金に困つて居りました。私に金があつたら、フロレンスで、旅行の爲に貯金するのを待つて、焼肉となることはな

かつたでせう。傑れたニコラス・ニコライエギツチ、あのことを一言、エシリイ・フィオドロヴナがどんな御用をあなたに頼んだのか仰つて下さるやう偏へにお願いします。(いゝですか、私の關することに、只、私が心配すべきです。)

三週間の中に、子供が生まれませう。私は、それを、恐れと、驚きと、望みと、躊躇を以つて待つてゐます。とに角、私は今、非常に苦勞があります。あなたが私をお忘れにならず、御返事下さることを望みます。ダニレフスキヤ、私を覚えてゐる凡ての人々に宜しく。アレクサンドル・ペトロギツチ・コキユウロフに就いて一言私にいつか書いて下さい。然し、あなたの御返事とザリアとが間もなく來ることゝ待つてゐます。左様望むのを御許し下さい。

あなたに眞實に誠を盡し、熱烈な同情に満てるもの、

全くあなたのものなる

フィオドル・ドストイエフスキ

マイコフに

一八六九年九月十七日(廿九日) ドレスデンにて。

我が尊き唯一の友、アポロン・ニコライエギツチ。あなたが田舎からやつて來て、都會へ御住居にな

つたばかりであるから、あなたは御親切な御約束を御守りになることが出来なかつたことゝ想像してゐます。——即ち、あなたが田舎から歸ると直ぐに書くことをです。私は不平を言ふのでもありませんし、怒つたりなんかしません。我々は理解し分つてゐるのです。(あなたの御手紙を非常に待ちに待つてゐるのですけれど)然し、一つの疑ひが我を惱ましてゐます。一ヶ月以上前、あなたに願つた手紙に、御返事を受けとらなかつたので、私は、第一、それがあなたに着かなかつたのではあるまいか、第二、ペテルスブルグの同じ御住所にもう御住ひになつてゐないのではあるまいかと、恐れてゐます。私は、あれを、サドヅヤ・シエフェル家宛てにやりました。然し、あなたが御轉居になつたならば？それで、私が此不確實なことから、直ぐに出ることが出来るならば、いゝのです。例へば、今、私があなたに書いてゐる手紙は、私に取つて、非常に差し迫つた非常に重大な手紙なのです。もし、これがあなたの所に着かなかつたら！せめて、一頁でも、半頁でも、私が知る爲に書いて下さい。だが、只、直ぐに書いて下さればいゝのです。何故と言つて、待つと言ふことは、私の力では抑へることの出来ないものですから。私は直ぐにあなたに私の境遇を書き、謝れかゝつてゐる不幸者として、あなたからどんな助けを待ちうけてゐるか、書かうと思ひます。

第一、三日前(九月十四日)娘リユボフが生まれました。凡ては、すてきにうまく行きました。そして赤坊は大きく丈夫で美しいのです。アンナと私は幸福です。(あなたが、教父であることを思ひ出して下さい。アンナは、手を合せて、あなたに願つてゐるのです。あなたは、それで間違なく御返事を下さる

でせう。然し、我々は十タアレルも持たないのです。疎かなことや、先きの見通しが無いなど、非難しないで下さい。斯う言ふことには、誰も罪がないのです。我々は、フロンレスで、ルスキイ・ギエストニクから送られた金で、凡てのことに十分であらうと見つもつてゐました。然し、こゝでも、他の見つものやうに、我々は間違ひました。詳細あなたに御報らせすることは無益です。然し、こゝに、私は此窮境から脱する爲に、私が傑れた寛大のミハエル・ニキフォロギツチ（譯者曰、カトコフのこと。）に最も丁寧、書いてもいゝかも知れません。然し、少し前に受取つたばかりなのに、直ちに書くと言ふことは、非常に私を困惑させ、殆ど駄目のやうです。私の手は動きません。けれども、未だ産婆や、醫者に金を拂つてゐないので。そして、一コベツクづゝ算へて出しているのですけれど、今の境遇では金なしで済ますことは出来ません。不可能です。それで、こゝに私の取らうとする手段があります。

私は今日、あなたへやるのと同時に、カシユビレフに、個人的の手紙を送ります。（何故と言つて、ストラホフがベテルスブルグにゐないことを知つてゐますから。）此手紙の中で、始め、私の境遇を書き、新しい住居、子供の誕生を話します（凡てのことは言はなければなりません。）もう十タアレルもないのですけれど、十五タアレル丈あると、私は嘘をつきました。私は終りに、次ぎの理由で、二百ルウブルの前借を送つてくれるやうに頼みました。

今、私はザリアの爲に、短篇を書いてゐます。そして、私の仕事は半分まで進歩してゐます。（凡てこれは正確です。）そこで、第一、少くとも、ルスキイ・ギエストニクの紙で三帖半の大きさ（即ち、ザリア

の約五帖）になることと思ひます。私はもう春に、ザリアから三百ルウブル受けとつてゐるから、小説を書き終つた後、尙、一帖半丈受けとるものが残つてゐるのです。（矢張、ルスキイ・ギエストニクの大きさで、短篇はまだ終らないけれども、十月の終りには必ずザリアに送られるでせう。それは確かです。第二、此の理由で、今、前借を彼から要求する権利はないのですけれど、今の危険な状態に際して、彼のキリスト的感情を訴へて、窮境から脱し、二百ルウブル送つて貰ひたいのです。然し、直ぐにさうするのは、雑誌の爲、困るでせうから、直ぐには只七十五ルウブル送つて頂きたく思ふのです。（それは我々を洪水から救ひ、沈没せしめない爲なのです。）次ぎに、第一の送金の後、十五日たつて、尙七十五ルウブル送つてくれるやう頼み、そして、最後に、第二の送金と共に、あなたに五十ルウブル渡して貰ふやう頼みます。（あなた、即ち、マイコフの爲に。）私の要求する二百ルウブルは、かう、指定することになるのです。カシユビレフを個人的に知らないで、私は、非常に尊敬的の調子で、また、ずるぶん固執して書きました（彼が不快になりはしまいかと恐れてゐます。何故と言つて、尊敬は少し誇張されてゐて、手紙は馬鹿々々しく書かれてあるやうに私に思はれますから。）

とう／＼、カシユビレフにやつた手紙に、私の第二の最も重要な頼みを披擲しました。斯うです。彼が私の金の頼みを入れてくれるなら、私に、一瞬間の猶豫もなく、直ちに始めの七十五ルウブル送つて下さいと言ふこと。私は彼に、彼の心と魂の優しさに訴へて、直ぐに猶豫なく送金を言ひ張ることを感るゝ言はないやうに、それで、私にとつて、救ひの時日と期限とが、金と同様大切であることを考へ理

解して頂きたいと書きました。何故と言ふに、同時に、生憎、彼が私を助けてくる都合がわるく、拒むとなれば、猶豫なく直ちに拒んだとを報らせて貰ひたいと願ひました。同時に、拒絶を御報らせになるには、編輯局の書記の手で二行書いて貰へば十分であること、私が非常手段を取り得る爲、又無益に送金を待つことのない爲、直ぐにそうして貰ひたいと書きました。私は、此の非常手段と言ふことに就いては、直ちに、非常に必要なこれぎりと言ふ着物をも止むなく賣り、百タアレルの價値のあるものを、二十タアレルしか取れなくなると言つて、二度カシユビレフに嘘を言ふの止むなきに至りました。それは、彼が、有利な返事でも遅らせて了へば、私は止むなく三人のものを救ふ爲に必ずしなければならぬことです。私が金をうけとらなかつたら、八ヶ月間の中に、最後の着物をも賣らなければならぬと言ふのは、全くの事實です。何故と言つて、私はその外にすることは出来ないのですから。然し、私は、百ルウブルのものを賣らんとすると言つたことは、嘘をついたのです。我々のもつてゐた百ルウブルの値のする二三のものは、我々がドレスデンに着いてから、久しい前に、長く、質に入れてあるのです。そして、實際、百ルウブルでなく、二十ルウブルに値ぶみされたのです。然し此度は、シャツツ、外套、上衣までも賣らなければなりません。何故と言つて、私はカトコフに手紙をやつたら、必ず受けとれるとしても、一ヶ月前にあちらから金を手に入れることは出来ません。

カシユビレフにやる手紙の内容を、あなたに示したので、私は今、あなたに非常に緊急で特別な個人的御願ひをさせよう。私を友として、キリスト教徒として、仲間として助けて下さい。それがあなた

の重荷とならないやうに。私はこれつきり最後として、あなたに御面倒をかけるのです。私の御願ひは何であるかは斯うです。

あなたがカシユビレフと可成り交際があるとストラホフは書いてよこしたので、此手紙をおうけとりになるや否や、遅延なく、カシユビレフの所に行つて、私が至急御返事下さいと頼んだことを、其通り彼がしてくれるやう頼んで下さい。殊に、至急の返事が私に必要なのです。さて、あなたに御願ひしなければならぬことは是丈です。然し、親愛なる友よ、私のやうな境遇にあつては、是がどの位まで重要であるか理解して下さい。私は尙、(あなたのために、即ち、我々の間丈で)私に屬するものゝ外は殆ど要求するのではないこと、一ヶ月の中に、短篇はすっかり金になること、私は前借で金を拂つて貰ひたいと言ふ権利を主張するものではないけれども、斯う言ふ思想は、文學者の最終のものにはなされることであると言ふことを、付け加へて申し上げます。それで、もし、私が今ザリアで拒絶されるなら、入々は、文學的見地から、私を如何なる程度に、おくものであるかを、よく理解することが出来ます。彼が私の誇張的な尊敬の調子を、全くの皮肉と考へはしまいかと、私は恐れてゐます。この人が誰であるかは神が御存知です。個人的に、彼のことを、私は何ら知つて居りません。然し、斯様な微細な事柄に就いては、私は見知らぬ他人に書くことは出来ないのです。私は、全く直截にはつきりと書いてやつたのです。そして、それは、手紙をよんだ後で、私が餘りに丁寧すぎるやう思はれると言つたのです。そこで、親愛なる友よ、返事して下さい。私は大急ぎで書いてゐます。妻はあなたに宜しくとのこと。

我々は非常に喜んでゐます。今は彼女にとつて三日間なのです。——最も危険な時です。こゝ、ドレスデンでは、私の健康は非常に悪いのです。私は常に風邪をひいてゐます、それは今迄私にはなかつたことなのです、そして、シユイヌやイタリアでは、そんなことはないのです。発作は、ドレスデンへ来て、また増加しました。然し、それは恐しく、我々が着いたばかりだからでせう。

私は恐らしく熱心に働いてゐます。私は、ルスキイ・ギエストニクに書くある物を思ひついたので、それは常の心を亂します、けれども、私は温度の働きを恐れてゐます。私はあなたに文學のことを非常に御話したいと思つてゐますが、今は、そのことを考へる暇はありません。ザリアの爲の短篇に就いては、私は何にも申しますまい。私はあることを信じてゐます、それは可成り獨創的なものであると言ふことです。そして、その後を生ずるものは、あなたがおよみになつたら御解りになるでせう。直ぐに二行御返事を下さい。

それから、最後に、カシユビレフがあなたに五十ルウブル送るやう願ひます。これは、(我が親愛の人よ、あなたに御迷惑をかけることを許して下さい、そして、後生ですから、さうして下さい。)—是は、エミリイ・フィオドロヴナに二十五ルウブル、ボオルに二十五ルウブル、貴方からやつて頂きたい爲めです。彼らは、こんな少しばかりの救助をして貰つて腹を立てるのは尤もです。でも、二十五ルウブルでも、何かにはなります。それは彼らに少しは役に立つでせう。それでも、彼らにやつして下さい。私自身か如何なる状態に居るか、何故私はそんなちつほけな助けをするのか、彼らは信じやうとはしません

から、私を辯護する爲に何にも言つて下さるな。主の爲に、さうして下さい。

第二、ボオルのことに就いて、少し書いて下さい。

第三、私の叔母やエセロフスキイに就いて、あなたは何を御書きになりますか。あなたの御言葉に従つて、直ぐに、久しい前、それに就いて、彼らに書いたのです。然し、此手紙で、私は只、辯解を求めました、そして、遺言が病院の爲になり、熱の發作から、叔母の意志に反して行はれたことを、私が精神的に完全に信じないならば、私は訴訟を起さないことを、斷言します。此エセロフスキイ氏は、私に二行の返事も下さらない。私の手紙は非常に丁寧なものでした。今、私は、他の所から、叔母が生きてゐることを、慥かにききました。凡てのことが、誤謬であり、冗談であるにせよ、私から言へば、せめて二行の返事も得ないことは、例へば、全く、彼が知らないとしても、エセロフスキイは全く失禮な人になります。彼が、私の叔母の財産を管理してゐる私の弟アンドレ・ミハイロキツチと親交があることを聞きました。それが、私を困難な境遇に陥れないことを。然し、屹度、エセロフスキイは、彼にもう私の手紙を見せて了つたでせう。さうすれば、大切なことは、エセロフスキイとは誰か、どう言ふ性質の男かと言ふことになります。あなたは、このことに就いて、少し私にお書き下さいませんか。

第四、私が、「白痴」とバズノフのことを書いた此春フロレンスから送つた手紙を、あなたは御受けとりになりませんか。五週間前、あなたから下つた手紙に、何とも言つてないので、あなたがそれを御受け取りにならないのではないかと恐れてゐます。

のみならず、今は、「白痴」の發行に就いて、他のことを考へてゐます。私の話すのは、この爲ではありません。然し、大切なことは、あなたのお手紙と私の手紙がなくなりはいないかと言ふことです。あなたを強く接吻します。

あなたに忠實なる

フィオドル・ドストイェフスキ

尙、私を非常に気がかりにさせるものがあります。でも、此手紙の中では申上げてありません。あなたに御借りした負債のことです。私は直きに御返しします。ぢきです。それを信じて下さい。あなたの天使のやうに寛大な感謝を致します。然し、私には、金を得る望みは少しあるのです。直ぐに御書きしませう。さようなら。

それで御便りを下さい。二行でいいのです。とに角、御便りを下さい。住所は同じです。

追伸、——私は非常に重大なことを忘れてゐました。

ザリアから三百ルウブル送られた時に、送金は一ヶ月にのび／＼になりました。私には此やり方が解つてゐます、彼らは何處かの局から送つたのです。然し、最も大切なことは、ニコラス・ニコライエギツチが、後で、その他に送金のしやうがないと書いたことです。それで、手紙と同様に早く着くやうに即ち、三日目につくやうに金を送る方法を彼らは知らないのです。我が親愛の友よ、助けて下さい。彼らに忠告して下さい。さうでなく、金が遅れれば、私は失はれて了ひます。人々は斯うしてよく金を送

ります。ペテルスブルグの何處か銀行へ行かねばなりません。(例へば、グンズブルグか何處か他の所)そこへ行つて送金を頼み、そこから、三ヶ月支拂ひの爲替をくんで貰ふのです。(例へば、ギエストニクのするやうに、ロスチャイルドの名義です。最もいいことは、銀行家に、郵便で直ぐに送る必要のあること、それを使用していいことを説明することです。そして、彼は知つてゐる通りにしませう。彼らは、その事を知り合ひませう。彼らは、只その通りにしませう。)次に、斯うして得たる爲替は、(こゝ郵便局でも、至る所でも、それを價值の送附と呼んでゐます。——(價值とは殆ど金のことを意味します。此爲替を私に送る手紙の中に入れ、それを郵便局で書留めにして送るのです。(それは絶対的です。然し、ルスキイ・ギエストニクはいつも書留めにしますけれど、送金の額を封筒の裏には書きません。何故と言つて、それは價值なのですから。))それを郵便局留置で私宛に送つて貰はねばなりません。それは三日目に到着させよう。それを受けとつて、私は爲替をとり、こゝの第一流の銀行家(誰でも構ひません)の所にゆき、交換料として極く少しの額(十フランに就いて一フラン)を拂つて、金と代へます。凡てのものは二十分で出来ませう。グンズブルグで、(他の所でも)、相場に従つて、ルウブルを、タアレルに代へてくれます。どうぞ、一言それを言つて下さい。何故と言つて、私にとつて時間は、凡てですか、それは全よりも大切ですから。

同じ人に

一八六九年十月十六日(廿八日) ドレスデンにて。

我が親愛なる友、アポロン・ニコライエギツチ、一ヶ月前あなたの御手紙と、それから、ボオルの手紙に添へられたあなたの言葉もうけとりました。然し、我々はそのことをもう一度言ひませう。

後生ですから、言つて下さい。私はどうしたらいいのですか、どう決心したらいいのですか。私は絶望してゐます。あなたはカシユビレフにやつた私の最初の手紙を御よみになりました、(それに、私は二百ルウブルを頼んだのです)、私は同時にあなたに書きました。私が恐ろしく困つてゐること、私の境遇は絶望であることをあなたに書きました。それから？ 私は今迄一コツペクも受けとらないのです、約束の外は何も受けとらないのです。我々が如何なる状態に陥つてゐるかあなたが御存知になつたなら！何故と言つて、私と、乳をやつて食べなければならぬ妻と、我々の貧乏の爲に病氣になつて、死ぬかも知れない赤坊と、我々は三人だからです。毎日、毎日、物事は如何になつて行つたでせう。よく聞いて凡てを注意して下さい。

金を頼んだ手紙(始めての手紙)の後、八日に、實際カシユビレフから、私には愉快であつた彼の同意と望みとを眞實に現はした一通の手紙をうけとつたのです。ペテルスブルグの銀行家、ヘツシンから

ドレスデンの銀行家ヒルシユに宛てた爲替が、その中に這入つてゐました。私はヒルシユの所へ行きました。彼は爲替をよんで言ひました、「これは、Just Bercht (譯者曰、報告を以ての獨逸語)と公に拂はなければならぬやうに書かれてある。そして、報告は、ヘツシンから、ヒルシユなる私に通知することを意味してゐる、ヘツシンから私に特に送るべき別の通告がなくては拂ふことは出来ない、それだから私は拂ひません。通告が来た時拂ひませう。」と。私は待ち始めました。毎日私は、通告は来ないかと言つて、銀行に行きました。通告は来ません。とうとう銀行では私を嘲ける様子を見せました。堪忍袋の尾を切つて、もうバンがなくなつたので、私はカシユビレフに書いて、私の絶望的な境遇を説明しました。私は通告を送くるやうヘツシンを強ひ、次ぎの七十五ルウブルの送金には、ヘツシンやヒルシユなどの手を借りないやうにして貰ひたいと願ひました。私の手紙は、九月廿七日(十月九日)に送られました。私は待つてゐました。返事はありません。私は誓つて言ひますが、彼が返事をしないのだらうと信じました。けれども、毎日、私はヒルシユの所へ行きました。そこでは、人々は笑ひ、多分、ヘツシンが通告を送るのを忘れたのだらうと言ひました。私は二三の銀行へ尋ねに行きました。至る所で、Just Bercht のある爲替は、通告がなくては、金を拂ふ譯に行かないと言ひました。ある銀行では、かゝる爲替は、時々、嘲笑する爲に送るものであると言ひました。とうとう、私の手紙のやつた後十五日で、カシユビレフの返事を受けとりました。注意して下さい。郵便は、ペテルスブルグからドレスデンへ三日で来ます。即ち、例へば、月曜にドレスデンから手紙を御送りになれば、サン・ペテルスブルグの受

取入に、木曜に配達されませう。彼は私の手紙を最初の手紙と比較することが出来ませう、(私の絶望的状態に就いて話した始めの手紙)そして、彼は急いで、直ぐに返事を出すことが出来ませう。然し、手紙は十二日目に來たのです。そして、注意して下さい、彼は我國の曆で十月三日に書いたのです。そして、郵便切手には、十月六日の日附が押されてあります。それで、手紙は、必要でないものとして、三日の間送られもしないで、机の上にそのままにしてあつたのです。彼は、少くとも禮儀の上から、三日と言ふ字を止めて、五日と書いたのに相違ありません。斯う言ふ一切のことは、私を怒らせるものであることを、彼は知らないでせうか。何故と言つて、私は、彼に妻や子供の困つてゐることを話したのです。それなのに、こんなにうちやつておくのです。それは侮辱ではないでせうか。それから、彼はヘッシンの所へ行つて言つた所が、ヘッシンは通告を送つたこと、私が何故に受け取らないのか了解が出来ないと言つたこと、のみならず、彼がヘッシンにもう一度通告を送るやうにさせたので、今度は、「私がヒルシュから金を受け取ることは確實」だと、彼は手紙の中で書いてゐます。(如何して確實なのでせう。どうしてさうですか。)然し、今、ヒルシュの爲替で金を受けとれないなら、彼に此爲替を返へす外はなく、かれが受けとる直ぐその翌日、他の銀行家によつて爲替を送つて貰ひたいのです。それから彼は追伸で、金が尙受け取らなかつたら、「いゝですか、私の費用で」直ぐに電報をうたなければならぬ爲替郵便でもとの日附を待つことなく直ちに、新しい爲替を送るだらうと付け加へました。それから、彼は、「次ぎには、第二の七十五ルウブル送るだらう」と付け加へました。(御注意、——彼が十月三日に

書いたことを注意して下さい。)

私はその日、即ち、十月九日(廿一日)に電報をうつことが出来ませんでした、何故と言つて、電報をうつ爲に、私は何處から二タアレルを持つて來たらしいのですか。私のやつた二通の手紙で、彼は私が文字通り金を持たない、一コベツクも持たないことを悟ることが出来ないでせうか。彼に電報をうつ爲に、翌日、どんな風にして、此二タアレルを得たか、彼が只知つてくれたならば! でも、私は金をこさへて、翌日、十月十日(廿二日)金曜に電報を打ちました。土曜に私は爲替を返へしました。私はヒルシュの所にきゝに行くと、始めのも、後のにも、何の通告もないのです。そこで、私は電報を斯う打つたのです。「Kein Avis, Hiroch sieht nicht Geld。」

今、それで、書いて下さい。私は金曜に電報をうちました。彼はそれで、遅くとも、土曜の朝、それをうけとつたのです。彼は土曜の朝、それを送れる譯なのでした。それは普通一時間で出来上ります。けれども、彼は、電報がついたら、直ぐに送るだらうと私に書いてゐたのでした。斯う言ふ望みがなくて、二タアレルを得る爲に、狂人のやうに、私は身を投げ出すのですか。けれども、彼は土曜に私に送つてはくれませんでした。とうとう私は考へました、彼は月曜に送つてくれるだらうと。もし月曜だつたら、木曜には屹度うけとれるだらうと。さて、木曜になつたが、何にも來ません。此度は、また、十二日目に、即ち、次ぎの木曜に、返事を受けとるかも知れないのか。私は事情を知る爲に、血迷つたやうになつて、ヒルシュの所へ這入りました。そうすると、ヘッシンの通告は來てゐました。それは來

ました、もう五日になるが、爲替は私の手に這入りません、私はそれを彼れ自身のすゝめで送り返へしたのです。

今、後生ですから、御理解なさるやう努めて下さい。こゝに、二つの場合が起り得るのです、第一、即ち、私の電報をやつた後、カシユビレフは、ヘツシンの所に行き、とつ／＼通告を送るやうさせたのかも知れない。第二、カシユビレフは、電報をうけとつた後、ヘツシンの所には行かず、ヘツシン自身が、(恐らく、七日前にした所のドレスデンのヒルシュの要求に答へる爲)とつ／＼ヒルシュに返事を出したのです。第一の場合とすれば、カシユビレフが、爲替を廻送するやう自らすゝめたのに、どうしてヘツシンに通知を送るやうさせるものでせうか。何故と言つて、彼のすゝめで、私が彼れ送り返すことは随かに知つてゐるからです、そして、實際、彼は火曜にそれを受けとつたに相違ありません。ヘツシンが通告を送れば、長い間、爲替が私の手に這入らないと言ふことを、彼は考へなかつたのでせうか。此怠慢は、私に對して侮辱ではないでせうか。然し、彼がヘツシンの所に行かないなら、ヘツシンが自分で此通告を送つたのなら、カシユビレフの怠慢は、尙一層、私を侮辱してゐるのです。何故と言つて幾度も、私は通告の來ないことを彼に知らせはしなかつたでせうか。何故と言つて、ヘツシンとの此事件は三週間以上續いてゐるのです。彼はヘツシンをさうさせるのに、どうしてゐたのですか。彼は、どう言ふ風に、ヘツシンの所に調べに行つたのですか。彼が行つて、彼に通告を出したと言つたとき、始めて通告が出たのです。何故と言つて、ヘツシンは、ヒルシュに送つた手紙に自白してゐますが、爲替

が正しく書かれてあつたと信じてゐたから、通告を送らなかつたと自白してゐます。何故と言ふに、彼のヒルシュに説明した所によると、凡しの事件は、ohne Bericht (譯者曰、無通告と云ふ獨逸語)の手形を書くやうに命を與へた所が、社員が間違つて、無通告の代りに、通告の爲替を送つた所から生じたのです。カシユビレフは、それでその後、ヘツシンを辯解したのでした。ヘツシンは彼を欺いて、既に二通の通告を送つたと言つたのに、今、彼のヒルシュによこした手紙によれば、何にも通告は送らなかつたとは明白です。それは私に對して、怠慢の證據ではないのですが。今、私は如何したらいいのですか。今は、何日金を受けとれるでせうか。そして、それでは、何故、どうして、電報をうてと言つたり、爲替を返せと要求したりするのでせう。『そうすれば、私は直ぐにあなたに再び送りませう』と、彼は言つてその日に送らないのです。そして、如何して、彼は、直ぐに今、十日前に送られなければならぬ筈の第二の七十五ルウブルを送らないのでせうか。文章に効果を與へやうとして、私が此見慘さを書いたと思つてゐるのでせうか。

私が飢に迫つて、電報料二タアレルを得る爲に、ズボンを買におかなければならなかつたのに、私は如何してそんなことを書くことが出来ませう。私の飢饉と共に、私は悪魔に連れて行かれた方がいゝ。でも、彼女は、赤坊を養つてゐるのです、いゝですか。彼女は自分自身で、これつきりと言ふ冬の毛のスカーツを買に入れやうとしてゐます。そして、二日前から雪が降つてゐます。(私は嘘を言つてゐるのではありません、新聞を御覽なすつて下さい。)彼女は風邪に冒されるかも知れません。如何して彼は、

私が見てのことを打ら明けて言つてゐるので、困つてゐると言ふことを語る事が出来ないのだらう。そして、こればかりではない、困つてゐることは、もつと澤山あるのです。今迄、産婆にも屋主にも金を拂つてゐないので。産後一ヶ月で、全くこの有様です。私が妻が困つてゐると言つてやつたのに、ぐづぐづしてゐて、それで侮辱されるのは、私のみならず妻も亦辱しめられてゐると言ふことを、如何して彼は悟らないのだらう。彼は彼女を辱かしたのです。辱かしたのです。彼は恐らく、「彼はその要求と共に、悪魔にさらはれて了へ。彼はお願いしなければならぬのだ。要求する譯がない、俺はお前なんぞに前借なんぞやる譯がないのだ」などと言ふのでせう。それにしても、彼が私の最初の請求に承諾したと言ふ返事が、私と面と向つて約束したことになるのを悟らないのでせうか。私がカトコフにしないで、何故、二百ルウブルを彼に請求したのか。それは、私がカトコフよりも、もつと早く彼から受けとれると思つたからです。(カトコフを妨げやうと私は欲しなかつたのです。)それなのに、今、カトコフに手紙をやつて、彼にやらなかつたなら、長い以前、八日前に、金は手に這入るのです。そして、私は手紙を書かなかつた。何故ですか。彼が約束して返事をよこしたからです。従つて、彼が私の飢饉を嘲笑つたり、私が彼をせき立てる権利をもたないと言ふ権利はないのです。慥かに、彼は、私の飢饉を笑ひ、私が彼をせき立てる権利がないと言ふのでせう。彼は、凡てを自分の方からなした、直ぐに爲替を送つた、自分は罪がない、それは誤解だ、私の嘆願でヘツシンの所へも行つた、ヘツシンは通告を送ることを約したなどと屹度言ふでせう。然し、私は誓つて言ひますが、彼は、理由をつけやうと思つ

てゐるのです。人があなたの誤りの爲、久しい前から何にも手にすることが出来なかつたと絶望的な手紙をあけたとして、それに只、十二日目に返事をよこすなんてことが、逆も出来るもんぢやないと言ふことを、彼は知らないものでせうか。十二日目は、さうです、私は偽をついてはゐません。——封筒は汚れてゐず、郵便切手が貼つてあります。自分が送らせた電報に、六日間返事をよこさないなんて、出来ることではないのです。それに、郵便は四日目に着くのです。此怠慢は、許すべからざるもので、侮辱的です。それは、私自身を侮辱してゐます。何故と言つて、私は彼に妻のことを話し、妻が御産をしたばかりだと言ふことを言つたのです。私に返事をした後、また、此返事の爲私がカトコフに請求しないやうにした後に、それはどんな侮辱となつたでせう。それで、斯様な怠慢と、斯様な處世術の缺乏を以てして、雑誌を發行するに、どんなことをしてゐるのでせう。地方の購讀者がどんなことを忍ばねばならぬか想像が出来ます。今になつて、彼らが至る所で、一般に憎悪をうけてゐることが解りました。私はいつも、雑誌が出てから、六週間過ぎて雑誌を受けとつてゐるのです。そして、今、彼らは私から文學を要求してゐるのです。カシユビレフは、(十二日目の手紙の中で)私の短篇のことに就いて手紙をよこし、掲載の産業をするのだから題を知らせてくれなどと言つてゐます。こんな時に、書くことが出来るもんですか。私はあつちこつちと歩いて、髪の毛をむしつてゐるのです。そして、夜もおちく／＼眠ることは出来ません。私は始終考案をして、怒つてゐるのです。私は待つてゐるのです。あゝ、私はあなたに誓ふ、誓つて言ひますが、私の貧窮を見て詳細にあなたの前に描き出すことが出来ません、私は

それを書くのを恥ぢてゐます。おゝ、あなたがすっかり知つて下さつたら！そして、そちらでは、十二日目に電報に返事をよこしたり、ヘツシンが通告を忘れたやうに、第二の七十五ルウブルの送附を遅れたりしてゐるその言ふ人。それは侮辱ではないのですか。彼の手紙のなかに、もつと早く私を助ける筈の第二の送金すらも念頭におかないのを見て、それは侮辱ではないのですか。それに、彼は第一の送金に、説明の電報を要求して、浩稽にも、「いゝですか、私の費用で、」などと書いてゐるのです。然し、電報料を拂はずに何處でも電報をうけとる所がないことや、私がそれをうつ爲にニタアレルの金を止むなく工面しなければならなかつたことを、彼は知らないのせうか。私が此ニタアレルを得ることが出来なからうと言ふことを、彼は少しでも、殊に、私の手紙で、解らないのせうか。それは、他人の境遇を知ることが欲しくない人間の怠慢です。そして、そんなことをさしてゐながら、彼は私に、藝術や、詩的な純粹なものを、努力も熱心もなしに書けと強ひてゐるのです。そして、彼らは私にモデルとしてツルゲネエフや、ゴンチャコフを持つてくるのです。彼らは私がどんな境遇にゐる仕事をしてゐるか見にくるといゝ。

我が友よ、あなたはステロフスキイのことを仰つて下さる。我が親愛なボオルに、その骨折を感謝して下さい。私が彼を非常に愛してゐることを言つて下さい。私はあなたに感謝します。そして、あなたの名付け子は、アンナ・グリゴリヴナと共に、洗面盤に、私を連れて行つて下さることを、御承諾下さつたので、非常にあなたに感謝して居ります。次に、ステロフスキイのことを書きませう。今は出来

ません。私は力がつきてゐます。私は殆ど解りません。全くほんやりしてゐます。私は只斯う感じます。ステロフスキイの事件に就いては、あなたとボオルが私のステロフスキイと昔結んだ契約を御知りにならなければならぬ。私はこゝにその寫しを持つてゐます。私は此寫しを寫して、あなたに御送りませう。そうボオルに言つて下さい。何故と言つて、今のやうな申込をする中に、ステロフスキイの狡計をよく認めることが出来ませうから、然し、それでも、此事件を疎かにすることは出来ません、それを努めてやりませう、だが、慎重にです。それは成功するかも知れません。さて、今は、おさらばです。

全くあなたに忠實なる

フィオドル・ドストイェフスキイ

誰にも私の手紙を見せて下さいませぬ、然し、カシユピレフには、その心持を傳へて下さい。御願ひです。

同じ人に

一八六九年十月廿七日(九月八日) ドレスデンにて。

我が尊き友よ、昨日の日曜に、百ルウブルと、ヒルシユの手形と共に、あなたの御手紙を受け取りました。日曜には、ヒルシユは家を閉ざしてゐますから、昨日あなたに御答へすることは出来ませんでした。

た。今日、ヒルシユの所で、手形を換へました。それで、私があなたに御報らせしたものは、すっかり受け取りました。それで、斯う言ふことから、私があたあなたに手紙を書かなかつたならば、また、あなたがそのやうなでなかつたならば、今迄私は何も受けとれず、恐らくは、將來も金をうけとれないばかりでなく、通知をもうけないだらうと言ふことになるのです。あなたは、カシユビレフに對して怒らないやうにと祈る。いゝですか、殊に、彼が、彼自身も苦しい境遇にあつて、凡てはそれから起つたのだとあなたが斷言になるなら、私は彼を怒りはしません。然し、あなたが私の立場になつて、考へて下さい。怒らないと言ふことが出来たでせうか。あなたの仰るやうに、人間はキリストのやうな感荷を持たうとしても駄目で、怒りに激するやうなことをすまいとしても不可能だと思ひます。彼はそれでも返事することは出来たのでした。然し、これは過去のことと、殊に、彼が自分で苦しんでゐるならば、私は過去のことは申しますまい。私はあなたに眞實にさう申します、私があなたに手紙を上げた時でも、決して、本當に怒つてゐたのではありませんでした。

然し、あなたが私にして下つた御世話は、私は申しますまい。私は決して忘れはしますまい。ありがとう。

私はまた、あなたが彼に私の手紙を御見せにならないことを望みました。私の手紙の心持丈しか通じないで下さるやう願ひました。そして、私の手紙の原文を彼にお見せにならなかつたことを、あなたに只管感謝する外はありません。

彼が自分で出すと言ふ利子や、費用に就いては、全くそれは無益です。あなたが彼にお會ひになる機會があつたら、どうぞ、私はどうしても受け取る事は承諾しないと彼に仰つて下さい。だって、彼は高利貸なのです。斯う言ふことは澤山、一生の間に起るのです。私は、常に、間接に、私の悪運を見てあなたや、ヤノフスキイや、クラエフスキイや、アクサコフや、サルチコフや、凡ての人々に、非難するかも知れません。私が毛皮の外套を買はうとする、一人の未知の人が私に出會つて、此店では、毛皮は上等で高くないと言ふ。私はそこに行つて、二十ルウブル丈餘計に拂つたと言ふことになる。私は此未知の人に、それを要求すべきでせうか。人生のあらゆる現象に於て、澤山の結合があつて、その第一原因を非難することは不可能です。そして、私の場合では、カシユビレフは第一の原因でもなく、また間接の原因でもありません。私は何らの賠償をも受けとることを欲しません。彼が私の爲にしてくれると言ふ望みをもつてゐることを、私から感謝してゐると言つて下さい。併し、私には此望み丈で澤山です。私はその望みの實現を承諾はしません。あなたに對しては、もう一度感謝致します。あなたは全く丁度間に合ふやうにして下さつた。もう少し、遅れれば、私は全く駄目となつたのです。

今、私はあなたに澤山の御願ひをしなければなりません。私からあなたに厄介をかけるのは悪いことだと承知してゐます。然し、あなたの御助けや、御仲介がなくては全くやり切れないので、私はまたあなたに御面倒をかけやうと致しました。後生ですから、怒らないで下さい。

第一に御願ひしなければならぬことは、私の短篇に就いて、カシユビレフとの間の仲介人となつて

頂きたいのです。私も彼に手紙をやりませんが、あなたの御言葉、即ち、慥かにカシユビレフの尊重する人で、殊に、ザリアの友たる人の言葉は、非常な重味を有してゐるのです。問題は下の如くです。第一此短篇（今から十五日前には、ザリアに送ることの出来ないもので）私が始めカシユビレフに書いた様に、三帖半とはならず、（のみならず、私は帖数の最少限度を示したので、最大限度ではありません。）恐らく、ルスキイ・ギエストニコの帖の大きさで、六七帖位となりません。小説の三分の二は、もう全く書き上げられて、清書して居ります。私は少くする爲に出来る丈のことはしました。併し、それは不可能でした。併し、數量のことは問題でなく、質が問題です。併し、價値のことは、私は何にも言ふことは出来ません。何故と言つて、自分では何にも解らないのですから。他の人達がそれを決ませう、併し、私に心配を起させるのは、カシユビレフが、前もつて、此短篇の廣告をしやうとしてゐることで、（彼は此ことを私に書きました。）それこそ、私には全く厭なことなのです。あなたが彼と御懇談になる機会があつたら、さうしないやうに頼んで下さい。私が此場合意志を主張してはいけない、彼が此事柄の主人公であることを感じてゐます。私は彼にそれを辯護することは出来ません。然し、彼は私の頼みを尊重してくれないでせうか。

第二、私の今の状態から押して、同時に、私が今年發表して貰ひたいと言ふ望みを示しましたが、彼が今年でも來年でも發表するのは自由だと彼に私が手紙をやりました。それを送り乍ら、私は十二月に短篇を出して貰ひたいと頼まうとしてゐます。（私の送るのが丁度よく間に合つたならば、十一月號でも

いゝのです。）併し、新年號に延ばされると、私は非常に、全くするぶん當惑するのです。私はそう言ふ風に、特に見つもつてゐるので、私の仕事は斯う言ふ風にしてまゝりがつきます。私は金銭上の見つもりを言ふではありません。それは全く別物です。それが十二月號にして貰ひたいと思つてゐるので、それは私に餘りに重大なことです。私の兄がヴシミヤを發行した時、一年の終り頃になつて、我々は共に斯う判断しました、始めたばかりの第一年目に出た雑誌には、第一年目の最後の雑誌は、申込みの爲には、始めの年の新年及び二月號より、一層重大なものであると。申込みの成功は、此見もりを正當としてゐます。もし、カシユビレフが、私の短篇を前以て廣告しやうと欲するのなら、彼が作家としての價値を認めたことを意味します。そして、彼が私を尊重するならば、彼にとつて、十二月號に私のを公けにする方が一層有利となるでせう。あなたが此事を彼と御話し下さることゝ、短篇が編輯局に送られる時、私を御手傳ひして下さいることを願ひます。私にとつて、それは非常に重大なことです。然し、彼がいゝやうにしてもいゝのです。

第三、ルスキイ、ギエストコクで七帖の短篇は、恐らく、ザリアでは、八帖半となるでせう。此短篇を一號に全部のせること、二つに分けないことを欲します。私は殊に此事を主張します。どうぞ、そう言つて下さい。

着四。私は今彼から前借五百ルウブル取りました。例へば、私が七帖まで書くとしたら、（ルスキイ、ギエストコクので）尙五百ルウブル受けとれるのです。（七帖にならずに、一六帖になるとしてもです、

まだ四百ルウブルあります。本が出る前、例へば申込みが既に定まつて了つたら、十二月前半に、拂つては貰へないでせうか。私が短篇を送るとそれを彼に請求させよう。あなたの方では、どうか御願ひです。あなたから拒絶しないで下さい。此金を受取つて下さい、(彼が何日何時あなたに渡しても二百ルウブルの負債を、最も熱い無限の感謝の念と共に、御渡しませう。それを直接にカシユビレフから受けとつて下さい。私はさう彼に手紙をやりませう。他の二百若しくは三百ルウブルは、我々の出發前ベテルスブルグで、質に入れた品物をうけ出す爲に使ひませう。殊に妻に屬してゐる物品です。我々はせめて、二百ルウブル丈受け出すことにさせよう。品物は少くとも六百ルウブルの價があります。そして、もしそれを受け出さなかつたら、流れて了ひます。此目的の爲に、アンナ、グリゴリエヴナの最も若い弟、イヴン、グリゴリエヴツチ、があなたの許に赴くことになりませう。(金があなたの手に遣入らない中ではありません)彼はそれを受け出させよう、そして、あなたは、全く信用をおいて、彼に金を御渡しになつていゝのです。(あなたが御受けとりになる時にです。その前に、あなたを煩はすやうなことはないでせう。)此れがあなたに御頼みする大なる御願ひです。そして、我々があなたに此御骨折を願ふのは、ザリアに直接に申し込むことが出来ない程、ザリアから金を受けとることが困難だからです。儘かに、彼らが十二月に渡すことが出来ないとしても、一月にはさうしてくれるでせう。

然し、あなたが金を御受けとりにならない中は、誰もあなたの所に行きはしません。あなたがもう受

けとられて了つてから、行くのです。でも、私はあなたに只一つのことしか御願ひしません、いゝですか、カシユビレフが支拂ふことが出来れば、あなたが彼から金を受けとつて下さることに同意なさることです。即ち、どんなことをしても、あなたの御邪魔をしやうとは全く思つて居りませぬ。私はもうあなたに、あれ程御迷惑をかけたのです。私は、カシユビレフから金をとつて下さいとあなたに御願ひするのではありません。然し、出来ることなら、金を受け取つて下さればいゝのです。

最後に、私の最大の御願ひは、エミリオ・フィオドロヴナに就いてです。今、あなたから百ルウブルと、ヒルシユの信用爲替をうけとつたので、ザリアから、凡て百七十五ルウブル受けとつた譯となります。カシユビレフが私に二百ルウブル約束したのですから、エミリオ・フィオドロヴナに直ちに二十五ルウブル御渡し下さいませんでせうか。後生ですから、それをカシユビレフに請求して下さい。拒まないで下さい。私はそれを心に苦にやんでゐます。もうするぶん長い間、彼女を助けませんでした。彼女とカアチャとは、非常に苦しい境遇に陥つてゐて、是以上苦しいことはありません。私が短篇をする時に、カシユビレフがそれをうけると否や、第一に、少くとも二十五ルウブルを彼女に送ることを一生懸命で彼に頼みませう。(それは上の勘定を亂すとはなりません。)そして、常にあなたの仲介です。我が友よ、あなたが此事件にして下さるのは、私の爲ではなく、神の爲です。あなたはいつでも、ボオルに彼女の住所をおきになることが出来ます。そして、特に、残つてゐる此の二十五ルウブルは、直ぐにカシユビレフからとつて下さい。何故と言つて、恐らく、二十五ルウブル位は、直ぐ

にでもいゝ彼らはいゝと思ふでせう。それで、このことに係り合ふことを拒まないで下さい。何故と言つて私の心は全く不安なのです。ポオルには少し待つて貰ひたいのです。彼には直ぐに助けにゆくことにします。

あなたの「ロシア歴史の物語」に就いて、何にも書かうとはしませんでした。何故と言つて、私は澤山書きたいと思つたのですが、自分を止めることが出来なくなるからです。私は數行書きます。私はそれらを読みました、非常に私の氣に入りました、非難すべきものは何にもありません。然し、それらは、非常に大きな重大な缺點があります。かうです、あなたはまだ二つの物語を御書きになるでせう。それから、それを御止めになるでせう。私は殆どさう信じてゐます。其事柄は全くたゞ長びいて行かうとしてゐます。けれども、あなたは何たる善事をなすつたこととせう。あなたが此物語の爲に、一年間絶えず御書きになるとして下さい、急がずに書いて下さい、少くとも、約二十五の物語に、まとめて下さい、(愛國者によつて健全に批判せられるベートル大帝は、尙一層興味があり、眞實な益なものです。)そこで、かうして、一冊の本の材料となるでせう、それは、別々に發行して、(出来る丈遅延なく、殊に本屋には賣らずに、自費でやるのです。)小學校や、中學校で非常に有用なものとなり、義務的のものとなるでせう、そこで、人々は、一所になつて、カラムジンや、ソロフイエフを讀まなくなります、あなたの本は皆によまれ、小學校や中學生の若い頭に、明確健全な思想を永久に確立することになりませうあなたの仰る通り、老人があなたの物語に教訓的のものがあると云ふならば、彼らは確かに子供の爲に

買ふでせう。此本は、二十年間も行はれるでせう、即ち、教育に必要なものとなるでせう。ある雑誌に前以て發表された物語の半分は、本の註文となり、それを説明することになりませう。それを只經濟的見地から立つて判斷して御覽なさい。それは資本となるでせう。恐らく、大資本となるでせう。二十年の間に、恐らく澤山版を重ねるでせう。凡てこれを打捨つて、利用しないと云ふ法があるでせうか。何故と言つて、それはあなたの觀念です、全くあなた流です。あなたがその事をのび／＼にしてゐらつしやると、誰れか才のあるもの、ラジン(ボジ、ミル)のやうなものが、あなたに先んじて、自ら物語を書き、發行して、利益をうけ、あなたは、踏まれた雑草を刈ることになりませう。それで、この事はうつちやらないで下さい。それは主要です。

時に、カシユビレフに頼んで、ザリアを私に送つて貰ふ方法はないものでせうか。九月號が十月八日に出ました。そして、今は廿七日です、私はまだ何にも受けとつてゐません。何故と言つて、私は自分を購讀者と見做してゐます。私はさう宣言しました、金を拂ひます。田舎の購讀者がどんなに忍んでゐるか私には想像が出来ます。否、こんな風にして、雑誌を發行することは不可能なことです。彼らがブウシユキンや、フォゴルを寄稿者としてゐたとしても、雑誌は不規則の爲に、没落するでせう。彼らは自分で惡いことを作つてゐます。クラエフスキイは、商賣上から事を處理する秩序と合理的方法とで、成功したのです。各號、私の所には同じやうに來ます。

何たる切ないこととせう。

何故と言つて、ある購讀者が、自分の趣味にあつた雑誌を見つければ、斯様な行動で、一層怒るやうになるものです。彼らは、最も忠實な讀者をして厭惡せしめるに至りませう。

私は、自分の寄稿する雑誌を知らなければならぬと言ふ考をもつて居ります。

此度は、ステロフスキイのことです。私は、最も正確に、語法の誤りも注意して、一八六五年に彼とした所の契約の寫しの寫しを、同じにあなたに送ります。ステロフスキイは私を牢屋に入れると脅かして、私を此契約に署名することを強ひたのでした。警部の助手が、私を捕縛せんが爲にやつて來ました。然し、私は慥かに、此助手と話し合ひました。彼は私に澤山の報告を拱してくれました。それは、次いで、「罪と罰」をの爲に私に役に立つたのです。此契約は恐ろしいものです。どうぞ、それを直接にボオルに報らせて下さい。彼に書記と注意してそれを調べて貰ひたいのです。何故と言つて、ステロフスキイは、あなた達が御注意なさらないと、あなた達を浮ぶ瀬のやうやうにする卑劣漢です。今の所、私の考は斯うです。チテロフスキイに、「白痴」をチルウルで買つて貰ひたい。私は現金で、五百ルウブルしか受けとらなくてもいいことを承諾します。残餘は、短い期限の手形にして貰ひたいのです。

「罪と罰」の前金に就いては、混雜と紛糾を避ける爲に、私は來年まで、即ち、出版の時まで待つことにませう、それで、「白痴」丈が問題となるのです。且つ、彼がさう言ふ望みをもつて居れば、今さうしてもいいのです。けれども、故障の起らない爲に、特別の注意を拂はねばなりません。然し、「白痴」丈でさう言ふ風になれば結構です。「罪と罰」の發行に就いては、今は話さないで下さい。バズノフとの

私の期限がきた時、即ち、一八七〇年一月一日まででなければ、それを出版することは出来ません。

(ボオルは、バズノフとの此事柄をよくお報らすることせう。のみならず、一八七〇年まで、權利はバズノフに賣られてゐると信じて居ります。)ボオルが書記と契約の仕組を立て、あなたの検査に附し、彼がそれを私に送るやうにして下さい。さうすれば、ステロフスキイに最後の決心として、其を呈出してもいいのです。然し、ボオルと、書記は、私の送る寫しによつて、注意して行動しなければなりません。何故と言つて、ステロフスキイは、恐らく我々を困らせてやらうとしてゐるのかも知れませんが、例へば、契約の寫しの中で、ステロフスキイが、「罪と罰」を發行せんと欲してゐるなら、私はそれ丈の帖文支拂ひをうけねばならぬが、それを一八七〇年の始めにしか發行は出来ず、發行した後でなければ私は拂をうけないと言ふやうな場合となります。今、彼が一八七〇年前に、前金として「罪と罰」の金を拂ふとすれば、彼は恐らくそれを利用して斯う言ふでせう、「あなたが「罪と罰」の前金として支拂ひをうければ、それで契約は破れることになりませう。何故と言つて、契約によれば、私は一八七〇年になるまでは發行する權利がなく、此時になるまでは、それは私の金とならないでせう。それで、「白痴」に関する契約に就いて少しでも疑はしい點があれば、それは文字通り、下のやうに解釋しなければなりません。現在の約束と處置とによつて、昔の契約は少しも破棄されず、完全に保存されてゐるものであると、云々。

それで、それが、どんなことになるか、我々にはよく解りませう。然し、凡てのことがもつと早く纏

りのつくやうにしなければなりません。ステロフスキイは、「罪と罰」を發行することを禁ずることが出来ません、即ち、彼の権利を捨てることは出来ないのです、従つて、同様に、「白痴」を發行することは彼にとつて有利なものとなりませう。そこで、事件は、全くうまく成功するかも知れません。そして、此一千ルブルは、おゝ、私には如何程、有用なものでせう。

ステロフスキイが斯様に悪漢で無道者であることは残念です。例へば、彼は尙一年間、「白痴」を得やうと望んでゐます、即ち、來年の終りから二年間を計算するのです。然し、斯う言ふ風なら、私を欺いてゐるのだと彼は思はないのでせうか。例へば、契約の中に、出版は、彼の「ロシア文學者叢書」と同じ形でしなければならぬと書いてあります、それから、これに、「罪と罰」を加へてもいいのです。そして、彼は、「白痴」をうつつてから同時に、尙一年の間、私の全著作の出版権を延長することを私が許したと言ふのでせう。(そして、恐らくそれは制限のない時でせう。)何故と言つて、私の著作の爲、先きに出した形で出版する爲に、それを買つたのであるし、「罪と罰」と同じ本で出すのであるから、彼は「白痴」を別にして賣り捌くことは出来ないでせう。そして、彼は他の著作と同時に賣らなければならぬのです。従つて、彼は、私の全著作を一年の間尙賣る権利をもつことになるのです。云々。そして、昔の契約は破棄せられるでせう、云々。「白痴」の發行権が、他の全著作を發行する権と共に終つて了つた方がいゝのです。要するに、此私の手紙をボオルに報らせて下さい。我が親愛の友よ、彼の骨折を感謝して下さい。私は彼に手紙をやらうとしてゐます。——彼の手紙で判斷すると、彼は如何に物の解るやう

になつたでせう。)もし、此事件にとりかゝらねばならぬのなら、早くかゝらなければいけません。只、如何なる場合にも、ステロフスキイが、詐偽者で、上のやうな風にやると言ふことを絶えず念頭におかねばなりません。此ステロフスキイのルブルの中から、——それが纏まるものなら、——ボオルとエミリー・フィオドロヴナを助けることが出来ませう。私の短篇は、「永久の夫」と言ふ題をとることゝ信じてゐます。然し、まだ確定しません。さようなら、親愛の人よ。マンナ・グリゴリエヴナがあなたに宜しくと言つてゐます、また感謝してゐます。リュバ(譯者曰、ドストイェフスキイの姿。此の前に生れたる赤坊の名)は健康で、いろんなことが解り始めました。リュバがあなたとボオルに挨拶してゐます。あなたに全然忠實なる。

エス・ドストイェフスキイ

同じ人に

一八六九年十一月廿三日(十二月五日) ドレスデンにて。

私が親愛の友、アポロン・ニコライエギツチ、私は手紙を書きます、急いでゐます、そして、もう一度あなたに申し上げます。御願ひです、注意して讀んで、あなたの友情を我々に示して下さい。御願ひです。

あなたが、ボオルから送つた紙束に一言付け加へられた時、最後に、「私の短篇が未だ着かない、十一月十二日は印刷されてゐると仰いました。私は十五日以上も前に、カシユビレフに書いてやりました。そして、十一月十二日に印刷するやうな暇があるか如何か知らせてくれるやうに非常に願ひました。私は何の返事も受け取りません、一行もです。それで、私の手紙が着いたのか如何か解りません。(御注意——これは我々の間丈の話です。彼らは人々に對する驚くべき態度をとつてゐます。それで、私の一生涯、未だ會て、こんな人に會つたことはありません。然し、我々の話に返りませう。

私は遂々、彼らの欲するやうに、發表させることに決しました。それは一月と二月に發表されるだらうと思ひます。短篇は出來て居ります、然し、これ程長くなつたので、私はびつくりしてゐます。ルスキイ・キエストニク紙で、正しく十帖です。(それは私の筆でひき延ばされたものではありません、書き乍ら變更したり、新しい挿話を入れたりした爲です。)とも角、それが善からうが悪からうが、(これが全く獨創を欠いてゐると私は信じません。)私は正しく千ルウブルの追加を受けとらねばなりません、(少しそれ以上になります。)

然し、斯ふ言ふことがあります、私の境遇の爲、何日それが發表になるか、出来る丈正確に、報らせて貰はねばなりません。私は、更に原稿を賣つて、金を前に受けとるやう彼らに申し込まねばなりません。

然し、それは前借ではないのです、さうぢやないですか。私が文學に携はつて以來、極く單純に私に

前借金を渡すのを拒んだ雑誌社はありませんでした。(原稿を渡して了つて、くれない所もありませんでした。)前金を誰にもくれないのですか。我々が雑誌を發行した時、凡ての人々に前金を拂ひました、何と言ふ額になつたでせう。殊に、もう今は申込みが始まつてゐるのに相違ないので、私は上のやうに申し上げます。雑誌社で、最も金があるのは十二月です。私が要求するのではなく、謙遜に御願ひするのには、何故彼らは拒むのでせうか。

然し、私は自分でそれを凡て彼に話させよう。我が親愛の友よ、あなたには、澤山お助けを御願ひすることがあります。

此度は、此手紙の最も重大な點です。私は絶対に一錢も持つてゐません。あなたの手でザリアから送られた金は、受けとる前に消費されました、凡ては負債を拂ふ爲に費されました。ルスキイ、キエストニクから、私は、まだ、何にも受取つてゐません。そして、また、(信じて下さい、それは文字通りです)私は金がありません、私には編輯局に原稿を送らうとしても、それを得ることが出来ません。原稿は澤山あつて、五タアルルもかゝるのです。それですから、私は下の様にあなたに御願ひします。貴方が此手紙を神かけてお取りになるや否や、後生ですから、出来るなら、カシユビレフに此を讀んで下さい。(第一頁の注意を除いて。)彼が五十留都合出来るなら、送つてくれるやう願ひます、彼は非常に困まつてゐるのですから。原稿に五タアルルを要するけれども、我々の爲にもそれ丈入用です。お、如何に我々は困つてゐるでせう。彼が五十ルウブルもたないのなら、いくらでも、せめて二十五ルウブルでも

送つて下さい。(然し、出来るなら五十ルウブルです。)然し、重要なことは、直ぐに、翌日にも、送つて貰ひたいのです。あなたは水曜に私の手紙を御受取りになるでせう。彼が我々に金曜に送つてくれるといふのです。あなたに御願ひするのは、彼がさうしてくれるやう御助力して下さいことです。金を受けるとるや否や、その翌日にも、私は原稿を編輯局に送りませう。私は前以て、手紙やその他の準備を凡てして、一分間も遅れないやうにしませう。今でも、凡ては準備されてゐるのです。私はペンを手にして、最後にもう一度読み直すすべしといふのです。

それで、斯うして、私は待つてゐます。

ステロフスキイに就いて、二言申上げます。私はそれが本當に眞面目な事であるか如何か了解に苦しみます。けれども、こんなに澤山書類を送つて来たなら、ボオルには大切なことを書いてよこしません、ステロフスキイが同意したのか否かと言ふことを。

次に、ボオルが、こゝから私の送るやうに請求して来た委任状ですが、こんな形式の下に、それをやることは、私には出来ないことです。十萬ルウブルくれても、私はそれに同意しません。私は父にも兄弟にも、こんな委任状を渡しやしません。それは出来ない相談と言ふものです。ステロフスキイの事件以外に、ボオルにいふと思はれる人々、此委任状渡す権利を與へて、例外なく、凡ての私の事件に係する完全な権能を彼に與へるやう彼は要求してゐるのです。それは、滑稽で、馬鹿々々しいことです。ボオルは、それは形式に過ぎないと書いてよこしました。

法律に斯様な矛盾があり、椅子や古戸棚をうる爲に、全生涯、全權を委ねばならぬと言ふことがある筈はありません。何たる矛盾でせう。のみならず、約二年前、妻はこゝから、四百ルウブルの負債の爲物を賣らせる委任状を送りました。その委任状は普通の紙で何の形式もありませんでしたが、負債を正確に書き並べ、事件を陳述してありました。凡ては、大使館で適當な法律上の手續を経ました。そして事件は、瞬く間に定められました。何故と言ふに、其事件は、適法的になされたからでした。私の考へでは、その事件が眞に眞面目なら、それはボオルの所で無益にぐづぐづしてゐるからです。もつと早く極りをつけねばなりません。あなたがボオルに御會ひになつたら、さう言つて下さい。

金は、最もいふことは、最も有利なことは、あなたが百ルウブル私に御送り下つた時なされたやうに正しく、ロシア銀行手形で、封筒を書き留にして送ることです。それは最も迅速で、金を換へる時、最も手数料がいりません。

さようなら、私は急いでゐます、全くあなたのものなる

エフ・ドストイェフスキイ

どうぞ、あなたにいつも、いつも、御面倒をかけることを許して下さい。私の二人のものである彼女達は、あなたに眞心から、御挨拶してゐます。

同じ人に

一八六九年(十二月七日—十九日) ドレスデンにて。

非常に親切な友、アボロン・ニコライエツチ、一昨日、私は、ザリア編輯局に、短篇を送りました。そして、昨日、カシユダレフに手紙を書きました。今、あなたに、御頼みがあります。(いつも、御頼みばかりですが)それがどう言ふものか、書いて下さい。

短篇は、少くとも、ルスキイ・ギエストニクの印刷紙で、九帖はあります。乾度、九帖半はあります。私はとに角九帖としておきます。九帖で、千三百五十ルウブルとなります。今迄に、私は彼から、五百五十ルウブルから、六百ルウブルまでの前金を受け取りました。(決定的の計算をして、正確に勘定しませう。まあ、最大限度をとつて、即ち六百ルウブルとしておきませう。)それで、少く見つても、七百五十ルウブル受取る金は儘にあるのです。我が友よ、既に書きました通り、此中から、私の負債をあなたが御受けとりになることを願ひます、カシユビレフから、先づ始めにです。そこで、私は尙、五百五十ルウブル受取るべき金はあります。(決定的に勘定すれば、それ以上ですが、今は、五百五十ルウブルより少くはないとおきませう。)

此が印刷出来るまで待つのは、私にはほと／＼出来ないことなのです。こちらでは、凡ての人々は、

クリスマスと新年に、勘定を拂ふやうに要求してゐます。そして、私は非常な借りがあるのです。街の中に寝に行かなければならなりません。クリスマスは七日に迫つて居ります。昨日、カシユビレフに出来るなら、一所に二百ルウブル直ぐ送つてくれるやう懇願して手紙を書きました。(彼が出来るならです!)あなたには、他のことを書きませう、私を助けて下さることが出来るなら、助けて下さい。助けると言ふ言葉は、文字通りに取つて下さらないといけません。あなたがこゝにゐる私の境遇をすつかり御存知になつたら、慥かに、こんな生活をするのは不可能のことだと自ら仰るでせう。

他のこと、言ふことは斯うなんです。クリスマスの祭日に、全く金なしでゐると言ふことは不可能のことですから、そして、編輯局に多分、餘り多くの金はないでせうから、二百ルウブルでなくても、直ぐに百ルウブル送つて頂きたいのです。然し、それが直ぐであると言ふのが條件です。後生ですから、カシユビレフにさう傳言なすつて下さい。然し、重大なことはこれです。

長い金銭上の困惑をする境遇をへた後、あなたは個人的に、恐しく未だそんなことを御経験になつたことはないかも知れませんが、あなたは乾度、私の心持を理解して下さいでせうが、家事の始末をつける爲には、長い困却の後には、同時に、澤山の助力を仰ぐことが、如何に必要でありませう。私は、三百六十ルウブルで、質物を入れてゐるので、(私はあなたに全く本心から打ち明けてゐるのです)それは銀貨四百ルウブル以上のものとなりますが、また、月々、質入の爲、五分の利を拂ひますので、凡てを一所に引き出して了つた方が非常に有利なのです。

次に、もつと必要で、根本的にしなければならぬ澤山のことがあります、私と、妻と、リュバ、その他の爲、厚い着物を買ふことです。

それから、リュバの洗禮をうけねばなりません、此子はまだ洗禮をうけてはゐないので、我々にはそうするべきがないのです。

要するに、私はザリアに直ぐに百ルウブル送つてくれるやう頼みます。他の四百ルウブルは、ロシアのクリスマスまでに送つて貰はねばなりません。即ち、我國の曆で十二月廿五日に、金がつくやうにして貰はねばなりません。

今は、凡ての問題は、こゝにあるのです。そうして頂くことが出来るでせうか。親愛なる人よ、カシユピレフにそう仰つて下さい。これが奇怪なことであるとは思ひません。私は、三千ルウブルの前金をとれる機会があつたのです(ルスキイ、ギエストニクから)。そして、今お願ひすることは、殆ど前借ではないのです。いゝですか、大切なのは、彼らは金を持つてゐるだらうか、と言ふことです。然し、私の意見としては、また、正しい考へによれば、十二月廿日頃よりも、以上の金が、雜誌社には、何日あるだらうかと言ふことです。私は彼らとバズノフとの條態を少しも知つては居りませんが、それでも、バズノフが十一月までに、自分の金を彼らに渡すことが出来ないなら、申込みの金が貯つてゐる筈の二三萬ルウブルの金を、十二月中旬後には、少しもそのまゝにしておくことは出来ないと言ふことを、私は正しく全く慥かに考へてゐるのです。それで、彼らは私にその一部をくれるやう、いくらか持つてゐるでせう。

私はそれを請求する権利のないことは知つてゐます。然し、請求するのではないのです、へりくだつて御願ひするのです。

然し、彼が斯様にしてくれることが出来ないなら、即ち、百ルウブルと、十二月廿四日に四百ルウブルを送つてくれないなら、二百ルウブル、即ち、カシユピレフに書いたもの丈送つてほしいのです。そう彼に話して下さい、友よ、深切にして下さい。

ステロフスキイの都合が、眞にまとまるものなら、私の凡ての事柄はまとまるでせう。私はザリアに書く短篇を非常に書き急いだので、殆ど、ステロフスキイのことを考へる暇がありませんでした。今はそれが、熱を起す程、私に重大なものとなりました。今、ステロフスキイから千ルウブル取ることは、私にとつて、全然の救済となります、復活です。然し、それには、少しは眞面目な話があるのですか。それは本當にあり得べきことでせうか。とに角、私は、ステロフスキイの條件について、委任状と指圖とを、ボオロに(あなたの名前にしたのをお許し下さい)送ることに決心しました。此事件が少しでも眞面目なものなら、出来るなら、早く、クリスマスの前に片づけたいものです。あなたには、此事件を長びかせないやうに、よくボオルと御相談下さるやう御願ひ致します。——もつと早く、その結果を知る爲です。それで、斯様に、近い中に、あなたに委任状を御送りませう。事件がまとまるなら、私の苦勞は、永久に終るでせう。

私は今何をしてゐるか、あなたは御存知ですか。二ヶ月半できちんとした書方で印刷紙九帖を書いて今は、短篇に忙しくて、返事をやらなかつた人々に、一生懸命で、手紙を書いてゐるのです。それから、三ヶ月の中に、私はルスキイ・ギエストニクの小説を書き始めます。私が新粉細工の如く、小説を作つてゐるのだとは思はないで下さい。私の如きものが、例へ、どんなに醜く厭なものであるとしても、不幸なる私、作者たる私に取つては、此小説の觀念と、その中に捧げる勞作とは、世界に於ける如何なるものよりも、最も尊いものです。それは新粉細工ではありません、最も親しい、最も久しい前より、抱いてゐた觀念です。宜しい、私はそれを拙いものにせんとしてゐるが、如何することが出来ませう。

すつかり、あなたのものなる

エフ・ドストイェフスキイ

ストラホフに

一八七〇年一月十日(廿二日) ドレスデンにて。

非常に親切なニコラス・ニコライエキツチ・ボオルがあなたに、此封をしない數行の手紙を御渡しするのをお怒りにならないやうに願ひます。私はそれを、一つの封筒で、また、今年ザリアをとることを非常に熱望して居るボオルの頼みで送るのです。

今の場合、事の起りさうなのは、信用借のことです。去年、私はザリアを信用借で取りました。然しそれは金を拂ひませう。のみならず、私は、「戦争と平和」(五篇)を受け取りました。斯うして、去年のザリアと、「戦争と平和」の爲、私は雑誌社に借りがあります。ニコラス・ニコライエキツチ、私は、それを私の拂ふことにして頂きたいと非常にお願ひします。斯うすれば、去年のことは、請算することになりませう。

今、今年(一八七〇年)も、ザリアを取らねばなりません、それから、ボオルは、尙、自身の爲にザリアを読みたいと言つてゐます。斯様に私の爲に、信用借で、とりはからつて頂けないでせうか。即ち今年(一八七〇年)は、いゝですか、金を拂つて、二部をとることになります、ですが、勘定は年末にして頂くやうにして下さい。信用借と言ふ意味は即ち、これです。出来るなら、さうして頂くやう御助力を非常に御願ひします。

私はまた、バズノフから、信用貸で、レオン・トルストイの第六篇(戦争と平和)を御送り下さることを御願ひします。その広告を私は新聞で見ました。あなたに、どうぞ出来るなら、遅延なく、御願ひ致します。

それで、私は、雑誌社に、今年一八七〇年の購読料と、「戦争と平和」の第六篇を、お借りすることになります。私は以上の御願ひで、あなたや、雑誌社に御面倒をかけることはありません。私の御借りする金額は、(即ち、ザリア二部と第六篇)年末に、どっにかして御返しする方法を購ひませう。

あなたがもう、サン・ペテルスブルグに御歸りになつたか知りません。あなたに御機嫌は如何ですか。仕事をすると云ふ意志をおもちですか。神があなたに成功を與へられんことを。私は非常にあなたに會ふの愉快を得たいと思つてゐます。私には、始終あなたや、凡ての人々が、此三年間に、するぶん變つたに相違ないと云ふやうに思はれてなりません。

全くあなたに忠實なる

エフ・ドストイェフスキイ

マイコフに

一八七〇年二月十二日(廿四日) ドレスタンにて。

非常に親切に尊敬するアポロン・ニコライエギツチ、私はあなたに御面倒をかけるのを恥ぢてゐますが何とも仕方がありません。で、今の境遇は、また此度も、あなたに餘儀なく御頼みするのです。私はあることを非常に心配してゐます。私はあなたを親切な人として知れてゐるとして、御頼みするのです。私は、あなたに用事を御頼みする何等の権利もありませんけれども、時として、あなたが私にとつて、少くとも、一部分は、恐らく昔私に非常に眞實に心を傾けて下つた同じアポロン・ニコライエギツチであると思つてゐるのです。そして、私は恐らく、あなたを困らせたでせう、何故と言ふに、さうで

なければ、私はあなたに罪のあるやうには感じはしません。それで尙今度丈御許し下さい。

こゝに斯う言ふ問題があります。約二ヶ月前、私はこゝから、ボオルに、正式の法律的な委任狀を送りました。(恐らく、それより、少し前でせう。)私は記憶して居りませんが、私がそれをあなたの名宛にしたことは、屹度慥かなやうに思はれます。それで、あなたは、ボオルの手に此委任のあることを御知りになることが出来ます。それから、何の便りもなく、一ヶ月の間、私は何らの返事も受けとりません。とうとう、一ヶ月半前に、彼はステロフスキイの申込書を承諾し、ステロフスキイの権利の享受期限を、尙一ヶ年延長することを要求して來ました。私は直ちに承知しました、殊に、その手紙の中で、全く、(今迄のやうな、さうしたいとか、さうするかも知れぬと言ふ形式ではなく)事件が決定的に定まり、一月十五日と廿日の間に、我國の曆で、私が急いで返事を送らなければ、それは終結を告げて了ふと彼が報らせてよこしたからです。彼は私に詳細のことを報らせて來ません、「私は常に忙しいのです、』と言ひ、そして、斯う付け加へてゐます、「私を信用して、安心してゐて下さい。」

私は彼に直ちに承知を與へました。始めは、私が本當に希望を抱き始めた程に、決定的に手紙を書いてよこしました。それで、それから、一行も書いて來ません。とうとう、丁度十五日前に、私は、きちんと、直ちに私に報らせ、二行丈でも、定まつたか、定らないか手紙をかくやうに、手紙をやりました。然し、今迄、私には、彼から、まだ一言も言つてよこさないのです。彼は、私が生きてゐるやうな様子も示して來ません。……

然し、恐らく又、ステロフスキイとの事件は、只、纏らなくなつたので、私の報らせてくれと言ふ請求に、ボオルは、怠けて只返事をよこさないのです。ステロフスキイが、必要なら、年の暮になつて、發行しようと思ふ時に、買つた方が都合がいゝのに、今彼が買はうと欲してゐるときいて、始め私もびつくりしました。如何なる必要があつて、彼は六ヶ月も前に前途を拂ふやうなことがあるでせう。然し、今、彼は彼の賣手が如何なる境遇にあるか、即ち、私が金を持つてゐるか如何か、望んでゐるものは何かと言ふことを知らうとして、わざと、ボオルとくす／＼してゐたのです。六ヶ月すぎれば、私は今よりもつと困るだらうと言ふことを慥かに知つたのです。猾計に於て、ステロフスキイに優つてゐるのはボオル・アレクサンドロギツチではありません。

今は、正しく、あなたにして下さるやう御願ひするのは、斯う言ふことなのです、ボオルをあなたの所に赴かせて、あなたに、その事件を報告するやうに請求して下さい。即ち、成立したのか、さうでないかと言ふことをです。その外は何にもして下さらなくていゝんです。且つ、私が彼に送つた委任状を彼が直ちに自分で持参して渡すやう彼に請求して下さい。それを得られたら、あなたの所に蔵つておいて下さい。

何であらうとも、それにボオルが罪あるとしても、彼がそれに償する外はありません。然し、彼が何にも罪がないとしても、私も亦彼に對して少しも罪あるものではありません。私はこゝから、彼に法律正の書いた委任状を送つて、彼に最も盲目的な信用を示したのです。彼が此書付を受けとつて、凡てを

放棄し、沈黙してゐるとしても、私は罪があるわけではありません。即ち、彼自身に對する氣兼ねに過ぎない。斯かる委任状を彼の手に渡して、それが彼に何ものにも償しなければいゝ丈、私に返事をよこすべきであることを彼が知らなかつたならば、私に罪があるわけではありません。

彼が委任状をあなたに渡すこと拒んだとしたならば、私は新聞に廣告して、止むなくその委任状を取消さねばならなくなると言ふことを彼に言つて下さい。そうすれば、一層悪いことになりません。

且つ、彼が、あなたに委任状を渡すとしても、それは何らの説明とはならないでせう。彼がステロフスキイと何か約を結んだとしても、今から、ある時まで、私は何にも知らないでせう。最もいゝことは、出来るならば、ボオルに會ふ前に、ステロフスキイ自身に、彼がフィオドル・ドストイェフスキイの小説「白痴」の賣買に就いて、如何なる相談をしつゝあるかを聞くことです。私の考では、斯うすれば、直ちに凡ての本當のことが解りませう。何故と言ふに、ステロフスキイは、祕密を守る丈の理由を持たないに相違ありません。ボオルの方では、斯う言ふ一切の調べに、怒ることは出来ません。委任状を手に入れて、軽々しく振舞つて、私を斯うするの止むなきに至らしめたのは彼なのです。彼は彼自身に對して餘りに遠慮がありません。私はさう繰り返して申します。

私はあなたが御自分で、ステロフスキイの所に調べに御出下さいと敢て御願ひするものではありません。然し、あなたが私の爲に、さうしやうと思つて下さるなら、私は決して、あなた御骨折をかけたのを忘れはしないでせう。

十五日前、私は、カシユビレフに、私の短篇の残餘の金を送つてくれるやうに、最もつましい懇切なお願いをしました。(その短篇は、第二冊目に全部掲載されるに相違ありません。従つて勘定を定めることは、彼に容易なことでありませう。)一行の返事も参りません。けれども、今、即ち十五日前、我々が勘定をきめることは、彼にとつて、どうなると言ふのでせう。そして、今と言ふのは、十五日間にすぎないではないでせうか。それは、彼から、より以上の價をとる譯ではありません。そして、私は、金が盡きてゐるのです。私は店や家主に、勘定をためてうつたので、全く信用を失ひました。私は十五日間に勘定をしても駄目でせう、私の信用は失はれてゐます。人々は私にさう断言しました。何故でせう。何故、彼は今私に金を拂ふを恐れてゐるのでせう。彼は必ず私の短篇をすつかり發表すると私は思つてゐます。私はそれをあてにしてゐました。例へば、彼はレスコフに、前借千五百ルウブルまでやつたことを私は新聞で見ました。そして、彼はビセムスキイに、どれ丈か屹度やらなかつたでせうか。そして私が前借を要求するのでもなく、私にくれなければならぬもので、斯様に謙遜なお願いを書いてやつたのに、私には少しもくれないのです。そんなことは、私には今迄になかつたことです。そして、四ヶ月の間に、千五百ルウブルをとりながら、私は今迄こんなに困つたことはありませんでした。私は尙も彼に書きませう、ですが、後生ですから、彼に私のことを話して下さい、私のことを考へさせて下さい、彼は恐らく私のことを忘れてゐるのでせう。私は將に首をくくらうとする程、そんなに困つてゐるので

彼の雑誌が成功したか如何か、購讀者の数が増えたか如何かを知ることは、私の嬉しく思ふ所です。こう、遠くに居れば、彼らが自分らの偉大なる高い目的の外は考へないで、恐らくは氣のつかない編輯上の些細の缺點、屹度、それ以上でなくとも、千人の購讀者を減らした缺點がすつかり、よく解ります。そして、彼らは、それが彼ら自身の缺點だと言ふことを悟りません。然し、それは残念なことです。ザリアは、いゝ方針をもつてゐる雑誌なのです。そして、雑誌に廣告されるべきいろいろな小さい事を、前もつて報らせるに、彼らは如何なる方法をとつたのでせうか。「次號には、小説「猶太人」をのせませう。」と言ふことです。そして、それは、表紙に約二度程、大文字で現はすのでせう。その傾向、批評に於いて、初號から其を非常に高く買ひ冠つた雑誌で、此「猶太人」が、「死せる魂」、「貴族の家」(オプローモフ)「戦争と平和」に匹敵する價値を有する作物でなければ、斯様に鹿爪らしく「猶太人」を廣告すべきではありません。けれども、小説「猶太人」は、價位がないことはないとしても、全く、「死せる魂」に比肩するものではありません。あらゆる購讀者は、あせつて、廣告せられた「猶太人」に向つてゆきませう、そうして、それから斯言ふでせう、「彼らがあれ程面白いと思つたものはこれだ。それだから彼らは淺薄なのだ。」と。彼らは斯うして、雑誌と小説に對して悪いことをするので。コピアコフ夫人の小説に就いても、同様に言ふことが出来ます。それから、彼らは、今年の凡ての人の名と凡ての論文を、如何して別行したのでせうか。彼らが黙つて居れば、人々は彼らを金持だと信ずるかも知れません。人々が廣告の論文の並列を見て、「あゝ、彼らはこれに過ぎないのか。」と思ふでせう。今年のザリ

アの第一號は、あなたに、最も灰色の印象を與へてゐます。心を動かす近代的な根本的なものを全然缺いてゐること、(彼らには、いつも此通りです。)美文の非常に少いこと、(私の短篇でさへも、二つに分割されました。)あなたのすばらしい翻譯は、美文に屬してゐるものと見なすことは出来ません。それは韻文の詩集であると同時に、學者的の論文ですが、美文ではありません。人々は、贅澤と豊富の爲に、同じやうな詩を發表してゐます。然し、また美文も必要です。あの翻譯小説は何らの價値もありません。批評でさへも、昔の力と調子をもつてゐますが、昔の觀念の再三再四の繰り返へしに過ぎません。去年の十二月號は、クリスマス祝日前に出ました、さうではないですか。それでは、(新聞によると)一月號は、今年の一月二十三日に出るのです。あらゆる購讀者は、下のやうに言ふかも知れないでせう、(斯様に押しつまつた時、即ち、申込みの時機にも、きちんと發行出来ないなら、十號十一號となると如何するだらう。)と。カシユレフを始めとして、編輯局の凡ての人々は、かゝる誤をつまらぬくだ、くしいものと見なしてゐるのだと私は信じてゐます。然し、斯う言ふくだくしいことを十ばかり算へることが出来ません。そして、それはもう屹度、千人位の申込者をなくして了つたに違ひありません。そして、それは、例へばあらゆる華々しい名前(ツルゲネエフ、ゴンヂャロフ、コストマロフ)を並べることを知り、毎號豊富な興味あるものを出し、必ず毎月の始めに出るザエストコク、エフロビのやうな力強い競争者を持つてゐるのです。然し、ザリアでは、それは一つの傾向があるからと言つて、つまらぬことだと信じてゐるのです。さて、それに傾向が問題とはなりません、發行することを知らることが問題です、

残念なことは、ザエストコク・エフロビが、慥かに最も重大な雜誌なることなのです。ザリアは、その申込を實現したでせうか。

私の發作は、非常に間をおいて、再び襲ひ始めます。そして、私の氣分を悪くし殊に、仕事をすることを妨げてゐます。私は一つの豊富な觀念を抱きました。私はその實現のことではなく、觀念のことを言ふのです。それは、讀者に言ふべからざる効果を與へる觀念の一つです。それは、「罪と罰」のものです。尙一層、現實に近く、一層根本的です。そして、現今の重要問題に、直接な關係を有してゐるのです。私は急がず、せかず、秋頃までかゝつて書き終りませう。これが秋に發 になるやうに、出來りませう、そうでないと非常に工合がわるいのです。私は少くとも、「罪と罰」と同じ金の金を受けとることと思つてゐます、従つて、今年の終りには、凡ての私の事件が纏まり、ロシアに歸る望みがあります。然し、その主題は、非常に熱烈なものです。私はこれ程の夢中と容易さで、未だ曾て仕事をしたことはありません。然し、これ丈にしておきます。私はあなたを長い手紙で壓倒してゐます。……もし、あなたが御出來になるなら、カシユレフに金を送るやう言つて下さい、そして、ポオルに就いて、あなたにして戴くやう御願ひしたことを、凡てして下さい。私は決してそれを忘れは致しません。私の全家族は、あなたに宜しく申上けるやう私に頼んでゐます。

あなたの

フィオドル・ドストイエフスキイ

ストラホフに

一八七〇年二月廿六日(三月十日) フレステンにて。

非常に尊敬するニコラス・ニコライエギツチ、あなたの御記憶と御手紙に感謝をとり急いで申し上げます。外國にゐると、我々の善良な舊友の手紙は尊いものです。さて、マイコフですが、彼は私に全く手紙を書くのを止めたやうに思はれます。私の物語に對して、あなたが數行賞めて下つたのを、熱心に頼みました。(譯者曰、一八七〇年ザリア第一第二號に掲載せられたる「永久の夫」に就き、ストラホフの書きたる手紙。小著、「ドストイェスキ」二百九十頁参照。)それは、私は喜ばしく、愉快なものでした。私は、あなたのやうな讀者をいつも喜ばせやうと思つてゐたし、今も尙思つてゐます。カシユビレフも亦満足してくれてゐます。——彼は二通の手紙でその事を示してくれました。私は、凡てのことに愉快です、そして、殊に、あなたがザリアのことに就いて仰つたことに満足です。もし、ザリアがしつかりとして來たのなら、すばらしくいゝのです。私は全く此の雜誌のつてゐる方針と一致してゐます、そして、この成功は、私の成功と混入してゐるやうに思はれます。ニコラス・ニコライエギツチ、それは私にグレミヤを、我々の若い時代のことを思ひ出させます。それに、打ち明けて貴方に言ふことを御望みですか、私が申込みがうまく行くかと幾分疑懼を抱いてゐたのです。私は雜誌の成功に就いては疑つ

てゐませんでした。遅かれ早かれ、雜誌は購讀者をうるでせう。然し、私は今年の申込みに就いて心配してゐました。こちらには、雜誌は、もつと正確に、もつと安全に發行されべきものゝやうに私には思はれました。然し、私は間違つてゐました。二千五百の申込者、私はは非常にいゝことです。宜しい。何故と言ふに、それは雜誌がしつかりとして來たことを證明してゐます。いゝですが、三千五百の購讀者、それは尙一層いゝことです。雜誌が、有益な方針と去年現はれたものゝやうな論文をもつて、何故これ丈の價を得ないか、私には全く解りません。此の現はれて來ない千人位の購讀者は、雜誌者の門に來て戸をたゞいたことを、全然私は確信します。然し、彼らは、何かのことで、指の間から迷れ去つたのです。恐らく、凡てそれは、いろんなことや、發行者の熟練や巧妙に關してゐたこととせう。凡てこれらの事柄は、雜誌發行の事業に價をもつてゐます。私が、私の關しないことに立ち入つてゐることはよく存じて居ります、然し、思つても見て下さい、新聞の廣告によれば、ザリアの二月號は、二月十六日に出たのです。今は二月が十六日になりました。そして、私はまだそれを受け取りません。雜誌者が私丈に斯うしてゐるのだと認めることは出来ません。(何故、私丈に斯うしてゐると言ふのですか。)サンペテルスブルグ以外にゐる購讀者は、同じやうに斯うして困つてゐると、私には確かに解ります。さう信じて下さい、私は今日、齒齧みをし乍ら、郵便局から出て來たのです。——これ程、私はこの雜誌をよくよみたいと思つてゐるのです。こちらでは、ザリアが毎月到着することは、私にとつて、御祭りなのです。記念日なのです。私は今日雜誌社に電報をうたうかとさへ思ひました。(さあ、全く私に雜誌を知る

のを忘れたのかも知れません。どうぞ、報らせて下さい、御願ひです。疑ひもなく、それはつまりぬことと相違ありません。然し、斯う言ふつまらぬことが澤山あつまれば、千人位の購讀者が逃けて了ふのは、驚くにあたりません。

私がザリアの第一號をうけとつた時に、雑誌が私に強い印象を残さなかつたとマイコフに書きました。美文が餘りに過少であるやうに私に思はれました。只、私の短篇丈です。あなたは、この短篇をよく仰いました。人々はこれ丈で満足することが出来る程、それは重要なものではありません。それに、それは短篇ではありません。短篇の半分、五帖のものです。(マイコフのシロフは、詩です、それは美文ではありません。)(譯者曰、マイコフの「イゴル遠征の傳説」のことを言ふ。)(あなたの論文はすてきなものです。けれども、古るい問題です。)(私は、自分の見地から斯う言ふのではなく、購讀者の見地に立つて言ふのです。)(時に、あなたのツルゲネフの論は、トルストイ論よりもいゝと誰が言ひましたか。ツルゲネフ論は、すてきで、明確なものです。然し、トルストイ論では、あなたは、言はゞ、基礎的地を披瀝されたので、それから、あなたは活動を繼續しやうと思はれるのです。——私が如何にそれを考へてゐるかと言へば、斯うなのです。そして、あなたが今さう言ふことを許してください。——私は文字通り凡てを一致してゐます。(前にはさうでありませんでした。)(そして、この論文の數千行の中で、私は只二行丈を否認します、二行以上でも以下でもありません。それとは、全く一致することは出来ません。然し、そのことは、後で我々は話しませう。雑誌はそれでも基礎をおくことが重要です。そ

うすれば、非常にいゝのです。

時に、あなたの御健康に就いて、何と仰るのですか、『私は始終齒きしりしてゐる』つて。あなたは何か慢性的の御病氣をおもちですか。私はあなたのそんなことを仰るのを始めて聞きました。私の方は、辛ふじて健康を持續してゐます。御存知の發作です。けれども、他の方はいゝのです。

あなたは、お互に助け合ふとは思はないか、と御書きになつた。——即ち、ザリアの寄稿に就いて、それは、非常に尊敬するニコラス、ニコライエギツチ、私はあなたに、全く打ち明けた正直な説明を致しませう。私は心底から、ザリアに寄稿したいと思つてゐます。私の真心からのみならず、また、私には尊い意見のある爲に、そのすばらしい成功を祈つて居ります。然し、ザリアの爲に、順序よく或物を書く爲には、前もつて私を助けて貰はねばなりません。私の爲に、そうすることは出来ますか。そこに、凡ての問題が横はつてゐるのです。

前借に就いての此主張は、私の方の据做や興奮の出來心ではありません。人が私にさう請求するのでなく、私自身が申し出づる丈それ丈、さうです。何故と言ふに、あなたの助けよと言ふ御招きを、私は正式の申出でと見做すことは出来ませんから。私の金のことを話すのは、つまらぬことで、厭なことを思ひます。然し、眞實は、下の二語で、あなたに御解りになりませう、一生涯、私は金の爲に働きました、一生涯、私は常に窮乏して居りました、今は、今迄よりも尙更です。然し、私の仕事の爲に、凡ての人々は、私に常に前借をくれました、然も、澤山にです。そして、それと違ふやうなることは決して

てないでせう。そして、その外になりやう筈がありません。何故と言つて、我國の著名の作家のするやうに、數ヶ月待つて、それから、待ち乍ら、完結する小説を賣ることの出るやうにして、私は一時に澤山の金を手に入れたことは決してないからなのです。

然し、同時に、打ち明けて言ひますが、私は金の爲に、小説の主題を想像した事は一度もなかつた。前もつて定まつた條件で、書くことを曾て承諾して、其當義務を満足せしめる爲に、したことは一度もありませんでした。私の主題が頭の中に既に出来上つた時、私が眞に書かうと思つた時、書く必要があると認めた時、——前借で賣つて、——そして、約束したのです。私は今、斯様な主題を持つてゐます。今は、詳細のことを書くことは出来ませんが、私の言ふことの出来るのは下の通りです、私が是以上新しい、完全した、獨創的なものを考へたことは、極く稀にしか起りませんでした。私は傲慢であると申しられることがなく、斯う言ふことが出来ず、何故となれば、私の頭の中に肉體化してゐる觀念、主題のみを言つてゐるので、實行のことを言つてゐるのではありませんから。實行のことは、神にかゝつてゐます。屢々、私の心に起つたことを、私は惡化したかも知れませんが、私の中のある物は、靈感が私を見捨てないことを語つてゐます。然し、觀念の新しき、方法の獨創的なことに對しては、私に責任があります。今の所、私は此の觀念を、喜びを以て見つめてゐます。それは二部に分れた小説となりませう。——十二帖以下ではありません、然し、十五帖以上ではありません、(私はさう思ひます) 少くとも、それ以上ではないのです。それは今年(一八七〇年)の十二月一日までに、雜誌社に渡すことが出

來ます。私は、立派に書く爲に、前もつて、暇を見つけることが出来ず。(御注意、——十一月一日にそれを渡すことも出来ませう、然し、同じ雜誌に、同じ年に、第二の大小説を發行することは、非常に厭に思つてゐることを私は自白します。それは、今のやうに、來年の一月と二月に出しても、いゝではありませんか。のみならず、その外にしやうがないと私には思はれるのです。)

私の方から申し出でることは、これ丈です。雜誌社の方には、私は斯う言ふ御願ひをします、このやうに、千ルウブルの前借です。今日から一ヶ月の中に、五百ルウブルと他の五百ルウブルは分割して、始めの五百ルウブルをくれた後の月から、毎月百ルウブルづゝ送つて貰ふこと、そして、それで、五ヶ月に渡るので、大切なことは、送金が規則的であることです。然し、始めの五百ルウブルは、絶対に一ヶ月の中に、一所に送つて貰はねばなりません。

非常に尊敬するニコラス・ニコライエギツチ、あなた御自身の御考へで、私の申出が受け入れられ、實行すべきものであると御認めになるならば、それを、グシリイ、ヴラヂミロザツチに御通じになつて下さい。彼は、いと思つた通りに決心させよう。彼が承諾したなら、私の無益にあてにしない爲、決定的に、私の時間と仕事を組み立てることが出来る爲に、御報らせ下さい。

私の方では、此申出でを誇大なもので、大膽なものだとは思つてゐないことを付け加へて申します、第一、私は十度もこんな風にしました、また、もつと澤山の申出をしましたが、殆ど凡て承諾されました。第二、ザリア誌は、新聞で承知してゐる通り、去年は、千五百ルウブルまで、前金を渡したもので

す。とに角、私はさうして、熱心に働く凡ての準備をしてゐます。それから、発行者は、それを決定して頂きたいのです。

更に付け加へて申しますが、私は、全生涯の間、いつも正確に、私の文學的約束を實行しました。私は一度も反いたことはありませんでした。のみならず、約束を果す爲に、私は、只、金のみで書いたことば決してありません。私が悪くしたとしても、私は純潔な心でそうしたので、悪意をもつてやつたことはありません。

其上、私は、原稿を渡すまでは、此千ルウブルの外に、金の御助けを願つて、雑誌社を責めることのないやう御約束します。それから、私は今年には死なぬことも御約束致します。

斯うして、私はあなたの御返事を待つてゐます。また、あなたに切なる大きな願をします、もし、それが出来るなら、次ぎの信用借として、「戦争と平和」にして下つたやうに、「グラレノフスキイに依いてのスタンケギツチの本を御送り下さい。私の爲に、この大きな務めをして下さい、私はそれをいつも忘れないでおりませう。此本は吸つてゐる空氣のやうに、私には必要なのです。私の著作の爲、智識の泉として、——私のなくすまされぬ源泉として、出来る丈早くです。あなたが、只それを御送り出来るやうになられたら、後生ですから、忘れないで下さい。

アンナ・グリゴリエヴナがあなたに宜しくと言つてゐます。あなたのことを親しげに思つてゐます。我々は、今、我々のリエボオチュカ（譯者曰、リュバと同じ名。）の心配をしてゐます。あゝ、非常に尊

敬するニコラス・ニコライエギツチ、何故あなたは結婚なさらないのですか、子供を御持ちにならないのですか。それは、一生の幸福の四分の三を形づくるもので、其餘は僅か四分の一しかないことを、私は誓つて申します。

今日も亦、私はザリアを受けとらないでせうか。あなたの論文、「女性問題」を讀みたいと思つて、私は前から待ち兼ねてゐます、——何と言ふ題でせう、私は非常に楽しみにして待つてゐます。あなたは慥かに、上のやうな、必要なことを御書きになるかも知れません。私はいつも、あなたの論文の出てる雑誌を切り抜きにかゝります。私は御世辭でそんなことを言ふのではありません。御存知ですか、恐らく、我々は今年會へるかも知れません。

あなたに親しき忠實のもの

フィオドル・ドストイエフスキイ

同じ人に

一八七〇年三月廿四日（四月五日）ドレスデンにて。

最も尊敬するニコラス・ニコライエギツチ、取り急ぎあなたに御返事をします。始め、私のことを話しませう。私は非常に打ち明けて、決定的に申し上げますが、凡てを計算して、秋季號までに、小説を

お約束することは、全く出来ないし、また、さしやうと思ひません。それは、絶対に不可能であるやうに、私は思はれます。それから、私は、雑誌社に、あの人々（大作家）のするやうに、私自身の書かうと思つてゐる仕事は、邪魔をしないで下さるやう御願ひしたいのです。私は、來年の一月に書くと言ふ一事に責任を負ひます。それは、私の最も尊い思想の一つで、私は非常にうまく書かうと思つてゐるのです。今は、私は、ルスキイ・ギエストニクに、あるものを書いてゐます。私は間もなく、それを終るでせう。私は彼らに、非常に澤山借りがあります。今、私は非常に困つてゐるので、私の境遇を描いて、カトコフに金を頼むと、私の未來の仕事は、彼のものとなつて了ふことは明かです。私は全く打ち明けて辯解するのです（私はルスキイ・ギエストニクに書いてゐるものは、藝術的の見地からではなく、傾向的のものとして、信頼してゐます。例へ、藝術的方面がなくなるとしても、私はある思想を現はさうと思つてゐますが、私の心と魂にたまつてゐるものが、私を長く引きづつて行きます。それは、諷刺文以外のものではありませんが、書かねばなりません。私は成功を期待してゐます。のみならず、成功を期待しないで、一體誰が書き始めませう。）

今、私は前に申し上げたことを繰り返して申します。私は一生涯働きました、そして、前借を拂つてくれるものゝ爲に、常に働きました。それは常に斯うであつて、決して、是の外には出来ません。それは、經濟的の見地から言つて、私には悪いことです、然し、どうしやうがありません。然し、また、前借をかり、私は常に、眞實な或物をやりました、即ち、既に生れた出来る丈熟した詩的觀念の外は、

一度も賣つたことがないので、私は空虚なもので金をとつたことはありませんでした、即ち、期限をきめて、小説を作つたり書いたりした望は持ちませんでした。それと違つてゐることをしてゐると私は信じてゐます。今は、仕事をしてゐるので、落ち着いてゐたいと思つて居ります。私は間もなく、ルスキイ・ギエストニクのものを終りませう。そして、私は喜んで、小説を書き始めませう。此小説の觀念は、私に三年以前から起つたものですが、前には、外國にゐて、それを書き始めることを恐れてゐました。私はその爲に、ロシアに歸りたいと思ひました。然し、三年の中に、多くのもの、小説の凡ての企ては熱しました。そして、第一部（私のザリアに書くもの）は、こちらで取りかゝることが出来ると信じてゐます、何故と言ふに、行動が、するぶん以前に起るのですから。私が第一部と言つても、心配しないで下さい。全觀念は、非常に大きなものとなりませう、少くとも、トルストイの小説位のものとなりませう。然し、それは、五つの小説に分れませう。その中のあるものは、中の二つを除いて、獨立の小説として、他の雑誌に載せることが出来る位、それ程、離れてゐるのです。また、作物が定まつて了へば、特別に發行してもいゝのです。共通の題は、「大罪人の一生」と言ふのですが、各冊は特別の名があるのです。各篇（即ち、小説）は、十五帖以上とはならないでせう。第二の小説は、ロシアに歸らなければなりません。第二の小説の動作は、僧院の中で起るでせう。そして、私は非常によくロシアの僧院を知つてゐますけれども、それでも私はロシアに歸りたいと思ひます。私は、詳細に渡つて、あなたに話したいと非常に思ひます。手紙の中で何を言ひ表はすことが出来ませう。私はもう一度、今年とし

て御約束することは、不可能であることを申しませう。私をせき立てないで下さい。そうすれば、あなたは、良心のあるもの、即ち、恐らくよくなるものを得られませう。此観念は、少くとも、私の未來の文學的生涯の目的となりました。(何故と言ふに、もう六七年の外は、生きて書くあてがありませんから) ザリアが、前借で九ヶ月金を借しても、怒らないことを望みます。私は時として、二ヶ月間、前借をかりてゐることがあります。少しも種を播かすには、何にも收穫することは出来ません。そして、ニコラス・ニコライエギツチ、私が減茶苦茶なことを言つてゐるのではないことは、あなたが正しく御承知です。然し、境遇が斯う言ふ風に成つてゐるのですからね。それに、金の額は、實際、大したものではないのです。私が他の人に頼むとすれば、當然、私の作は彼らのものとなつて了ひませう。私は常に正直な文學者であつたのです。私はザリアの爲に働きたいと思つてゐます、何故と言つて、その傾向は私の氣に入つてゐるのですから。ニコラス・ニコライエギツチ、私は只一事を眞面目に御願ひします。此事件が可能なら、深切な舊友として寄稿者として、出来る丈早く、私に報らせて下さい。私の因窮は、非常に大きくなつて、時日を無駄にすることは出来ないのです。それで、私は必ず知らなければなりません。私は妻と子供を負擔に持つてゐます。それから、私には安靜と保證のある生活が必要です。カシユピレフに、^{カシユ}諾か否か、何か決心して貰ひたいのです。せめても、それを知らなければなりません。何故と言つて、私の時日は尊いのですから。今の場合、否と言ふ返事は、ぐづ／＼してゐる諾と言ふ返事より、もつと有利なのです。何故と言つて、時間を駄目にしないからです。

私は非常な喜びをもつて、ザリアの三月號を読みました。一切のことを理解することの出来るやうに論文の續きを、待ち遠しく思つてよみました。あなたは、西歐主義者として、殊にH………(譯者曰、ロシアの社會主義的文學者、ヘルツェンのこと)をして代表せしめんとし、ロシアと對照して、西歐のことを話さうとなしてゐられることを私は豫知しました。そうではありませんか。(譯者曰、ザリア第一號の「ヘルツェンの文學的生涯」のことを言へるなり)あなたは、幸ひにも、重なる點をつかまれました、H………は、ベシミストです、然し、彼の懷疑は、解決すべきものではないと眞にあなたは御認めになるのですか。(誰に誤がありませう、クルボフなどですか)あなたはそれを避けてゐられると私は思ひます。私の考ふる所によると、あなたは、殊にあなたの根本觀念をあらはす爲に、さうなすつたのだと思ひます。とに角、私は、論文の續きを熱心に待ちに待つて居ります。問題は、餘りに烈しく、餘りに時事的です。H………が多く他の人の前で、西歐は腐敗してゐると言つたとあなたが證言される時、それはどんなものでせう。グラノフスキイ時代の西歐主義者は、何と言ふでせう。私はあなたの言はんとしてゐられるものは知りませんが、只私は察してゐるのです。時に(それはあなたの論の主題のことではないのですけれど)H………の生涯の重なる意味を定め、立てるには、尙一點ありはしないでせうか。それは、常に、至る所、彼が殊に詩人であつたと言ふことです。彼に於て、全生涯、詩人と言ふことが、至る所、一切に特色でありました。騷擾的の詩人、社會主義的政治的活動詩人、哲學詩人、最高の詩人。それは彼の天性の財産であります。それで、彼の活動、輕舉に於て、多くのものを説明すること

が出来、最高の道徳的、哲學的問題に於て、言葉の遊戯をする性向のあつたと説明することが出来るやうに思はれます。(それは、行きがかりで言ふのですが、彼の中に非常に不愉快なものです。『女性問題』(二日)は、すばらしくよく取り扱はれていますが、何故、ザリアでは、斷言の缺乏を見出すか、私はあなたの質問に答へませう。私は恐らく、正確に言ひ表はしてゐないかも知れませんが、あなた達は、餘りに穩かすぎると言ふのです。

彼らに對しては、手に鞭をもつて書かねばなりません。多くの場合、あなたは、彼らに對しては、餘りに智識的にすぎます。あなたが、彼らを、もつと烈しくもつと亂暴に攻撃なさるならば、一層いゝでせう。虚無主義者も、西歐主義者も、鞭を要します。あなたのトルストイ論で、あなたは、彼らにあなたと一致するやうに頼んでゐられるやうな風でした。トルストイ論の最後では、ある悲み、ある刻滅にさへも陥られました。然るに、私の考では、調子は、鐵面皮な程、得々たるもの、喜々たるものでなければなりません。さて、彼らがあなたのコシツアの手紙の中で、あなたの微妙な美しい精神を眞に理解したことゝお思ひになりますか。私が、コンラヂ夫人が、ピサレフを模倣したと言ふことをこゝで讀んだ時、又、あなたが驚いて、あなた自身を馬鹿であるとか卑怯者であるとか考へる筈はないと感じながらも、通信者に、『私を正しく理解するやう御願ひする。』と願はれた時、——私は、聲を立てゝ笑ひました。それでは、あなたは、かゝる調子で彼らを理解せしめることが出来ると思つてお出でになるのですか。要するに、あなたは、かゝる調子を取る筈はないのです、何故と言ふに、あなたの眞面目さ、愛、

仕事の尊重は、今は、雜誌の精神なのです。そして、此精神は高いもので、すばらしくも、ザリアの根原とさへもなつてゐるのです。然し、屢々、私の考では、身を防ぐ爲ではなく、自ら、出来る丈猛烈に攻撃する爲に、調子を低め、鞭を手にしなければなりません。私が斷言と言ふ言葉を言つて、悟つたのはこれです。でも、私は恐らく、判斷を間違つたかも知れません。それは熱烈な心によるのです。

トルストイに就いて二行ばかり書きます、トルストイが、我文學界の偉な凡ての人と匹敵するとあなたが仰つたのに、私は賛成することは出来ません。そう言ふことは絶対に不可能です。プウシユキンやロモノゾフは天才です。「ベートル大帝の黒奴」や、「ベルキン」に現れるものは、今迄、人々が何でも言はなかつたやうな新しい天才の言葉で全く表はされてゐることを意味します。然し、「戦争と平和」に表はれるものは、プウシユキンによつて、既に言はれた新しい言葉の後に生じたものです。彼より以前、始めて天才によつて言はれた此新しい言葉を、如何に高く遠く、トルストイが言ひ表はしたにもせよ、どんな場合だつて、そう言ふことが出来ます。私の考では、それは非常に重大なことです、それに、私は、數行で、全部自分の考を説明することは出来ません。

許して下さい、だが、チャエフの小説、「祕密の力」は大變私の氣に入りました。それは非常に詩的です、今の所、それはよく書かれてゐます。何故、あなたはそれを見逃されたのですか。「繼母」は、作物としては一層眞面目なものです、然し、それは小説ではありません。それは詩です。(即ち、彼は購讀者側から言つて、必要的見地から、皮相的に批判するのです。)

アンナ・グリゴリエヴナは、あなたに心から宜しくと言つてゐます。あゝ、ニコラス・ニコライエギツチ、出来る丈早く歸りたいものですね。

エフ・ドストイエフスキー

追伸、——私は繰り返し言ひますが、憐れた舊友として、早くあなたの御便りを得たいと待つてゐます。それから、私は非常に金に困つてゐます。カシユビレフが、諾と言つて、送金を延引しなければ、非常にいゝのですが。

ダンレフスキの本「歐洲とロシア」が別々に出るのか如何か、おきゝするのをいつも忘れてゐました。それはどうなるのでせう。後生ですから、報らせるのを忘れないで下さい。

アポロン・マイコフに

一八七〇年三月廿五日 ドレスデンにて。

善良にして尊敬すべきアポロン・ニコライエギツチ、始終あなたに手紙を書かうと思ひ乍ら。返事を書くのをばしてゐたことを許して下さい。然し、其は第一に私の仕事の爲で、第二には私の健康の爲でした。私は神経病となつたのです。其は私の孤獨から來たのです。私は自分の健康に就いて心配した私の心臓は不規則に脈をうつてゐます。そして眠ることが出来ません。私はそれで醫者の所へ行きました。

た。有名なプロフェッサアですが、私をすつかり診察して言ひました。「何でもありません、神経です。然し、神経が非常に亂れてゐます。ドレスデン以外の何處かへ行つて夏をお過しにならないといけません。海に海水浴をしにいらつしやるのもいゝでせう。」其は私の妻に取つてもいゝことなんです。また、田舎の空氣を呼吸しに行くほどいゝことはありません。此の事に就いてあなた手紙に書いてくれた事は純粹の眞理、眞理中の眞理です。然し、アポロン・ニコライエギツチ、あなたは、如何して私は歸ることが出来ないか、外國を去ることが出来ないか、御存知でありませんか。私が歸ると直ぐ負債の爲に牢獄に投ぜらるゝのをあなたは快しとするのですか。ある時が來るまで、歸國と言ふことを考へるの力は全く不可能です。あなたは私が悲觀してゐない、ロシアに歸ることを心から望んでゐないと思ひですか。私の妻は如何に悲觀してゐるでせう。妻が斯く悲しんでゐるのを見るのは私に取つて氣持がいゝとあなたは思ひますか。それから、私は利益の點から見、私の仕事は今日よりも三倍もうまく進むと言ふことをいろんな事實から全然信じてゐます。親愛なる友よ、其事に就いて、私の考へてゐることをすつかり話して下さうと思ひます。私はあなたに誓つて言ふが、私はそんな事は考へない、一生涯、もう負債をしなくても私は必ず負債の爲に牢獄に入れられるのです。年月が經つて、私は放免せられるでせう。然し昔なら、(五年以前なら)私はさうしてもいゝが、今は——はつきり解つてゐます——其は全く出来ない相談です。私の健康を以てしては、牢獄の地に六ヶ月も耐へることは出来ないでせう。殊にそうすれば仕事は出来ないでせう。然し、私は啓發すべき多くの問題を持つてゐます。こゝの仕事に就いて、あ

あなたは金言を言った。實際私が後れてゐるのは、時代の見地からではなく、我國に起る所の知識から見てです。(私はそれをあなたよりよく知つてゐる。何故と言ふに、毎日私は三つのロシヤの新聞を最後の行までよみ、二つの雑誌を受取つてゐるから。)然し、私は生活の生きた泉から遠のいてゐます。概念から遠ざかつてゐるのではなく、其本體からです。如何に其は藝術的の仕事に關係することとせう。凡て其は本當です。けれども、如何しやうもありません。私の債権者と和解し、一年の猶豫を與へてくれることを彼れ等に願ひ、其時に凡てを支拂ふことにしやうか。彼等は同意してくれるでせうか。半分支拂つたら、彼等は多分一年猶豫してくれるでせう。私は其事を夜も晝も考へてゐます。三千留拂つても彼等は多分猶豫してくれるでせう。然し、彼等と交渉することさへも、困難です。彼等がペテルスブルグに居るか如何かは誰も知りません。皆なくてはなればなりません。そうでなければ方法がありません。つまり、今の所で、催促の烈しい借金、即ち四千留の證書があるに相違ないと思ひます。そこで、償還すべき金二千留と、こゝを立つてペテルスブルグに歸る爲の一千留なければなりません。そこで私に必要なのは三千留となる譯です。何處で其を得ることが出来やう。然し、信じて下さい、それで私がペテルスブルグを去つたとしても、二年間の中にすつかり支拂ふつもりです。然し、私が去つたのは、ベチヤトキンが私を追跡し、人が其を私に豫め報らせたからです。あなたは私が如何すればいゝかと思ひますか。やつと結婚したばかりなのに、私が牢獄に入るのであるか。私はそんなことに堪へることが出来ないで、私は飛び出したのです。——これですつかりです。

それで、或事が成り立つてから、今年の夏其事を眞面目に考へやうと思ひます。今、私はルスキイ・ギエストニク誌の爲に仕事をしてゐます。私は彼等に金を借りてゐます。「永久の良人」をザリア誌にやつたので、私はルスキイ・ギエストニク誌と面して同じやうな境遇に陥りました。私は彼等の爲に書いてゐるものを如何しても完結させなければなりません。(譯者曰、これは彼の傑作「悪黨」のことを言へるなり)私は其を彼等にしつかりと約束したので、文學に於ては、私は正直な人間です。私が書いてゐるのは、傾向的のもので、私は非常な熱心を以て自分の考へを表はしたいと思ひます。(虚無主義者と西歐主義者が私は保守主義者であると叫んでゐるのは是が爲です。)然し、そんなことは頓着しない。私が考へてゐることを最後の言葉まで言はう。そして、あなたは私がどれ程苦しんでゐるか御承知ですか。私はこれがいゝか悪いか全く決定することが出来ません。ある時は私は此が非常に成功して、再版には金を取ることが出来るやうに思はれますが、又ある時は、全然不成功に終るやうに思はれます。然し、平凡な成功を得るよりか、全々不成功に陥つた方が宜しい。あなたが、「永久の夫」を見て、「想像の努力」を注意して下すつたことは、私の心を粉碎してしまひました。如何に其は私に苦痛を與へたこととせう。然し神の恵を望む。成功をあてにしないで、熱心に働くことが出来ません。私は熱心に働いてゐます。それで、私は希望を持つてゐるのです。然し、あなたが私に示してくれた好意をステロフスキイ其他の者を訪問して下つたことを私は未だお禮を述べませんでした。そうしてくれて、あなたはどれ程のことを私の爲にしてくれたか自分で思ひはなされるまい。あなたは私に心の平和を與へてくれた。

私の出をいやしてくれたのです。あなたは、(あなたにのみ只) 私は後で凡てを告白しやうと思ひます。ボオルが私を欺いたと私は思つてゐます。如何に私は苦しんだか、如何に私は彼の爲に祈つたでせう。終に、あなたの御手紙で私の疑はずつかり晴れました。彼は輕卒な子供にすぎません。彼は善良で正直です。繰り返して言ふが、あなたは私の心の傷を癒してくれました。ステロフスキイなんぞのことは如何なつてもかまひません。私はそれで或る程度までは満足してさへゐるのです。此する者と係はり合つたことは非常に苦しいのです。

然し、私は今恐しい境遇にゐるのです。(ミスタア・ミコウバア) 一錢もありません。私に金が出るまで秋まで生活しなくてはなりません。ルスキイ・ギエストニク社に請求することは殆ど不可能です。第一、人々は其を拒むでせうし、第二は際限もなく前借することになります。私は彼等から慥かに金は受け取れるのですが、其は只秋になります。然し、其時は非常な金額を受け取ります。今私があなたにどんな事を書いてゐるか慥に知つてゐます。然し秋まで生活する金がないのです。あなたは私がこゝで消費してゐる、贅澤して暮してゐると思つてゐます。八月月前私がドレスデンに着いた時から、あなたはそう思つてゐるのですか。私は殆ど月百タアルで、「永久の良人」で生活してたのです。然し、お産があつて、手當をしなければなりません。其で高くついでるのです。其爲に私は負債を契約して今日まで借金してゐるのです。一ヶ月前ニコラス・ストラホフがザリア誌に寄稿するやうに私にはつきり申込んで來ました。明年に私がカシユビレフに小説を送ると私は返事を出しました。然し、直ぐに五

百留送り。百留づゝ五ヶ月間送り、すつかりで千留になるやうにとの條件です。私に取つて其は多くではありません。カシユビレフはステブニツキイに一年の前借で千五百留ばかりやりました。(前借をやらない雑誌を發行することは全く不可能です。何故と言ふに、さうすれば作者を凡て失つてしまふから)ニコラス・ニコライエギツチはカシユビレフが承諾したこと、四月に金を送ること、然し、今年の秋に私の作を送らねばならぬと答へて來ました。私は今年中には不可能だと返事しました。それにカシユビレフ自身は私に何とも言つて來ません。私は彼等の決定的の返事を待つてゐます。私がかもう一度ルスキイ・ギエストニク誌と契約したならば、私の將來の小説は永久にルスキイ・ギエストニク社に屬して了ふと言ふことを思つてもください。此度ルスキイ・ギエストニク誌に書いてゐるのは、屹度三ヶ月で終るでせう。それから一ヶ月間休息した後に、私はザリア誌の爲に働き始めます。私が仕事をしなくなつてから一年半にもなる。私は、書きたいといふノスタルジイを感じてゐます。(私は「永久の良人」は算へない。)ルスキイ・ギエストニクに書いてゐるのは、私を澤山は疲らせない。それ所か却つていゝものを約束します。私はうまく書かうと思つてゐます。ザリア誌に書かうとするものは二年前から私の頭腦に熟してゐたものです。其は既にあなたに話したと同じ考へです。

此は私の最後の小説となるでせう。其は殆ど「戦争と平和」位の大きさとなるでせう。あなたは其思想を賞めるでせう。若しも私が、我々の古い會話のことを思つたならば、此小説は五つの大篇から成り立つてゐるのです。(各十五綴です。)二年前から凡ての計畫は熟してゐました。各篇は全くきり離れて居

つて、別々に賣ることが出来るのです。私はカシビレスフに第一篇をやると定めます。其は事件がまた一八四〇年頃に起ることになります。(全作の題は『大罪人の一生』と言ふのです。然し、各篇は別々の題を取ることになります。)(譯者曰、此篇は後の『カラマゾフの兄弟』となりて表はれたり。然れども此大計畫は彼の死したる爲未完了に終れり)全部を通じて遵かれたる主要の問題は、私が全生涯有意識的にも無意識的にも苦しんだ同じものです。即ち、神の存在のことです。主人公は其生活中或は無神論者となり、或は信仰家となり、或は狂信者となり、宗派論者となり、又、更に無神論者となるのです。第二篇は全部僧院で起ることになります。私は凡ての希望を第二篇におきます。人々は私は駄作の叶は書けぬだらうと言ふかも知れない。アポロン・ニコライギツチ、あなたにのみ私は告白する。私は此第二篇で主要人物としてチホン・ザドンスキイを表現せんと思ふのです。勿論、他の名で。然し、其は同じく僧院の中に引込んで生活してゐる僧正です。罪惡の共犯人なる十三歳の子供、利巧で墮落してゐる子供、(私は此タイプを知つてゐる)が、勉強する爲に、我々の知識階級の親によつて僧院の中に閉ぢめられる。此虛無主義の子供の小さい狼がチホンに會ふ。(あなたはチホンの性格と人物とを熟知してゐます。私はチャアダエフを勿論他の名で此同じ僧院の中におく。如何して、チャアダエフが僧院の中で一年間暮すことが出来なかつたか。彼の最初の論文の爲に、彼は毎週醫者に試験されたのであるが、此論文を書いてから、外國で、例へば佛蘭西語で本を出版せすにはゐられなかつたと私達には思はれます。此場合に、人々が彼を一年間僧院に送ると言ふことは有り得べきとでありませう。チャアダエフは例へ

ばベリシスキイやグラノフスキイやブウシユキンからさへも訪問をうけることになります。(何故と言つて、私が想像してゐるのはチャトダエフではなくて自分の小説の爲に彼のタイプを取つたのですから。)

此僧院の中で、人々はプロシヤ主義のホオルやゴルベフやバルフェニ僧に會ふようになります。(私は此人々を見知つてゐます。私は子供の時からロシアの僧院を知つてゐます。然し、特に、そこにはチホンと若い子供とがゐるのです。どうぞ、後生ですから第二篇の筋が何であるか人に言はないで下さい。私は自分が計畫してゐる筋を誰にも前には決して言はないのです。其は私を苦しめます。あなただから告白するので。其は他人に對して何等價值のあることではないでせうが、私には尊いことなのです。それで、チホンのことは言はないで下さい。私はストラホフに僧院のことは言つたが、チホンのことは言ひません。私は大きな眞面目な聖い人物をうまく創造するか知れません。其はマスタンゲオゾロフでもありません。オプロオモフの中の(名前は忘れましたが)獨逸人でもありません。又、ロブコフやラクメトフと言ふ輩でもありません。彼は眞實の人物です。私に長い前から心の中に楽しく抱いてゐた眞のチホンを再現するしか何にも創造することは出来ません。若しもそれが成功すれば、私は此を重要な作物と見做ませう。それで、人には言はないで下さい。然し、此小説の第二篇を書く爲、即ち僧院を描く爲に、私はロシアに居らなければなりません。あゝ、それがうまく行けばいいが。第一篇は我主人公の少年時代です。勿論、描くのは子供達のことではありません。そこには物語りがあります。外國で幸ひにも其を書くことが出来るから、私はそれをザリア誌にのせるのです。彼等は私を拒むでせうか。それ

に一千留は大した額ではありません。彼等は何と思つてゐるだらう。こんな風にしてゐれば、いゝ機会がなくなつて了ふ。其上、此は彼等に關係してゐるのです。昨日私はストラホフに手紙を書きました。役の決定的の決心を私に早速報らしてくれらうに頼みました。さうでなければ、時機を失せず、私は他のことを企てねばなりません。ルスキイ・ギエストニクに言つてやつたとしても、時機 斯うして過ぎて了ふでせう。——せめて彼等がザリアの返事を遅らせてくれなければいゝが。(何故と言ふに、私は小説を全部書き上げるには充分六年間要すると思ひます)私の爲にあなたが一言ザリアに言つて下さることが出来れば、言つて下さい。何故と言つて、今ルスキイ・ギエストニク社に話を持ち出すのは非常に困難ですから。三ヶ月過ぎれば別問題ですが。私は自分でザリア誌の爲に働きたいのです。彼等の傾向は最も私に適してゐるものです。幾分か少し遠慮して言つても全く其通りです。さあ、彼等は如何に思つてゐるでせう。私をせつばつた所まで押しつけたのは私の貧困です。さうでなければ申込をするに取らぬしりません。いゝですか、私が一雑誌と關係するや否や、彼等は其を書き終るやうに私を急がせます。彼等は最も短い期間で用意するやうに直ちに言ひます。然し、私は期間に煩はされるよりか死んだ方がましです。ルスキイ・ギエストニク社のみは只一人私を困らせません。何といふいゝ人達でせう。

親愛なるアボロン・ニコライエギツチ、何處からあなたはヤノフスキイに關する考を引き出して來ましたか言つて下さい。私は其事を一度も一瞬間も考へませんでした。あなたの手紙で其を讀んで、私は

非常に驚きました。それに、私は此事に就いてヤノフスキイの話をすつかり知つてゐません。こんなやな何かと彼に起つたのですか。

虚無主義に就いては何も言ふものではありません。ロシアの土地から根こぎにされた此上つつらの卵は終には腐つて了ふから待つて、御らんなさい。此卑しい邪道の青年中の多くは遂に純粹に祖國に忠實なるロシア人となるだらうと私は思ひ浮べました。その時、他の者は腐つて了ふのだ。終には、彼等は中氣にかゝつたやうにまた沈黙して了ふでせう。然し、彼等は何と言ふ醜いでせう。

アンナ・イヴノヴナの考は非常にアンナ・グリゴリエヴナ(譯者曰、彼の第二の妻なり)を感動させました。我親愛の妻は野心家で傲慢です。然し、私が彼女と一所になつて如何に幸福であるかあなたが知つて下すつたら。其は只不幸です。其爲に未だ歸ることが出来ないのです。然し、それでも、多分私達は歸ることが出来るでせうか。リュバ(譯者曰、彼の子なり)は齒を悪くして苦しんでゐます。然し、彼女は非常に丈夫です。あなたは此子供を見てびつくりするでせう。然し、アンナ・グリゴリエヴナの母のアンナ・ニコライヴナがなかつたら、私達のリュバは死んでゐたでせう。彼達があるければ、私達は失はれて了ひます。

あなたにきゝたいことは何といふ澤山あるでせう。然し、また他日にします。私はすつかり忘れないで下さい。私を捨てないで下さい。何故と言つて、私はあなたの永久の誠實なものですから。

アンナはあなたにアンナ・イヴノヅナに宜しくとのことです。私はアンナ・イヴノヅナに見ての尊敬を捧げます。彼女がアンナに言つて下さつたい、御意見を心から私に感謝します。

時に、一ヶ月前、カシユビレフは私に四留送つて来て、五十留から百留の額があるやうに付け加へて言つて来ました。然し、彼は未だ其を送つてくれません。若し、本當に少し残額があれば、何卒彼が送つてくれるやうに、少しほのめかして下さい。私に取つて五十留は非常に非常に大した額です。

ストラホフの批評はあなたの氣に入りましたか。私は其を非常にいゝと思つてゐます。

ストラホラに

一八七〇年五月廿八日、六月九日、ドレスデンにて

傑れたニコラス・ニコライエギツチ、私はあなたの御手紙を感謝致します。

あなたは、いつも斯う言ふ短い手紙をお書きになります。だが、私を動かす天稟を持つてゐます。あなたの批評家としての仕事に對するあなたの御考は、非常に不完全で、不正確だと思ひます。第一、私は斯う考へました。あなたの批評が存在してゐないならば、批評が、眞面目な嚴正に有益な作として見ることは出来なくなるので、我全文壇中、もう人がゐなくなる譯です。書いてゐる批評家には、過去及び現在の事實の明かな哲學的解釋を與ふる必要を幾分か感じてゐる人（それを尊重してゐる人）従つて、

批評、即ち、それらに直接に關する物に、重大意義を與ふること出来る人はゐなくなります。それで、批評を眞面目に、哲學的に見る方法、他人のもつてゐない所のもので、ザリアをして、批評を有し、正しき方法でそれを批判する唯一の雑誌たらしめるのは、あなたのすべきことなのです。（ルスキイ・ギエストニクでは、批評は輕々しいのです。それが、雑誌の方針の一般的調子よく一致してゐるのは事實ですが、餘りに皮相的です。）それで、あなたが、此の功績のみをもつてゐられたとしても、それで大したものなのです。それから、その影響はそんなに早く生じないものであること、現代社會の矛盾は、よくある意味を有する、即ち、運動の法則を有するものであることを、あなたに言ふのを許して下さい。最後に、あなたは、彼らの上に及ぼす印象や、あなたの論文の直接に有益なことを、批判される何らのボツシビリテイも持つてゐられないと言ひたい。それが、あなたがゐなくても、同じく斯様に考へる人々にのみ只書かれたものであるか如何かを知ることが、あなたには出来ないのです。それは本當ではありません。

然し、私の考で、影響を批判するに、あなたの出發點となるものは、下のものです。ザリアは、殊に、方針と批評の雑誌です。二三年の中に、購讀者が増えて、その影響を公衆に及ぼしませう。同時に、隨かに、批評の影響があります。何故と言ふに、批評に、ザリアの根本的性格で、公衆に對する特性です。例一、無意識であつても、公衆は常に著しいものとなります。

けれども、私は、あなたがストルウフのことを澤山言はれるのだと思ひました。少くとも、善意の爲

にです。私は哲學の智識は浅いのです。(然し、私は非常にそれを愛して居ります。哲學の愛は、私の心の中に強烈なものです。)のみならず、注意して、ストルツフの問題を讀むと、精神の物質化が、私に非常に新奇なものに思はれました。これが、現今の態度で、推理の最後の態度で、ドイツの哲學だと知ると、此問題は、かゝる見地から、私に奇妙なものに思はれました。ニコラス・ニコライエギツチ、只、彼らは、あなたを、古く昔の溯及家であること取り、長い前から、銃を使ふやうになつてゐるのに、尙、弓や矢を手にする人と取ることを御存知ですか。私は、あなたの論文を、二度も、喜んで讀みました。のみならず、あなたは、すてきによく書いてゐられるのです。あなたの文學的言葉は、凡ての他のものよりも傑れてゐます。そして、あなたの思はれる通り、終ひには、それは凡ての人々に注意せられるであります。あなたが、哲學を言ふ現在の態度に、かゝる輕蔑を以てせられたことを、私は非常に嬉しく思ひます。然し、私は、彼らがあなたに返答することを非常に望んでゐます。現在の全文壇に於ける教漫な調子は、何たることでせう。觀念の不秩序と、擾亂とは、言ひますまい。彼らは、わざ／＼自己を出さんとしてゐるに相違ありません。然し、此一般の調子は何と言ふ書き流し、何と言ふつまらなさでせう。それが何であれ、しつかりとして得た觀念はありません、偽りのものでもないのです。彼らはどんな哲學を有してゐるのでせう。何と言ふ通俗作家でせう。凡てそれは何らの價值もありません。然し、考へてゐる、影響を及ぼすことの出来る統一があります。それは、常に、斯様に、混亂の中に、起るものです。此統一が公衆の不秩序に打ち勝つことが出来るならば、公衆は、彼らの調子をば、採用す

るやうになることが御解りになりませう。

時に、コロツス新聞の奥の論文で、カトコフのものをもう人は讀まなくなる程、全然彼を葬り去つた若い先生は、誰ですか。此仕合せ者の名は何でせう！大至急それを書いて下さい、後生ですから、それを報らせて下さい。久しい以前、二十年以上も前に、イギリスに「虛榮の市」が始めて現はれた時、私は、クラエフスキイの所へ行きました。私は、ヂツケンスが多分新年に翻譯の出来るものを書いてゐると彼に言つたことがありました。クラエフスキイは、突然、私に言ひました。「誰ですつて！ヂツケンスは葬られました。今、現はれんとしてゐるものに、サツカレイがあります。彼は彼を全く葬り去りました。誰も、もうヂツケンスを讀むものはありません。」と。私は、ザリアで、此先生に就いて、あることを見ました(ニコラス・ニコライエギツチ、此先生の名を書いて下さい。後生です。それから、尙、あなたに尋ねたいことがあります。あなたは、レオン、トルストイを個人的に御存知ではありませんか。あなたが御存知なら、どうぞ、彼がどうしてゐるか書いて下さい。彼に就いて何か知ることは、私には非常に興味あることです。私は彼のことに、彼の私生活の噂は、殆ど聞きません。

私は、ルスキイ・ギエストニクの爲に、非常に熱心に働いてゐます。私は、それがどんな結果を來すか殆ど豫知することは出来ません。私は今迄、決して、斯様な題、斯様な種類のものを取り扱つたことありませんでした。今年、ロシアに歸國する策を講じやうとする考は、私を苦しめてゐます。私はそれに全努力を費しませう。あゝ、ニコラス・ニコライエギツチ、外國に生活すると言ふことは、私にと

つて如何に苦しいものでせう。私はそれをあなたに説明することは出来ません。

非常に尊敬するニコラス・ニコライエギツチ、私はあなたに一つの御願ひすることがあります。あなたに御面倒をかけるのを恥ぢますけれど、どうぞ、それを聞いて下さい。私の御願ひは斯うです。

グシリイ・ヴラヂミロギツチが、毎月の十五日、百ルウブルづゝを毎月私に送ることを約束した（私にちやつと手紙をよこして、自分で日附と期限とを書いてよこしたのです）ことを、あなたが御存知ないことはありますまい。こんな風に、送金は、我國の曆で五月十五日と、彼自ら定めたのでした。然るに、今は、五月廿八日になります。私は何も未だ受けとつては居りません。……

斯う言ふやり方は、如何に、私の一切の用事、生活の方法を狂はせるものであるか、あなたは御信しになることも出来ません。私はあの時、自分の身を整理しました、五百ルウブルは、凡べてなくなつて了ひました。（私は、彼らに、非常な負債と借りがあるのです。）私に送られた五百ルウブルは、丁度、五月十五日まで持つて居りました。そして、宿料、買物、修繕、凡てはたまりました。それから、子供が病氣になり、醫者が來ました。この上言はずとも、それが私の仕事にどの位障るか、あなたは御想像も出来ません。數日間、仕事をすることが出来ないやうになることがあります。第一の送金が、（毎月百ルウブルと約束したのです。）斯様に不随かなことになるならば、後に他の送金は如何なることでせう。今は、もう夏です。あなた達皆は、田園に行かれます。今は、休息の時です。人々は、全く私を忘れて了ふでせう。そして、私は、今年の終りでなければ、ザリア以外から何物も受けとる望がないのです。

私はどうしたらいいのでせう。私が正確にやらないのなら、彼らが怒つたつていいのです。

私はあなたに誓つて言ひますが、此感情が如何にあなたに滑稽に思はれるにもせよ、送金の正確なこととは、金自らよりも、私にとつてもつと重大なことです。終ひには、どうにか斯うにかして、金はやつてくるでせう。然し、安靜、苦勞を除く可能性は、もうやつて來ないのです。それは亂されるでせう。心があなたに御願ひする凡ての望みは、グシリイ・ヴラヂミロギツチに私のことを思ひ出させて下さい。舊友として、私の爲にさうして下さい、そして、尙、斯う言ふことがあります、多は今、毎月、送金することを彼に頼んだのを後悔して居るのです。彼がいつでも、斯う言ふ風にすると言ふことを豫知してゐたのです。只、それが彼に出来るものなら。彼が一時に五百ルウブル送つてくれる方が、尙いゝではないでせうか。（それは、分割して毎月百ルウブルとの約束でしたが。）もし、それが出来るならばでもしさうでなければ、三百でも二百でも送つてくれれば、毎月、不安や狼狽を感じないでせう。それは、實際狼狽です。何故と言ふに、約五ヶ月の間、月々のルウブルの時は、何人からも少しも取ることは出來ないからです。それですから、もし、彼らが停滯すれば、生命も停滯して了ふでせう。

凡べて斯う言ふことは、つまらぬ醜い事柄です。然し、助けて下さい、ニコラス・ニコライエギツチ、グシリイ・ヴラヂミロギツチに話して下さい。私は大苦痛に陥つてゐます。妻があなたに宜しく。あなたがよく思つて下さることを感謝してゐます。彼女も病氣です。彼女は子供に乳をやつてゐます、そして、今、子供の病氣の毎、夜起きてゐます。

私の眞實の誠と同情を以て。あなたの

フィオドル・ドストイエフスキイ

同じ人に

一八七〇年六月十一日(廿三日) ドレスデンにて。

我が善良なニコラス・ニコライエギツチ、あなたの迅速な御返事感谢您します。然し、あなたの御手紙は、第一に、あなたの爲に、私を驚かしました。私の爲、カシユビレフとの迷惑に、あなたを引きこんだやうに思はれます。私はそんなことにしたくないと、どんなに望んだことせう。のみならず、私は恐らくあなたの御手紙をよく理解しなかつたのかも知れません。とも角、あをたが私の爲に取つて下さつた御骨折を感謝します。カシユビレフの拒絶は、私を驚かしました。そして、今、私は何をなすべきかさへも解らないのです。今は、私にとつて非常な危険な時です。私は續々送金をあてにして、五百ルウブルから、私の爲に少しも取つておかなかつたのです。どうして暮していゝか、私は想像さへもつきません。子供は病氣で、出費はふえて行きます。私は殆どこちらで知合を持つてゐません。私の言つてやつた時期以前に、ルスキイ・ギエストニクに頼むことは厭です。

私は、今年、ギエストニク・エヴロビを取る機会をつくりました、そして、毎號調べてゐます。それ

は私をびつくりさせました。このやうな前代未聞の平凡さが、我國で、(恐らく、ブルガリスのセゼルナヤ、プチエラを除いて)斯様な成功を拍することがあり得るものでせうか。(六千部で、二版です。)それは、凡ての人々の手にとゞき、凡ての人々に氣に入る望みのあることを意味します。それは、最後のお定りの自由主義です。それは、それこそ、我國で望みのあるものです。然し、彼らは、巧妙に、毎月の始め、版を出しました、そして、澤山の文學者がゐます。私は就中、ツルゲネエフの「トロツマブマンの死刑」をよみました。ニコラス・ニコライエギツチ、あなたは違つた意見をおもちになるかも知れませんが、誇張に満ち價值のない此文章は、私の反感を起させました。何故、彼が不愉快に思ふのですか。そして、何故、彼が、そこにある権利がないと繰り返へして言ふのですか。彼が芝居に出るやうにして来るなら、慥かにそれでいゝのです。然し、人間が、地上にゐて、地上に起るものを避け、忘れる権利はないのです。その爲に、傑れた精神上の理由が存在してゐます。"Homo sum et nihil humanum" (譯者曰、私は人間です、人類に關するものは、何でも私に無關係のものはありません、の意のラテン語なり。)そして、引きつゞいて斯様なことです。最も奇妙なことは、終ひに、死刑執行の時、彼が後ろむきになつて、最後の瞬間まで、見ないことです。『さあ、諸君、私は如何にデリケートに育つたことせう。私はそれに堪へることは出来ません。』のみならず、彼は、自己自身を裏切つてゐます。文章の重要な印象は、その結果、最極限まで、自己、自己の安全及び自己の安靜の非常な心配です。そして、それが、首の切られるのを見てさうなのです。私は一切のこんなことを、嘲けります。彼らは私を恐ろしく厭が

らせます。ツルゲネエフのことをあなたか御書きになつたけれども、私はツルゲネエフを、疲れた最も書く力のなくなつたロシアの作家の一人と見做してゐます。ニコラス・ニコライエギツチ、許して下さい。

我々の活動に就いては私は、又もや、最極度まで、一致しません。せめて、一分間でも、互に合ふことが出来れば、如何にいふことでせう。あなたは如何して一ヶ月を外國で過ごさうとはなさいませんか。旅行には二百ルウブルで、それ以上はかゝりません。もし、三百ルウブルあれば、あなたは少しは歐洲を見物出来るでせう。あなたは、私と會ふ爲に、ドレスデンに來られるでせう。それは不可能でせうか。

さようなら。もう一度あなたに感謝致します。私を見すてないで下さい。只出来るものなら、私の心配をして下さい。

全くあなたのものなる

フイオドル・ドストイエフスキ

アンナ・グリゴリエヴナがあなたに宜しく。彼女は、哺乳と心配の爲、全くやつれてゐます。それに、尙、こんなに苦勞があるのです。

同じ人に

一八七一年十月九日(廿一日) ドレスデンにて。

非常に尊敬するニコラス・ニコライエギツチ、あなたの御手紙をうけとつてから、もう三週間になります。そして、私は、今迄、あなたに御返事しませんでした。そして、屹度、あなたが何か私のことを思つてゐられるのとは信じてゐます。けれども、あなたの御手紙は、私には非常に貴重なものです。特にいふことは、あなたが更に、我々の間に通信をしようと思はれたことを、私が非常に嬉しく思つてゐると申し上げます。私が、はじめな孤獨に陥つてから、私は今迄これ程、人を尊重したことはありませんでした。此秋、ペテルスブルグに歸る望みは、實現されませんでした。方法は盡きました。尙、春まで延ばさなければなりません。ドレスデンにもう一冬苦しく悲觀してゐなければなりません。

私はあなたに返事を差上げやうとはしませんでした、何故と言つて、私は、ルスキイ・ギエストニクの爲に小説を書いてゐるのですから。私は文字通りに、首を上げることはありません。それはうまく行きませんでした、終りになつて、仕事にさゝけたものを書き終るまでは、もう読みもしまい、手紙を書きもしまい、身の周囲も見もしまいと誓つた程、私は訂正をしなければなりません。そして、それは、また始めの時は、出来てゐません。小説の中では、周囲の多くのことが書かれ、多くのことが消されると言ふことは事實です。(いゝですが、全部ではありません)けれども、私はまだ始めの方に引かつてゐます。それは悪い徴候です、けれども、私は出来る丈よく書かうと思つてゐるのです。藝術家に於ては、物語の調子と態度は、自然に生じなければならぬと言はれて居ります。それは本當ですか、

時々、人はそこで自己を見失つて、それを探し求めるものです。要するに未だ、曾て、如何なる作物も、私にこれ程の苦痛を與へたものではありませんでした。始め、即ち、去年の終り頃は、私は此物を、研充し調べたものとして見なしてゐました。私はそれを高さのあるものと讀めてゐました。それから、本當の靈感が私に湧いて來ました。——そして、急に、私は、此作を愛し、兩手で掴んで、書いたものを消し始めました。此夏、また他の變更が浮び始めました。新しい人物が、小説の眞の主人公とならんことを主張して、湧いて來ました。斯様にして、始めの主人公は、中景に引こまなければなりません。したので、私は、もう一度、作を書き直し始めました。そして、今、ルスキイ・ギエストニクの編輯局に、始めを送つてから、私は急に驚きました、主題が私の力以上になりはしまいかと恐れてゐます。でも、私は眞面目に、悲しく恐れをなしてゐるのです。けれども、私は此目的の人物を抜き取つて了ふことはしません。私は前もつて、小説のプログラムの中に、彼の役目を記入したのです、(そのプログラムは、印刷紙數帳を占めます。)そして、彼の役目全部は、舞臺に上るやうになつてゐるので、考へたばかりではないのです。それで、そこから、一人の人物が、恐らく新しい人物が飛び出して來ると信じてゐます。私は希望を抱いてゐますが、恐れてゐます。とつ／＼今は、眞面目なある物を恐くべき時となりました。そして、恐らく、私は失敗するでせうか。何はともあれ、書かねばなりません、何故と言つて私は訂正にするぶん時間をつぶして、ほんの僅かしか書きませんから。

けれども、用事にとりかゝりませう。非常に尊敬するニコラス・ニコラスエギツチ、私のザリアとの約束が破れたので、とれ程、私が苦しんだか、あなたは御想像も及びませぬ。然しもう少し行くと氣狂ひになつて了ふ程になつて來ました。私の仕事は、これ程停滞し、これ程混亂するとは豫知することが出来ませんでした。然し、私が前もつて、あるものを書き終らないとしたならば、他のことは、尙一層書くことが出来ないでせう。ザリアにのせるものは、來年になりませう、けれども、今年の終りに、その間のある時に、私はベテルスブルグに歸りませう。私の小説については、その約束を守ることが出来るか如何か解りません。二ヶ月以前、(それを渡しなから、)私には他の事情が起りました。私はあなたに只斯う申し上げます、私のあらゆる同情と希望は、ザリアに向けられてゐます、そして、私の方でザリアの爲にすることが出来れば、それは如何に少しであつても、私は幸福に思ひませう。待つて下さい、それで、あなたは批判を下されるでせう。今の所、私を許して下さい。

私はあなたの御手紙を非常な喜びをもつて讀みました。その中で私の氣に入つたところは、あなた御自身の仕事を御考へになる態度に、ある變化が起つたことです。私はあなたに言ひます、あなたは、絶対に澤山の味方を見出さねばならぬと前以て申し上げます。何故と言つて、あなたは眞理を鼓吹して居られるのですから。私は、此度のあなたの全論文の續きを、待ちに待つて居ります。その中に、眞理は、勝たねばなりません。あなたは、人々が怒鳴つてゐると仰る。だが、いゝぢやありませんか。ギエスキエストコク・エフロビのことは、それが、サン・ベテルスブルグや、其他の官吏に適する雜誌に過ぎない

のですから、(一般の意味でなく、悪い意味で)その成功したことなどは話さないことにしませう。それは成功せずには得られないのです、尙、するぶん長く、一年の間續くでせう。然し、あなたは務まれるでせう。只、ザリアに望まなければならぬことは、ギエストニク・エフロビの官僚的な正確さです。(御注意、——けれども、ロシアに存在する最良の雑誌に、正確さによつて評判になつてゐないとあなたは言はれますか。然し、彼らを模倣しない方がいゝのです。)ザリアの最近號で、あなたのボロニスキイ論をよみました。私はその餘を走りよみするしか出来ませんでした。私に暇がないのです。然し、本はすてきによく書かれてゐるやうに思はれます。凡ての論文は、讀むがまゝにされて、一時の興味に應ずるものです。アンナ・グリゴリエヴナは、アフセエンコの小説はいゝと私に言ひました。出来るならば、私も讀みませう。ボロンスキイ論は、非常に私の氣に入りました。それは、論ずる迄もなく、重大な問題です。眞の詩は、何に成り立つてゐるかと言ふことです。然し、同時に、あなたが、偽りの詩、偽善の詩は何に成り立つてゐるかに就いて御研究になつたらば、一層よかつたやうに思はれます。ニコラス・ニコライエギツチ、誓つて言ひますが、現在の公衆は、我々が青年時代と趣きを異にしてゐるのです。今日の公衆には、多くのものを説明しなければなりません。あゝ、ニコラス・ニコライエギツチ、もう少し意地悪くおんなさい。あなたは、御自分及び他の人々に、非常に有益なことをなさるでせう。のみならず、あなたは私の忠告なんぞ必要とはされません。然し、あなたは私にとつて尊い人なのです。私が第一に、あなたの論文を切つてよむのは、無益なことではありません、あなたの論文のある

雑誌を受けとる日は、お祭りの日です。

あなたの御健康は如何ですか。私は自分の健康を自負することは出来ません。それはわるいのです。今は、私にとつて、夜も晝も、激しい勞作の冬が始まりました。私は春までに凡てを書き上げたいと思つてゐます。それは、仕事をやる可能性のある、即ち、休息なしにする唯一の方法です。さうでなければ、疲れて了つて、書き終ることは出来ません。私は、悲しむべきであるが、非常に規則的な生活を、送つて居ります。毎日、私は散歩をなし、澤山の新聞、就中、二つのロシア新聞をよみます。私の考では、是らの現在の凡ての感動的な事件は、我がロシア人の生活に、従つて、文壇に、眞すぐな迅速な行動を起すやうになりませう。とも角も、非常な時代です。文學が、その影響と重大さを失ふと言ふことは信じられません。反對に、あらゆる場合に、それは勝ちを占めるでせう。然し、例へば、ロシア新聞をよみ乍ら、直ぐに、凡てのものが、如何に、無雜作に、固有の觀念なく、熟して了ふかと認められます。(いゝですか、モスコフスキイ・ギエドモステイを外にです。)親愛なるニコラス・ニコライエギツチ、あなたは、どうにかして私に返事をして下さることが出来るでせうか。あなたは私を幸福にして下さるでせう。私の方では、正確に書くことを御約束します。

あなたに眞底から忠實なる

フィオドル・ドストイエフスキイ